

九州地区大学図書館協議会誌

第 59 号

2016

九州地区大学図書館協議会

目 次

【巻 頭 言】	
「図書館の国際化」と福岡女子大学	向 井 剛・・・1
【寄 稿 論 文】	
【「個性」「知性」「感性」、そして海外の図書館事情から学ぶ】	
名桜大学附属図書館の増改築計画	小 川 寿美子・・・3
資料の価値を伝える、つなげる	
—九州大学附属図書館医学図書館での資料調査活動紹介—	梶 原 瑠 衣・・・6
【図 書 館 紹 介】	
九州大学附属図書館伊都図書館	・・・10
九州大学附属図書館新中央図書館	・・・13
琉球大学附属図書館本館（志喜屋記念図書館）	・・・15
【加盟館ニュース】	・・・19
【Library Lovers'キャンペーン 国立大学図書館協会賞受賞報告】	・・・42
【図書館活動報告】	・・・44
【事務局報告】	・・・56
【協議会総会記録】	・・・58
【資 料】	
九州地区大学図書館協議会会則	・・・70
九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則	・・・71
九州地区大学図書館協議会入会に関する細則	・・・72
九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規	・・・76
九州地区大学図書館協議会表彰規程	・・・76
研修会の補助に関する申合せ	・・・81
副幹事館の役割	・・・83
九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について	・・・83
加盟館一覧	・・・85
役員館一覧	・・・89
総会当番館一覧	・・・93

「図書館の国際化」と福岡女子大学

福岡女子大学学術情報センター（図書館）長
向井 剛（むかい・つよし）

■はじめに

与えられた課題は「図書館の国際化」である。

福岡女子大学は平成23年4月の国際文理学部設置を契機に、国際と文理統合の教養教育を標榜する大学に大きく舵を切った。しかし、国際化の道のりはいまだ道半ばである。①英語教育を重視したカリキュラム（15単位必修の「学術英語プログラム（AEP）」）の導入、②海外主要大学との交流協定の締結（現在、17か国、28大学）、③学生の派遣と留学生の受入（1学年240名のうち、120名程度の短期（語学・体験）海外研修派遣、約30名の長期留学派遣、定員20名の正規私費外国人留学生。加えて、協定校から約20名の特別プログラム参加学生の受入）、④教職員の海外研修派遣（女性教員と職員の派遣事業）、⑤国際研究活動のための提携校間コンソーシアムの構築と研究活動の推進、⑥「食文化」に関する協定校間の夏季教育プログラムの運営、など国際分野において学生と教職員の教育・研究活動に資する仕掛けを短期間のうちに整えてきた。

今後、こうした活動をいかに充実・発展させ、質の向上を図るかが問われるが、その一方で、国際化に後れを取る領域も多々ある。キャンパス内にある諸施設の多言語表示、ホームページや学生向けに発行される（入学試験案内から授業科目・シラバスに至る）各種文書の英語化、英語による授業運営、4学期制への移行、授業科目のナ

ンバリング、職員の英語対応力、そして本課題である図書館の国際化などである。

■現状と課題

本学図書館は、平成26年4月に新しい建物（研究棟と一体化）に移転し、漸く所蔵書籍類がそれぞれの居場所を定め、落ち着きを取り戻したところである。

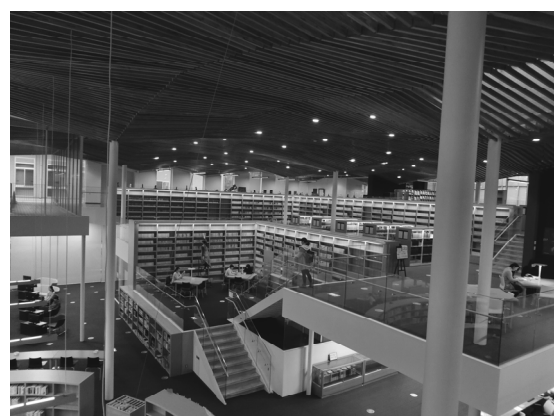


図1 図書館1階～中2階（2階から撮影）

安息を求めるこの間に、新たに2つの大学院研究科（修士課程）が設立され、また来春（平成29年4月）には各研究科に博士後期課程が発足することになった。学習図書館から研究図書館への発展・充実が喫緊の課題となる一方で、他大学の例にもれず、社会の求めや学びの変化に応じ、地域社会への貢献のあり方、学生の自主的共同学習の場としての図書館のあり方が、問われている。前者には、地域住民や同窓会会員への図書館アクセスを容易にし、公立図書館との連携（図書貸借）を深め、図書館が持つ資源をもとに講演会など各種イベント

を企画・運営することで、応える道を探る。後者には、他の大学同様、ラーニング・コモنزのスペースを図書館内に設けて活動の場としたが、課題は、現在の学生が（また教員の授業が）こうした共同学習の機会を必要としていないことである。ひとり図書館の努力で果たせるものではなく、教員との連携あるいはそれを支援する専属スタッフの配置が強く望まれるところである。

■「インターナショナル・ラウンジ」の展開

本学ラーニング・コモنزの活動が一部活発に展開されている事例がある。それは大学の国際化と関係するが、コモنزの一角にインターナショナル・ラウンジがある。ここでは、学生の自主的活動として、日本語、英語、フランス語、ドイツ語、韓国語、中国語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語のカフェが、毎週、火曜日と木曜日の、主に昼食時に開催されている。国際学生や留学を終えた学生が、図書館内外で日本人学生とともに熱心に語りあう姿は、ラーニング・コモنزの今後の発展に希望を抱かせるものである。



図2 ドイツ語カフェの様子。ドイツ語の学習だけでなく、遊びの感覚を取り入れながら、ドイツの文化について知識を深める取組がなされている。

図書館は、今や、活動スペース、静粛スペース、沈黙スペースにゾーニングされるのが国際標準になってきている。本学図書館は、こうした区分を壁で仕切る構造にな

ってはいないが、この不都合も襖により部屋の機能を変化自在に変えた日本人の見立ての知恵により、克服できるものと考えている。

■「図書館の国際化」に向けて

さて、課題の図書館国際化の問題である。現在、取り組んでいる項目、あるいは取り組むべき項目は次のとおりである。

- 1) 教育の国際化を進めるための図書充実
 - ・海外体験インターンシップ参加に向けた関連図書の充実（「大学教育再生加速プログラム（AP）」による）
 - ・日本文学・芸術・生活・文化領域の英語図書の充実（「大学院実習費」による）
- 2) 館内各種サインの英語表示化
- 3) 「利用手引き」の多言語化
- 4) ラーニング・コモنز（インターナショナル・ラウンジ）専属スタッフの配置と人材の育成
- 5) 国際学生向けの図書館利用に関するワークショップの開催

大学の特性と規模に応じた図書館づくりが求められる。小規模ながら、徐々に教育から研究に力点を移す本学の図書館は、現在の機能の質的充実を不断に図りながら、国際化に向けた新しいサービスを提供し、求められる働きに応えていきたいと考える。

【「個性」「知性」「感性」、そして海外の図書館事情から学ぶ】

名桜大学附属図書館の増改築計画

公立大学法人 名桜大学附属図書館長 小川寿美子

はじめに

現在の大学及び大学図書館は大きな環境変化の中で、多くの課題に直面している。例えば、インターネットの普及により、学生および教職員は多様な情報資源を簡単に入手することができるようになったため、大学図書館に足を運んで所蔵する書籍や学術資料を手にする機会が減少している。

大学図書館は、学生の学習と高等教育並びに学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤の役割、また大学の教育研究の中核として、総合的な機能を担う機関としての役割が引き続き期待されているが、こうした時代の流れの中、大学図書館に求められる機能や役割はいったい何であろうか。今後更に自らの立ち位置を明確にしたうえで、情報の蒐集、組織化、サービス提供のあり方をどのように工夫したらよいであろうと考える。

このような諸課題に取り組むべく、名桜大学では平成 27 年度に附属図書館の増改築に関する基本構想を策定した。そして平成 30 年度のリニューアルオープンに向けて、今年度から基本設計が始まる。

今回は、名桜大学附属図書館の増改築に伴う、新しいコンセプトと利用者に魅力的なスペースづくりの計画を紹介させていただく。

(1) 名桜大学附属図書館の現状

名桜大学附属図書館には、本館および一つの分館を含め、平成 28 年度現在、およそ 16 万冊の蔵書が所蔵されている。その収蔵スペースの運用率は 9 割弱であり、毎年平均 4000 冊程の資料を新規登録しているため、現状では数年後に限界に達することが予測される。それが図書館増築計画の一

番の理由である。

また名桜大学は公立大学法人として、その設立団体である北部広域市町村圏事務組合（12 市町村からなる）の支援を受けて成り立っている大学である。同地域に設置された高等教育機関（大学）としてまた地域の「知の拠点」として、他大学よりも一層地域住民からの期待が大きく、地域貢献が求められている。加えて大学附属図書館の増改築に関しても、市町村長および議員の方々の注目度は高い。

(2) コンセプトは「個性」「知性」「感性」

名桜大学附属図書館は増改築後、30 万冊の蔵書の収蔵に対応する計画である。現在ある 1 階建ての図書館スペースに加え、その横に 4 階建て（地下 1 階を含む）を新築し、うち地下 1 階から 2 階までが附属図書館の新館スペースとなる。また増改築後の図書館全体の実現すべき機能としては、「個性」「知性」「感性」をコンセプトとし、静寂さ（集中できる場）と快適さ（憩える場）を追求し、学生、教職員、そして市民が集う場となることを目指す。特に「快適さ」という機能は、心身を「リラックス」させる空間の実現として、少し疲れた時には、簡単な軽食がとれるスペースの確保、また外部と繋がる印象を与えるオープンエアな環境の整備を計画している。また出入り口は 2 箇所設け、学生をはじめとする利用者の利便性を重視する。その入口に設置予定の小講堂（カンファレンスルーム）は、来賓によるショートスピーチなどのプレゼンテーションの空間であり、沖縄特有の木々の植林のなかに演台と観客席を設け、大学北部に広がる「やんばるの森」での森林浴を

彷彿させる設定を計画している。

また刷新される図書館は、1年前に本学に新築した6階建ての学生会館(SAKURAUM: サクラウム)のように、学生や教職員がつい足を運びたいくなるような好感度の高い施設への変身を目指す。例えばラーニング・コモンズである。即ち複数の学生が集まり、電子情報資源も印刷物も含めた様々な資源から得られる情報を用いて議論を進める学習スタイルの「場」を、図書館で確保する予定である。

このように従来から図書館の機能として重視されている「個性」「知性」の他、「感性」にも力を注ぐことにより、利用者に魅力的な空間の創出を目指している。

(3) 海外の図書館事情

図書館の“常識”は世界に目を向けると広がるものである。例えば、古くはハンス・スローン卿の収集資料を基盤に、二つの図書館を合体して形成されてきた大英博物館などは、元来、図書館であったことを知り、その変遷に大変興味を持った。また2002年に建立したエジプト国のアレキサンドリア図書館は、20万冊の書籍だけでなく、多くの貴重な古文書や遺物、美術品を所蔵する博物館としての機能のほか、研究施設などが併設される文化的複合施設である。

これら欧州、アフリカ・中東諸国の事例をみると、図書館は何も活字体の受け皿のみならず、博物館といった歴史上貴重な産物の保存拠点と共存している。それが日本の図書館の常識と比較すると斬新的である。

更に、最近の北米の図書館事情を学ぶ機会もあった。平成28年12月に早稲田大学で開催されたシンポジウム(日本における学術出版社と図書館の役割、その未来)で発表した横田カーター啓子氏(ミシガン大学大学院図書館)によると、北米学術コミュニティでは“Publishing”は「Public、公にする」という意味で、Scholarly Communication、図書館資料や研究成果のオープンアクセスによる共有という意味も含んでおり、商業的な「出版」よりも広い

意味で使われているという。その一例として、デジタル学術時代の研究の新しい出版形態として、ミシガン大学プレスによるマルチメディア電子書籍プラットフォームであるフルクラム(Fulcrum)の紹介があった。

書籍や学術雑誌での「出版」には予算と普及に限度がある。それがカラー写真を数多く取り入れた書籍等であれば尚更のことである。そのため「出版」よりもFulcrumというWeb上に“Publishing”する試みが主流になりつつあるとのことであった。

最近では映像でも学術成果を表現する試みも始まっている。例えば、早稲田大学図書館では国宝2件、重要文化財5件を所蔵しているが、古典籍の蔵書である源氏物語絵巻四季源氏などは、360°x3D映像で奥行きのある映像(VR:Visual Reality)にして一般公開している。これはVRの特性を活かした文化財・文化施設のコンテンツを提案・実証する魅力的な企画であり、図書館およびその所蔵物に対する関心も高まるプロジェクトである。

(4) 沖縄海外移民資料のマルチメディア化

本学図書館に、博物館の機能を付加し、マルチメディア電子資料プラットフォーム構想を具現化した上に、VRでの図書館所蔵書などを紹介してみても鑑みると、海外の図書館事情から学んだ斬新的かつ魅力的なアイデアを、名桜大学附属図書館にも適応できるのではないかと考える。増改築後の特徴として、名桜大学附属図書館は、その立地する沖縄県北部地域の郷土資料や貴重な蔵書の蒐集とデータベース化、および公開にも力を入れることを計画している。

例えば、戦前より沖縄、特に北部地方からは海外移民を多く輩出しており、それに関するリポジトリの構築構想を進めている。海外の出移民国では、沖縄県系移民の県人会や移民関連資料館、または個人で所蔵する資料や記念物の価値が評価されずに放置されている傾向にある。これらを収集し、時系列に整理し、地図上でアーカイブとして体系的にまとめ、散逸している海外移民関連の資料の価値を再評価し、後世への持続可能な知的財

産として収集・公開できるようにコンテンツを整理する。

また同アーカイブを、リアルタイムで双方向通信ができるシステムを構築し、海外沖縄移民が、各々の知的財産を共有できるプラットフォームを構築する。そして沖縄県内図書館に所蔵する海外移民関係の資料に関するデータベースもそこにアップもしくはリンクして時間・空間を問わず、かつ大学関係者のみならず一般市民も利用可能な情報共有基盤の構築を目指す。

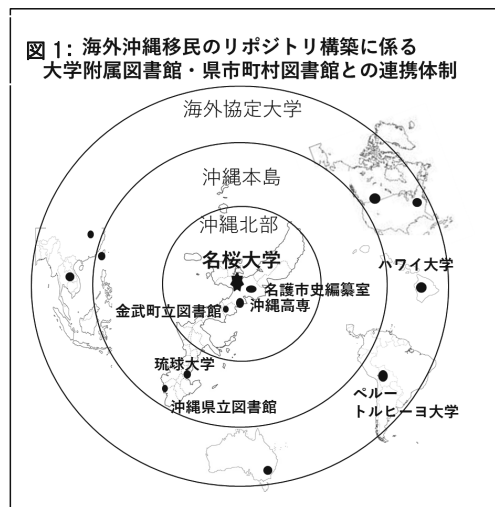
そのプラットフォームには、世界各国に広がった海外沖縄移民と時間・空間を問わず、お互い必要な時に情報交換ができるインタラクティブなネットワークを構築する。具体的には、大学附属図書館にリアルタイム中継する大画面スクリーンを設置しようと考えている。それにより大学生をはじめ一般市民にとって魅力的な図書館となるのではないだろうか(写真1参照)。また、海外沖縄移民のリポジトリ構築を充実させるためには、他大学附属図書館などとの協力関係および学術連携は必至であることは言を俟たない。



写真1：海外沖縄移民に関する情報共有基盤の構築
(双方向通信スクリーン: イメージ図)

具体的には、沖縄海外移民に関する沖縄県内の大学附属図書館および県市町村図書館のコンソーシアムを推進し、更に名桜大学の国際交流協定校であり、かつ海外沖縄移民の輩出の多い地域にある大学として米国・ハワイ大学附属図書館、ペルー国・トルヒーヨ大学附属図書館とも連携をする予定である(図1参照)。可能であれば、前述のミシガン大学附属図書館のように、マルチメディア

電子資料プラットフォームを共有し、VRなどの映像も駆使した魅力的なコンテンツを蓄積したい。



おわりに

近年、インターネットの普及により、我々は知りたい情報を容易く入手できるようになった一方で、普遍的なアイデアや次世代に継承する価値のある情報資源は何かを却って見失いやすくなっている。そのような時世だからこそ、普遍的記録保存の社会的装置として、また社会を活性化させる力を養える「知のインフラ」の場としての機能を、図書館が担っていくことに期待が高まっていると考える。

名桜大学附属図書館は今後増改築するにあたり、「個性」「知性」「感性」を大切にする空間づくりに加え、大英博物館とまではいかないが、沖縄海外移民に関するコレクションを中心とした博物館的機能と、米国で主流のマルチメディア化機能を駆使した斬新かつ持続可能な知の拠点の具現化を目指している。

資料の価値を伝える、つなげる —九州大学附属図書館医学図書館での資料調査活動紹介—

梶原 瑠衣

1. はじめに

九州大学附属図書館には、情報技術をめぐる環境の変化や教育・研究活動の高度化、多様化、学際化に対応するために、研究開発室が設置されており、室員である教員が研究開発をすすめている。^[1]平成28年度現在は、「学習・教育活動との連携に関する分野」「コンテンツ形成および学術情報発信に関する分野」「図書館運営に関する分野」の下に、6個の研究開発事項が設定されている。

研究開発室には、職員も館や係を越えて、関心のある事項に参画することができる。筆者は、「コンテンツ形成および学術情報発信に関する分野」の「コンテンツ形成および保存に関する調査研究」事項^[2]において、医学図書館に所蔵される貴重資料、コレクション等に関する調査、整理、情報発信活動に参加している。他にも、医学図書館の職員と中央図書館の職員3～5名が同様の活動を行っている。各職員が所属する係の業務は、閲覧、参考調査、企画、資料整備など様々であり、年度によって多少職員の入替わりがある。活動内容は、年度当初に計画を立て、日常業務に支障をきたさない範囲で行っている。本稿では、「コンテンツ形成および保存に関する調査研究」事項のうち、医学図書館に関する活動（以下、コンテンツ形成班）について報告する。

2. 活動の背景

コンテンツ形成班の活動を紹介する前に、その背景に触れておきたい。まず、貴重資料、コレクション等、一般図書と異なる性質の資料の収集、組織化、活用に関する図書館界全体の動きとして、近年、北米の大学図書館でスペシャルコレク

ションの概念が関心を集めている。スペシャルコレクションとは、「稀少な資料、ユニークな原資料、主題・時代・人物などでひとまとまりにした資料群」とされている。^[3]北米の大学図書館では、このような資料群を、ただ保管しておくだけでなく、積極的に活用していくことを重視している。日本でも、2013年に慶応義塾図書館で「研究・教育活動における資料の積極的な活用や、さらに広く「社会貢献」も視野に入れた活動」を目指し、スペシャルコレクション担当が設置された。^[4]また、ウェブでの情報発信により、図書館の貴重資料、コレクション利用者は、学外のみならず海外にも拡大している。その一方、図書館では予算規模の縮小により、既に所蔵している資料を見直し、最大限活用する必要にも迫られている。

活動の背景として、九州大学特有の事情もある。歴史の古い九州大学では、高い資料的価値を有しながらも、あまり光の当たっていないコレクション類を多く所蔵している。このような学内の貴重資料、コレクション等への認識を深め、図書館職員の専門性の向上を図ることを目的として、九州大学附属図書館では、2007年10月から2011年3月までの間に、全42回の貴重文物講習会を開催した。^[5]2011年4月以降は、この講習会で得られた知識やネットワークを基に、より実践的な資料群の由来や内容、価値の調査と、適切な整理を行っている。

現在のコンテンツ形成班の活動は、以上のような図書館界全体の流れと、これまでの研究開発室の動きを背景として行われている。

3. 事例

コンテンツ形成班の活動内容は、研究開発室の刊行物である、『九州大学附属図書館研究開発室年報』にて報告している。^[6]ここでは、代表的な事例として、杏仁医館文庫の調査・整理、狩野文庫の情報発信、皮膚科学教室旧蔵皮膚病図譜コレクションの整理を紹介する。^[7]

3.1 杏仁医館文庫

杏仁医館文庫は、九州帝国大学医学部内科学教室出身の医史学者岩熊哲（1899～1943）の旧蔵書である。九州大学での医史研究の存続、発展を願う岩熊氏の遺志が尊重され、九州大学医学部で引き継がれた。当初は解剖学教室に保管され、後に医学図書館へ移管された。和書・洋書・漢籍の貴重な医学史料が多く含まれる。従来、この文庫の存在は、一部の医史学研究者には知られていた。しかし、貴重図書室や保存書庫に分散し、他の資料と混配されており、その全体像を把握するには、医史学者三木栄の編んだ目録である『故岩熊哲旧古医書目録並に編者小記』を確認するしかない状態となっていた。

コンテンツ形成班では、文庫の存在に着目し、詳細な文献調査や岩熊氏の出身地での現地調査を実施した。これにより、文庫名の由来である杏仁医館や、岩熊氏の履歴の不明部分に関して明らかにすることができた。同時に、資料についても、目録の所蔵情報への文庫名入力や、未登録資料の整理、医学図書館内への杏仁医館文庫コーナーの設置等、可能な限り文庫の元の姿を再現した。分散してしまっていた文庫を、一連の活動で改めて集約・可視化し、医学図書館の主要コレクションとしての価値を再発信することができた。



杏仁医館文庫の蔵書印

3.2 狩野文庫

狩野文庫は、思想家・大蒐集家として著名な狩野享吉（1865～1942）の旧蔵本である。九州大学が狩野の旧蔵本を大量に購入していたことは、近年まで詳細が把握されていなかった。しかし、貴重文物講習会第35回「九州大学所蔵の漢籍について：叢書・類書を中心に」（講師：大淵貴之氏）を契機としてその存在が判明した。その後の綿密な調査により、現在、中央図書館狩野文庫朝鮮本・人名録・書目類、中央図書館桑木文庫中の数学天文書、医学図書館貴重図書室中の眼科学教室旧蔵の類書・医書類が確認されている。^[8]

2015年の狩野享吉生誕150周年の機会には、九州大学の狩野文庫をアピールするため、電子展示「狩野享吉と九州大学」を公開した。^[9]そして、この電子展示の内容を基に、医学図書館の狩野文庫を紹介する小展示企画「九州大学附属図書館と狩野文庫—眼科学教室旧蔵本を中心に」を行った。また、電子展示と小展示企画をきっかけとして、九州大学医学部眼科学教室のウェブサイトトップページに電子展示がリンクされた。^[10]普段図書館の情報に触れる機会の少ない学内者・学外者へも図書館のコレクションをアピールできる貴重な機会となった。



小展示企画「九州大学附属図書館と狩野文庫—
眼科学教室旧蔵本を中心に」ポスター

3.3 皮膚科学教室旧蔵皮膚病図譜コレクション

皮膚科学教室旧蔵皮膚病図譜コレクションは、元々は、未整理状態で書庫に保管されていた。未製本の図譜が大量にまとめられており、タイトルページが欠落しているものもあったため、書誌情報の特定が難しい状態であった。そのような中、九州大学の学祖の一人である大森治豊（福岡医学校校長、京都帝国大学福岡医科大学初代学長兼附属医院長）旧蔵本の調査中に、大森が当時大変貴重であった『ヘブラ氏皮膚病図譜』を購入していた記録が見つかった。皮膚科学教室図書原簿や資料に残る備品番号等を照合したところ、未整理の図譜の中に『ヘブラ氏皮膚病図譜』が含まれることが判明した。この資料は、近代皮膚科学の祖とされる、フェルディナント・フォン・ヘブラ（1816～1880）によって発行された精密なりトグラフで、医学史上だけでなく、文化史の面から見ても価値のあるものである。日本国内では、他に東京大学皮膚科学教室に数冊存在するというが、国内の図書館等の所蔵について、九州大学以外に残存しているという情報は、現在のところ確認できておらず、希少な資料と言える。『ヘブラ氏皮膚病図譜』の整理をきっかけとして、残りの図譜の調査を進めたところ、1800年代後半から1900年代前半に刊行された皮膚病図譜4点が含まれることが判明した。調査・整理報告は、九州大学医学系学部のウェブサイトでも紹介された。^[1]未整理資料の価値が、他の文庫調査をきっかけとして再発見された好例と言えるだろう。



『ヘブラ氏皮膚病図譜』

4. おわりに

筆者が活動に関わったきっかけは、医学図書館でレファンレンスを担当したことであった。古い資料や九州大学の歴史に関して知る必要性を、まずは日常業務の中で感じたのである。九州大学の歴史は、医学部から始まったため、医学図書館には古くからの資料が多く所蔵されている。古い資料や大学の歴史に関するレファレンスを受けても、筆者は当初、蔵書検索や大学の記念誌で分かる内容しか回答ができなかった。だが、古い資料や物事ほど、前述したものだけでは情報が不足する場合もある。コンテンツ形成班として資料整理・調査に関わることで、特定の主題に関して、文献だけではなく、学内の関連情報、例えば、図書館以外の記念館、記念碑等についても把握し、網羅的な回答が可能となり、レファレンスに役立つ情報を蓄積することができた。

コンテンツ形成班の活動に参加して痛感したのは、過去に評価された資料でも、年月を経て関心のある人間がいなくなると価値が分からなくなるということである。価値を認識されたコレクションについては、記録に残し、組織内で共有していくことも重要である。また、いわゆる希少な資料でなくても、どのようにして辿り着いたものなのか、元々はどのようなまとまりの中に存在していたかを調査して再評価することにより、図書館のコレクションとして、その存在をアピールできる可能性がある、ということも感じた。アピールは、限られた予算の中でもできることがある。例えば、コレクションとして別置したい資料があるが、まとめて置くスペースがないというような状況でも、目録上で再現するという方法がある。何もこれは目新しい方法ではなく、従来図書館が行ってきた考え方を受け継いでいる。貴重な資料の存在を埋もれさせず、利用者の研究に活用してもらうため、過去の図書館職員が行ってきたことも学びつつ、今後も資料の価値を伝えて未来につなげていく活動に関わっていきたい。

注・参考文献

- [1] 九州大学附属図書館研究開発室
<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/about-us/research>
- [2] 「コンテンツ形成および学術情報発信に関する分野」における「コンテンツ形成および保存に関する調査研究」事項は、平成 26 年度まで、「コンテンツ形成に関する調査研究」と「資料保存に関する調査研究」という別々の事項であり、平成 27 年度の事項再編によって統合された。
- [3] 前之園香世子，“大学図書館における特殊コレクションの収集と活用”。図書館は市民と本・情報をむすぶ。池谷のぞみ，安形麻理，須賀千絵編著。勁草書房。2015，p.44-51.
- [4] 倉持隆. 貴重書，アーカイブ資料から「スペシャルコレクション」へ. MediaNet. 2014, 21, p. 24-25.
- [5] 貴重文物講習会の資料はウェブ上で公開している。
https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/publications_kyushu/libkicho
- [6] 『九州大学附属図書館研究開発室年報』
https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/publications_kyushu/anulibrd
- [7] 3 事例については、下記の報告がある。
- ・ 相部久美子. 医学図書館の「杏仁醫館文庫」と医史学研究者岩熊哲について. 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2015, 2014/2015, p. 19-29.
 - ・ 相部久美子, 梶原瑠衣, 山根泰志. 狩野亨吉と大西克知 : 生誕 150 周年記念活動報告. 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2016, 2015/2016, p. 25-37.
 - ・ 梶原瑠衣. 医学図書館所蔵の「皮膚科学教室旧蔵皮膚病図譜」について : ヘブラ“Atlas der Hautkrankheiten”を中心に. 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2016, 2015/2016, p. 38-42.
- [8] 大淵貴之, 山根泰志. 九州大学所蔵狩野亨吉関係図書について. 中国文学論集. 2011, 40, p.148-162.
- [9] 電子展示「狩野亨吉と九州大学」
<http://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/kano>
- [10] 九州大学医学部眼科ホームページ
<http://www.eye.med.kyushu-u.ac.jp/>
トップページの「九州大学病院眼科初代教授大西克知と狩野文庫」から電子展示にリンクされている。
- [11] 医学図書館所蔵の「皮膚科学教室旧蔵皮膚病図譜」について (医学部ホームページ)
<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/app/modules/information/detail.php?i=861&c=1>

かじわら るい
(九州大学附属図書館)

図 書 館 紹 介

【九州大学附属図書館伊都図書館】

はじめに

伊都図書館は、自動書庫（最大約 80 万冊）等最先端の設備を備えた地下 1 階～地上 3 階までの 4 層の図書館で、主に伊都キャンパスの学生・教職員へサービスを提供しています。

蔵書冊数	約 120 万冊 (最大約 134 万冊)
座席数	1,042 席
パソコン台数	60 台

沿革

平成 17 年 10 月、伊都新キャンパス誕生とともに「理系図書館」としてオープンしました。

平成 21 年 4 月、六本松キャンパスの移転に伴う全学教育用図書を受け入れにより名称を「伊都図書館」に変更し、同年 10 月、同館の増築完成により六本松キャンパスおよび数理学研究院の移転が完了しました。

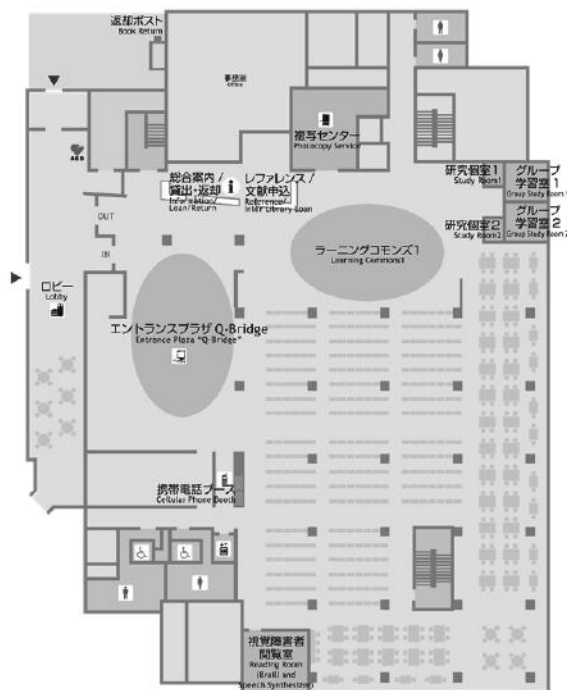
平成 27 年 10 月、理学系部局の移転完了により、数理学研究院が使用していた同館 3 階の改修等を行い、平成 28 年 4 月、地下 1 階～地上 3 階までの 4 層全てが図書館となりました。

図書館外観



フロア紹介

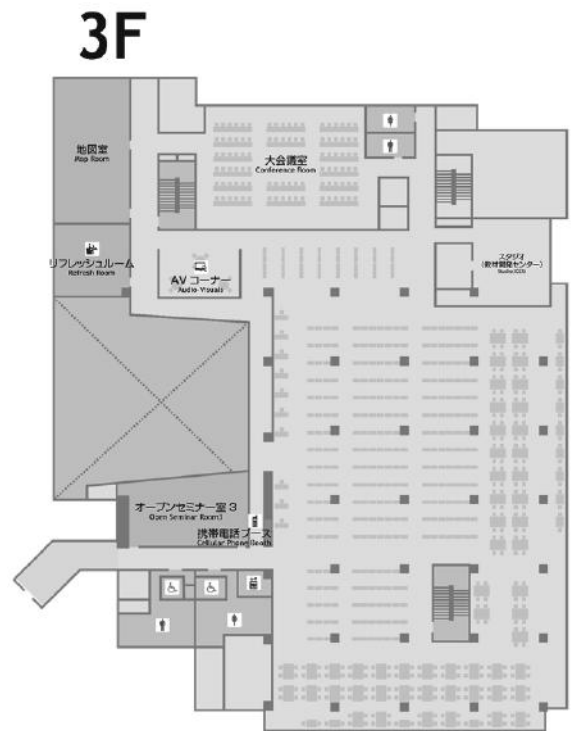
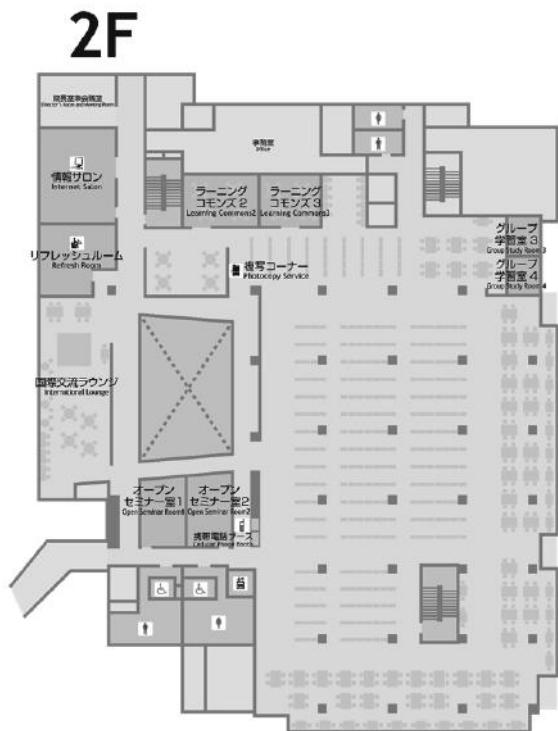
1F



【ラーニングcommons 1】

自由にアレンジできるテーブル・椅子のほか、ソファ席も備えています。また、壁一面のホワイトボードも利用できます。





【国際交流ラウンジ】

日本人学生と留学生が、落ち着いた雰囲気では会話をを楽しむ異文化交流のスペースです。

書架には、留学生お奨めの図書、語学学習書、英語多読図書を配架しています。



【閲覧スペース】

2 階、3 階ともにゆったりとした配置にしています。



【半個室席】

一人で集中して勉強したい時などに適した席です。全 10 席。



【リラックスコーナー】

天気の良い日は最高に見晴らしの良い南東の角に、勉強で疲れた時などに休憩できるスペースを設けています。



【オープンセミナー室 3】

授業、講習会等で使用する部屋です。プロジェクト等を完備しています。全 40 席。



【大会議室】

図書館でのイベント等のほか、学内共用施設として使用します。全 108 席。



終わりに

平成 30 年度に予定されている箱崎キャンパスの移転が完了し、伊都キャンパスでの新中央図書館の全面開館後には再び名称を「理系図書館」に戻し、総合的な自然科学系図書館になる予定です。



【九州大学附属図書館新中央図書館】

はじめに

九州大学では、キャンパス移転に伴い、平成26年秋より伊都キャンパスイーストゾーンに新中央図書館の建設を行っています。その第1期工事が完了し、平成28年10月、建物の3分の1を先行開館しました。

平成30年の全面開館までの間、学内者を対象として、150万冊収蔵可能な自動書庫と、可動式の机・椅子を配置したフレキシブルな学習空間であるアクティブ・ラーニング・スペースを中心にサービスを提供します。

施設概要

基礎データ（第1期工事完了部分）

構造 鉄筋コンクリート造 地下4階建

延面積 7,560 m²

座席数 268 席

新中央図書館の建設にあたっては、平成22年に「新中央（文系）図書館検討専門部会」を設置し、関係部局の教職員の協力のもと、基本コンセプトや機能の検討を検討してきました。平成27年3月に「新中央図書館基本計画」を策定し、「次の百年を担う図書館であること～アジアのトップブランドとして～」を基本コンセプトに、九州大学における学修・教育・研究・国際化・社会貢献の拠点として整備を進めています。

建物は、九州大学のシンボルロゴを建築デザインに取り入れ、隣接する椎木講堂との調和が図られています。また、アクティブ・ラーニング・スペースのガラス張りの空間は、利用者に周囲の眺望を提供します。

図書館外観

第1期工事完了部分。現在、第2期工事が進行中です。



自動書庫



収蔵能力150万冊の自動書庫。Webサイトからの出庫リクエストにより、約2～5分で資料がカウンターに到着します。

アクティブ・ラーニング・スペース

約 1,000 m²の大空間で、講習会やイベント、グループ学習など、多様な利用形態を柔軟に受け入れます。



講習会スペース (48 席 (増席可能))



学内者は予約・申請により利用可能。

グループ学習室 (4 室、定員各 8 名)



壁面ホワイトボード、ホワイトボード、ディスプレイを設置。学内者は予約により利用可能。

フレーム席 (12 席)



予約不要のオープンスペース。

ファミレス席 (12~18 名)



予約不要のオープンスペース。

終わりに

平成 30 年の全面開館により、新中央図書館は中央図書館として、図書館全体の中核機能を担います。それまでの間、箱崎キャンパスの中央図書館は引き続き開館し、資料を順次移転しながらサービスを提供します。移転期間中はご不便をおかけしますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

【琉球大学附属図書館本館】

はじめに

琉球大学附属図書館本館（志喜屋記念図書館）は、1981（昭和56）年に首里キャンパスから現在地（千原キャンパス）へ移転し、1994（平成6）年には増築も行われましたが、近年は、老朽化が進んだ施設・設備の改修と、時代に即した図書館機能の改善が喫緊の課題となっていました。

そのような状況の中、2015（平成27）年度に、本館の耐震補強を主とした改修が実現することとなり、数ヶ月間に及ぶ工事期間を経て、2016（平成28）年5月にリニューアルオープンしました。これにより、安心・安全な環境整備、学修支援機能の増強、沖縄の貴重資料の保存環境強化等の図書館機能の大幅な改善が図られました。

施設概要

今回の改修により、様々な機能改善が図られましたが、その中から主な施設・設備について紹介します。

【図書館玄関前】

改修前は、図書館前の道路から2階玄関に到る階段付近の施設は、全般的に暗いトーンで、特に夜間は足下が暗く、通行する際には注意を払う必要がありました。しかし、改修により明るいトーンの施設に改善されたことら、夜間も安全に通行できるようになりました。



【ラーニング・コモンズ】

不足しがちな学修環境を大幅に改善し、ラーニング・コモンズを中心とした「アクティブ・ラーニング・エリア」を新設することで、学生のより自発的な学修や実践の場があらたに生まれました。

①プレゼンテーションエリア

教員の指導の下、学生が発表・討論会などを行うエリアで、その他講演会、説明会等にも利用されます。

〔設備〕

可動式机（24台）、椅子（24脚）、
固定式椅子（24席）、電動式スクリーン、
ワイレスマイク（4系統同時使用可）、
スピーカー（天井取り付け型2台）



②グループ学修エリア

学生がグループで、自由に討論・議論を行うエリアで、可動式の机と椅子が備えつけられており、多様な形式で学修することが可能です。

〔設備〕

可動式机（20台）、椅子（48台）



④学修相談窓口

教員の指導の下、T A（本学大学院生）による学部学生への補助・助言を行うエリアです。

〔設備〕

相談窓口： 机（1台）、椅子（2脚）

相談ブース： 机（1台）、ソファ（4席）



③パソコンエリア

学生が自由に利用できるパソコンが備え付けられています。また、演習・講習会にも利用されます。

〔設備〕

デスクトップパソコン（48台）、
プリンター（2台）



【貴重資料室】

将来にわたり貴重な資料を保存、提供することができるよう貴重資料室を設置しました。

自動空調設備はもちろんのこと、急激な温度変化を緩和することができる調湿建材を用いた内装仕上げとなっており、ガス消火機能を備えています。



【多様な学修形態に対応した閲覧席】

学生の多様な学修形態に対応するため、あらたにサイレント・スタディールームやカウンター席を設置しました。

①サイレント・スタディールーム

複数の学生が討論・議論・発表を行う場であるラーニング・コモンズと対をなす静謐な個別学修エリアを設置しました。このエリアは遮音壁によって他のエリアからの騒音を遮断しており、パソコン等の機器の持ち込みを禁止しています。



【書架・資料棚】

資料の再配置を行うとともに、利便性の向上を図るため、様々な形態の書架・資料棚を設置しました。

①閲覧室書架

閲覧室内の書架は、形態が不揃いで老朽化が進んでいたため、新しく入れ替えるとともに増設を図ったことで、一層利用しやすくなり室内の清潔感が向上しました。



②カウンター席

既存の閲覧席に加えて、隣り合った利用者どうしの気遣いを軽減するために、閲覧室の窓側に、半透明な仕切りで区切られたカウンター形式の席を設置しました。



②集密書架

今後の資料増加への対応や適正な全館的資料再配置のため、集密書架を増設しました。



③新聞棚

沖縄県内（奄美大島を含む）や大手出版社の新聞を1年間保存できる棚をあらたに設置したことで、新聞が利用しやすくなりました。



④新着雑誌棚

新着雑誌棚をあらたに設置したことで、新着雑誌を従来よりも迅速に紹介・提供できるようになりました。



終わりに

今回の改修により、図書館機能や環境の大幅な改善が実現しましたが、現状に満足することなく、常に時代に即したサービスを提供できるよう改善に努めて参りたいと思います

【大分大学】

1. 「大分を創る科目」コーナー設置

「大分を創る科目」コーナーを旦野原図書館の1階北側階段横に設置しました。

同科目は今年度から始まった「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」に基づくもので、参加8校内で単位互換を行っています。

能力別に汎用力・企業力・地域力に分けて設置しています。併せて大分県関係の資料も設置していて、Facebookでも「大分を創る」と題して情報を不定期に発信しています。



2. 電子ブック BUNDAI セレクト

電子ブックの利用促進を目的に、島根大学附属図書館を参考に、旦野原図書館1階談話エリアにスマホ等でQRコードを読み込むと電子ブックを見ることができる掲示を作成しました。医学部にも掲示を行いました。



3. 読書会：B CAFE

～ツナグ「本」×「人」×「出会い」～

昨年度、学生の希望から生まれた読書会を、新たな学生が引き継いで企画し、5月18日（水）に開催しました。

紹介者を先生役、聞き手を子ども役とし、先生のオススメ本の1ページを全員で1分程度黙読した後、先生が子どもに本の紹介を行い、意見交換等を行いました。先生役（紹介者）は事前に募集し、子ども役（聞き手）は自由参加にしました。先生役6名、子ども役15名の計21名が参加しました。先生役のオススメ本は以下の6冊です。（発表順）

1. 『ラブスター博士の最後の発見』アンドリ・S・マグナソン著；佐田千織訳
2. 『経済大陸アフリカ』平野克己著
3. 『夢をかなえるゾウ』水野敬也著
4. 『ウォール街のランダム・ウォーカー：株式投資の不滅の真理』バートン・マルキール著；井手正介訳
5. 『マジでガチなボランティア』石松宏章著
6. 『青の炎』貴志祐介著

初対面ということで、最初は緊張していましたが、本という共通項を元に次第に打ち解け、イベント終了後も話し込む姿が見られました。また、発表者だけでなく、参加者からの質問で全員が考え込むという場面もみられ、発表者だけでなく全員参加型の読書会になったようです。

読書会終了後、先生役に一言POPを作成してもらい、企画した学生と「B CAFE 紹介者オススメ本&一言」展示の準備を行いました。

5月18日（水）から6月22日（水）まで行いました。



イベント風景

展示風景

4. 学生選書ツアー&学生選書ツアーPOP 展示

8月に希望者5名が参加し、市内の大型書店で選書ツアーを行いました。選書した本39冊が届いた後、特にオススメしたい本を学生自身がピックアップし、工夫を凝らしたPOPを作成しました。選書した本は、10月17日(月)から11月17日(木)までブラウジングエリアに展示しました。



5. ライティング・サポート・デスク開設

昨年度に引き続き、且野原図書館では、7月1日(金)からライティング・サポート・デスクを開設しました。対象は学部1・2年生で、構成の仕方、文章の書き方等基本的なライティング作法を教えることを目的に、院生5名がチューターとしてラーニング・コモンズAで平日(月~金)の各1コマ、曜日を固定して対応しました。



6. 「Sを目指すレポートの書き方」講習会を実施

且野原図書館では、7月に「Sを目指すレポートの書き方」講習会を実施しました。

対象は、本学学生で、初めてレポートを書く1年生やレポートに自信のない2年生以上、講師は、学術情報室長の中島誠教授と学術情報室員の松田聡教授が行いました。

内容は、①出典と引用編と②情報検索編で①を2回、②を1回行いました。参加者は21名のほかライティング・サポート・デスクの研修として、新規に採用されたチューターも受講しました。

アンケートでは、「引用と参照と出典などの違いが分かって良かった。」「何となくレポートを書いてきたけれど、これからはレポートを理解した上で書き進められそうだ。」などと回答があり、すぐに実践できる情報を持ち帰ることができたようです。



7. 第3回ビブリオバトル

11月6日(日)10:30~12:00、大学開放イベントに合わせて、第3回ビブリオバトルを行いました。場所は且野原図書館ラーニング・コモンズAです。

応募者26名中から予選を勝ち抜いた精鋭6名

が本選に出場しました。

クリッカー投票の結果、医学部1年花岡州一郎さんがオススメした『片づけの解剖学』が26票中15票と半数以上を獲得し「チャンプ本」の榮譽に輝きました。

賞状とともに、花岡さんには、iPad mini が拠点長から手渡されました。

アンケートでは発表方法や、深い作品分析、言葉のボキャブラリーの多さなどを感心する声がありました。

バトラー自身もプレゼンテーション能力の向上や発表する度に成長を感じたという意見があり、「本を通して人を知る」ということが体感できたようです。

大分大学学生のみなさん
投票に参加しませんか？
×BB2016×
第3回ビブリオバトル
観覧者募集!!
あなた1票が本選出場者を決定します！
10/26[水] 10/27[木]
同日とも
16:30 ~ 18:00 (5限)
場所：且野原図書館2階グループ学習室
大分大学半蔵南館 図書館

大学開放イベント2016
11月6日(日)
10:30~12:00
場所：且野原図書館1階ラウンジ・ commons A
観覧者大募集
ビブリオバトル
大分大学且野原図書館
最初から最後まで観覧した方が投票
できます。投票希望の方は、お早め
にお越し下さい。
チャンプ本を決定しよう!!!

8. KENBUN を使おう！大分の歴史的地域新聞ラッピングサービス

11月6日(日)10:00~16:00、大学開放イベントに合わせて行いました。

「KENBUN」は、大分大学と大分県立図書館が共同で開発した、PC上で古い新聞紙面をブラウジングできるシステムで、大分県立図書館がマイクロフィルムで所有する1876年(明治9年)~1962年(昭和37年)までに大分県内で発行された新聞紙面約16万ページが印刷できます。

A3やA4で印刷した後、デコレーションしたり、ラミネート加工したりして記念品や贈り物として、持って帰ることができるイベントです。

来場者は、50名(子ども22名、中学生2名、高校生1名、大学生7名、大人16名、高齢者2名)で、主な用途として孫から祖父母へのプレゼント、自分への記念に、そして下敷きにと作成していました。

前回の課題を踏まえて、準備を行ったためスムーズに対応することができました。

今回は、幼稚園以下の子供が多く、サポートした学生たちも普段、子どもと触れあう機会が少ないためおっかなびっくりといった感じで教えていましたが、終盤は「お兄ちゃんに印刷を任せね」などと対応も上手になりました。また、本学の卒業生だという方が数名いて、以前の図書館の話で盛り上がるなど、イベントを通して地域の方と交流を行いました。



【沖縄大学】

1. ライブラリートーク開催

「Library Talk」を2015年12月15日に開催しました。この企画は、図書館が主催し、学外から講師を招いて学生に講話を聞かせるイベントです。この度は、第4回となり、本学人文学部国際コミュニケーション学科の学生を対象に開催しました。

今回は、筆文字アーティストとして活躍している「筆文字あーと」の田場珠翠（たばしゅすい）さんをお招きして、「表現すること〜ウミイを筆文字にのせて〜」をテーマに「ウミイ=思い」から読み解く「思い」と「思い」について、また、「コトバ」「コテン」などのことばの意味について、自身の経験や活動のきっかけを盛り込んで語っていただきました。

トークの終盤には、筆文字パフォーマンスも行い、鮮やかな「筆文字アート」を披露しました。



2. 文学シンポジウムを開催

図書館と地域研究所の共催で、2016年5月14日に土曜教養講座『いま「沖縄文学」に何ができ

るのか——言葉、政治、国家の「越境」へ』を開催しました（参加者66名）。

「戦後沖縄文学」は沖縄が直面する政治・社会的事象と切り離して考えることはできない—という状況を踏まえ、では、沖縄の小説家はどのように状況と対峙し、自らが置かれている「境界」から言葉を紡ぎ出してきたのかを探ることをテーマとしました。沖縄県内からは、芥川賞作家の又吉栄喜氏と小説家の崎山多美氏をお招きしました。さらに、東アジアの「経験」を踏まえることは、沖縄／日本という枠組みを超えて「沖縄文学」を開いていく一つの方法であろうと考え、書く／話す言語としての「日本語」、アイデンティティ形成という問題を「越境」という観点から考えるために、韓国の文学研究者・白池雲氏、台湾出身で日本育ちの温又柔氏（小説家）をお招きし、それぞれの立ち位置からお話しいただき意見交換をしました。



さまざまな状況の中で、言葉をどのように紡ぎ出すことができるのか、混沌を深める世界で文学の言葉は意味を持つか／持たないのかを探っていくことを主眼に、会場からの質疑応答も交え幅広い議論を展開することができました。

関連して、図書館では「沖縄文学」特集を開催しました。今回のシンポジウムに登壇する作家の作品、沖縄を代表する小説を陳列し貸出を行うなど、学生・教職員にひろく活用してもらいました。



3. 「琉球弧資料室」看板を新たに設置

沖縄関連の資料を取り揃えた「琉球弧資料室」は、県内外の研究者・学生に活用されていますが、このたび「筆文字あーと」書道家・田場珠翠氏に看板を書いていただきました。



田場氏は看板に込めた思いをこう方っています。「島の集まりが列島（＝弧）となり、四方八方の貿易で栄えた琉球弧をイメージ。琉球弧の資料が揃う次なる宝（＝貝）部屋へ。また、かつての交易での献上する様子を「琉球」で表現しています」



いにしへの「琉球」に思いを馳せ、これからの沖縄／琉球の在り方を見据えた味わい深い「書」となっています。

4. 「新聞を読む講座」を開催

図書館ライティングセンターでは、学生の「読む」力を育むことを目的に、現役の新聞記者をお招きし、新聞の読み方を教えてもらう講座を定期的で開催しています。

新聞記者の取材方法、記事の書き方の実演を通して社会の出来事について考える機会を広げ、情報収集のコツをつかむことを目標においた内容を実施し、学生たちは初めての試みに興味深げでした。



新聞をコミュニケーションツールとして活用するNIE (Newspaper In Education、教育に新聞を)のワークショップを体験することによって、社会のさまざまな出来事に対する自身の意見を述べる力や、お互いの考えを聞く「伝え合う」力を向上させることができたのではないかと思います。

ワークショップでは新聞を手に取り、気になる記事をお互いに紹介し合いました。興味ある記事を見比べながら、新聞をひとりで読むよりも、他の誰かと読む方がコミュニケーションを深めるツールであると体感した参加者も多かったようです。

引き続き次のワークショップでは、「記者になってみよう」をテーマに、記者のインタビューの方法を見て学び、それから二人一組で互いに「週末の出来事」をインタビューし記事にまとめました。

参加した学生は、「初めて記者の取材しているのを見てすごいなと思いました。些細な事柄から話を広げて、取材していたことをすぐに記事にしているすごいなと思いました。自分で人に取材し、それを記事にするのは難しかったです」としきりに感心した様子。

新聞の見出しには、記事の重要性によって見出しの大きさ、書体などに違いがあり、また、記事のリード部分を読むことで、その記事の内容がつかめるということがわかったという学生もいました。



【鹿児島大学附属図書館】

(1) 貴重書公開「玉里文庫善本展—国文学・薩摩・蘭学・近衛家・琉球—」を開催

貴重書公開「玉里文庫善本展—国文学・薩摩・蘭学・近衛家・琉球—」を平成28年9月9日から10月13日まで、中央図書館ギャラリーアトリウムにて開催した。

玉里文庫は島津久光及び玉里島津家の旧蔵書1万8千冊以上からなる貴重な資料群である。今回は、この中から国文学・薩摩・蘭学・近衛家・琉球に関連するもので、文庫を代表する優れた資料約40点を展示し、ポスターやパネルでその解説を行った。展示品の中には、琉球使節の江戸上りを描いた「琉球人行粧（ぎょうしょう）之図」の精巧な複製物もあった。これは富士ゼロックス社の協力により作成されたもので、長さ9メートルに及ぶ色鮮やかな巻物であり、長テーブルに広げて展示し、実際に触れることも可能としていた。

観覧した市民からは「島津の殿様の素晴らしい資料が残っていることは鹿児島の誇りに思う。」「普段見ることができない玉里文庫の貴重書と、それに関わる藩主や歴史的背景の解説が見られて良かった。」といった感想が寄せられていた。



亀井森准教授によるギャラリートーク

(2) 学生協働の継続的・発展的な取組 —図書館サポーター活動—

平成27年4月から学生ボランティア約10名ほどで、図書館サポーター活動を開始している。平成28年2月には「卒論作成体験発表会」を行った。これは、図書館サポーターの大学院生2名、4年生2名がそれぞれの卒論の概要および作成に至る過程を学部生に語り、今後の卒論やレポートの作成の参考にしてもらうことを目的とした発表会であった。学部や専攻の異なる発表でバラエティに富み、また学生自身の体験が語られ、これから卒論の準備を始める学生にとっては参考となる、有意義なものとなった。3月には広報室からの依頼で、地元テレビ局の生番組に出演し、この1年間

の図書館サポーター活動を紹介した。また、利用者が目的の図書を探しやすいよう、分類や件名を記載した見出し板を手作りで約500枚作成し、これを開架図書の書架に設置し、図書館の利便性の向上に寄与した。

4月より新メンバーの募集を行い、5月19日にキックオフミーティングを行い、新たな活動を開始した。図書館の利用方法やデータベース等の研修会を実施するとともに、ブックハンティングおよび図書の展示企画への協力とPOP作成を行った。8月6日のオープンキャンパスでは来館した高校生や保護者への館内ツアーガイドの実施等、図書館活動に協働して取り組んだ。

9月15日～16日には香川大学において開催された「大学図書館協働交流シンポジウム」に学生4名と職員1名が参加し、本学図書館サポーターの活動を報告するとともに、他大学の図書館サポーターと交流し、活動の取り組みや情報を共有した。

また図書館サポーターを中心とした実行委員会を結成し、全国大学ビブリオバトル2016～京都決戦～の地区決戦を3回開催した。

後述するワークショップにも7名が参加し、活動の紹介と県内サポーターとの交流を行った。



図書館サポーターによる仕切り板設置

(3) 鹿児島県大学図書館学生協働ワークショップを開催

10月1日、鹿児島大学附属図書館において、鹿児島県大学図書館学生協働ワークショップを開催した。

このワークショップは鹿児島県大学図書館協議会が主催し、鹿児島県内外の15機関より学生21名、教職員33名の参加者があった。開催の目的は、鹿児島県内の各大学の学生図書館サポーターと職員が一同に会し、学生協働の意義と有効性を考え、またお互いの活動状況等を情報交換することによって、より有意義で効果的な活動を目指すことであった。

プログラムのはじめに、平尾元彦山口大学学生支援センター教授より「学生協働とキャリア形成」と題した基調講演があった。今日の学生には、社会の変化に対応する力、コミュニケーション能力、主体性を持つことが求められている、学生協働はこの力を育むために有効な活動であり、学生はその意義を理解し、職員もこの観点から学生協働に関わっていくことが大切であると説かれた。次に、県内4大学の学生サポーターがそれぞれ、スライドを使った活動報告を行った。その後、「学生サポーターの活動によって大学図書館の利用を活性化するには」というテーマでワールドカフェを行った。参加者は7つのグループに分かれ、学生と教職員が同じテーブルで、活発な議論を展開した。

参加者からは、「自分達には無かった意見や発想を聞くことができ、とても良い刺激になった」、「学生と教職員と一緒に話しあうことができ新鮮だった」といった感想が寄せられた。

ワークショップの終了後には、未成年の学生参加者もいることから、アルコール無しでの情報交換会を行い、学生と教職員がなごやかに歓談した。



平尾教授による基調講演

【鹿屋体育大学附属図書館】

1. 英語多読図書コーナーに電子図書を追加

平成 27 年度末に、これまで冊子本のみであった英語多読図書の一部に電子図書を追加した。図書館蔵書検索システム (OPAC)、電子ジャーナル・電子ブックリスト (360core) から電子ブックを探せるようにした。また、学生へのお知らせや冊子本の表紙等に QR コードを貼付し、学生がスマートフォンやタブレット端末から直接アクセスできるようにした。



2. 企画展示

オリンピックイヤーにちなみ、「オリンピック・パラリンピック」関連図書のコーナーを企画展示した。その他、新入生向けに大学での勉強法、レポートの書き方などを紹介した「大学生におすすめの本」、卒論中間発表の時期にあわせた「卒論の書き方、論文発表に役立つ本」など季節や学内行事等に配慮し、企画コーナーを設置した。また、設置した本以外の資料も探せるように、QR コードにより OPAC 検索画面へアクセスできるようにした。



3. 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス

国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを本学でも開始できるよう取扱要項を制定し、年度内にサービス開始する予定としている。

4. 館内の模様替え

(1) 図書館入口の装飾

七夕飾りを設置するなど、図書館への関心が増えるよう学生へアピールする飾り付けをおこなった。

10 月のハロウィーンなど月ごとの開館予定お知らせについても季節のテーマを反映させるなどした。



【九州大学附属図書館】

伊都図書館グランドオープン

伊都図書館は、平成 27 年 10 月の理学系部局の移転完了により、数理学研究院が使用していた同館 3 階の改修等を行い、平成 28 年 4 月、地下 1 階～地上 3 階までの 4 層全てが図書館となりました。

同館のグランドオープンを受け、平成 28 年 4 月 7 日、総長、理事等 42 名を招いた内覧会を開催いたしました。

内覧会では、久保千春九州大学総長より、同館の充実した施設・設備が十分に活用されることで

本学の教育・研究活動の発展などへのより一層の貢献を期待する旨の挨拶、宮本一夫附属図書館長より、平成 17 年 10 月に伊都新キャンパス誕生とともにオープンしてから今回のグランドオープンに至るまでの約 10 年間に渡る学内関係者への支援に感謝する旨の挨拶があった後、荒木啓二郎伊都図書館長より、平成 13 年の新キャンパス構想から現在に至るまでの沿革について、往時を知る関係者ならではの様々なエピソードを交えた説明がありました。

その後の館内見学においては、改修を行ったエリアを中心に 3 階から地下 1 階まで限なく熱心に御覧いただきました。

※伊都図書館の概要については、「図書館紹介」(p. 10) をご覧ください。



内覧会で説明をする荒木伊都図書館長

新中央図書館プレオープン

10 月 3 日、九州大学伊都キャンパスのイーストゾーンに新中央図書館がプレオープンし、総長、理事、部局長等の出席のもと、オープニングセレモニーを執り行いました。

セレモニーでは、久保千春九州大学総長、宮本一夫附属図書館長による挨拶、富浦洋一附属図書館副館長による概要説明が行われ、その後参加者は収蔵能力 150 万冊という国内有数の大規模自動書庫から、コンテナに格納された図書資料が運ばれる様子などを見学しました。

オープン翌週からは、箱崎キャンパスからの資料移転を開始し、自動書庫への入庫と同時に資料の提供も始まりました。今後、現中央図書館、文系合同図書室及び伊都図書館から、約 260 万冊の資料が移転する予定です。

新中央図書館は、平成 30 年の全面開館まで、学内者限定でサービスを提供します。アクティブ・ラーニング・スペースは、九州大学が目指す「アクティブ・ラーナーを育成する大学」を象徴する場所として設計され、伊都新キャンパスを見渡す眺望と可動式の机・椅子を配置したフレキシブルな空間が特徴です。講習会や授業、学生たちの自由な議論の場として今後幅広く活用される予定です。

※新中央図書館の概要については、「図書館紹介」(p. 13) をご覧ください。



セレモニーで挨拶をする宮本附属図書館長

芸術工学図書館ALS設置

芸術工学図書館は、1 階の参考図書室を改装してアクティブ・ラーニング・スペース「A I V E A」(アイビー)を開設し、4 月 8 日にお披露目式を行いました。

これまでの雰囲気を一変し、手軽に移動することができる机や椅子、大型ディスプレイ、可動式ホワイトボードとスクリーンとしても使える壁面ホワイトボード、移動型スピーカーシステム、可動式電源を備えて、自由度の高い学習空間として整備しました。机や椅子はシンプルで落ち着いたデザインであるうえに実用性も兼ね備えたものを選定し、ホワイトボードも機能性が高いものとなりました。

ハード面の整備に加えて、図書館学習サポーターのカウンターを設置することによってソフト面でも学修活動への支援を充実しています。なお、2 階以上はこれまで通りの静粛性を重んじた空間ですので、目的によって最適な場所を選んで利用することが出来る図書館になりました。

さらに時を同じくして、トイレを全面改修し生活環境面も向上しています。

芸術工学部「らしく」、カジュアルで刺激的な空間を目指してさらに充実していきたいと考えています。

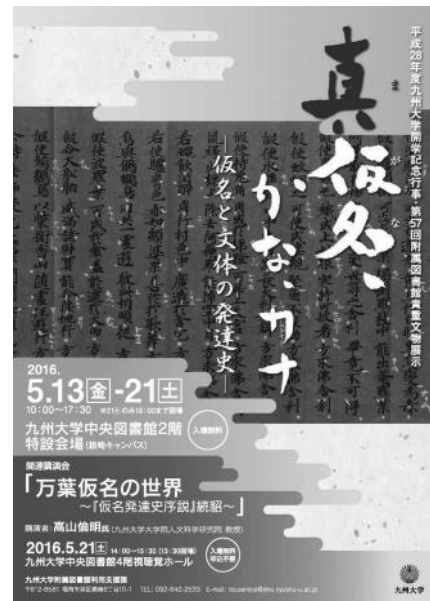


貴重文物展示「真仮名、かな、カナ — 仮名と文体の発達史—」を開催

5月13日から21日まで第57回貴重文物展示「真仮名、かな、カナ — 仮名と文体の発達史—」を中央図書館にて開催しました。この展示会は九州大学開学記念行事の一環として開催したもので、「春日政治・和男文庫」を中心に25点を展示しました。同文庫は、親子2代にわたって九州大学文学部国語学・国文学講座の主任教授として訓点語学の研究に邁進された春日政治・和男博士が蒐集したコレクションであり、国語学・国文学全般にわたる古写本・古版本約400点には、「金光明最勝王経」をはじめ類本のない貴重書を多く含んでいます。9日間の会期中には、学内外から約550名の方が訪れ、展示資料の万葉仮名を判読したり訓点を用いて経典の漢文を読み下したりしながら、熱心にご覧になっていました。

また5月21日には、関連講演会「万葉仮名の世界 ～『仮名発達史序説』続貂～」を開催し、本学人文科学研究院の高山倫明教授が、展示会の内容に沿いながら、万葉仮名（真仮名）の表記や訓点から平仮名や片仮名が誕生し、日本語の表記方法が成立していった過程について、講演を行いました。来場者は135名にのぼり、講演会後には展

示会場で高山教授に熱心に質問をする姿も見受けられました。



教育の国際化に対応した学修支援環境の構築 —アクティブ・ラーナー育成を推進する次世代の大学図書館をめざして—

教育改革の推進を目的とした学内プログラム「教育の質向上支援プログラム (Enhanced Education Program: EEP)」に、附属図書館のプロジェクト「教育の国際化に対応した学修支援環境の構築—アクティブ・ラーナー育成を推進する次世代の大学図書館をめざして—」が採択されて2年目を迎えました。

本プロジェクトは、平成27年度から29年度までの3年間に渡り、様々な取組を通じて、グローバル化の観点から附属図書館全体の学修・教育支援体制を再構築していくものです。1年目の平成

27年度は、図書館学習サポーターが、正式にティーチング・アシスタントに位置付けられるなどの成果を挙げ、中間評価で最高評価Aを獲得しました。

た。2年目も、国際化をキーワードに、学生協働の展開、コンテンツ整備体制の構築、図書館利用教育の拡充などを進めています。

【九州工業大学】

建設社会工学科「建築設計製図Ⅲ」『新・九工大附属図書館』

本学工学部 建設社会工学科 建築学コース3年次の必修科目「建築設計製図Ⅲ」では、毎年、公共性の高い施設の設計課題を提示している。本年度は設計課題の題材を、戸畑キャンパス附属図書館および旧マテリアル棟跡地における新・図書館の計画提案としたいとのお話をいただき、図書館の概要説明と、最終講評会の2回の授業を図書館ラーニングコモンズにて実施した。最終講評会には図書館長と職員がクライアント役として参加し、学生の設計案に対して、管理・運営面からの意見を述べた。

学生にとって身近なリアリティーのある場所であり、学生からも様々なアイデア・提案がかなり積極的に見られた。

授業終了後には、その中でも特に優れていた12点のプレゼン資料と模型をラーニングコモンズに展示した。来館者による投票を実施したところ、たくさんの投票があり、ユーザーの望む図書館像を垣間見ることができた。



授業参画で「調べ方ガイド」を実施

本学では、平成25年度からグローバル化した社会で活躍し続けることができる技術者(=グローバル・エンジニア)育成のための取り組みが行われている。この取り組みの一環として、探求型学習で行われる授業の実施が検討されている。この授業の一部に、図書館職員による説明が取り入れられることになり、今年度試験的に2科目で授業を実施した。まず、1・2年生を対象とした科目では、テーマに関する情報収集のやり方について説明してほしいとの要望を受け、「イメージマップ」を作成するという視点で説明を行った。3,4年生を対象とした科目では、検索キーワードの入れ方や検索の工夫について重点的に説明した。こちらの科目は、図書館ラーニングコモンズで授業を行う利点を生かして、説明後各自のテーマに沿った資料検索を行った。授業の中で実施することで、検索が上手くいかない学生には個別対応することが可能となった。

また、期末に提出するレポートには、参考文献を探す際に入力したキーワードと使用した検索ツールなどを記載した「ファインドマップ」を添付してもらった。このファインドマップから、学生がどの程度授業内容を実践できているかなどフィ

ードバックを得ることができた。



飯塚サイエンスギャラリー

情報工学部分館は国立大学で唯一「情報工学部」を備えた九州工業大学情報工学部（飯塚キャンパス内）に設置されている。

情報工学とは、人の知識や感覚、経験、アイデアを、文字や数字によって表現した「情報」を、世界中の誰もが分かち合うための「かたち」にすることである。

1800年代から発達してきた情報通信技術や、家庭での電化製品の広がりや、今や私たちの生活に無くしてはならないものとなった。

そんな生活に欠かせない情報工学を一般市民の皆様により親しんでいただくために様々な電子機器を展示した「飯塚サイエンスギャラリー」を平成22年開設し、平成25年には情報工学部分館内に移設し、現在に至っている。

飯塚サイエンスギャラリーの展示コーナーは、昔懐かしいものから最新のものまで、私たちの生活に影響を与えてきた物品を紹介している。



筑豊歴史写真ギャラリー

情報工学部分館が設置されている筑豊地域は、昭和30年代前半まで日本の産業・経済を支えたわが国有数の石炭生産地だった。

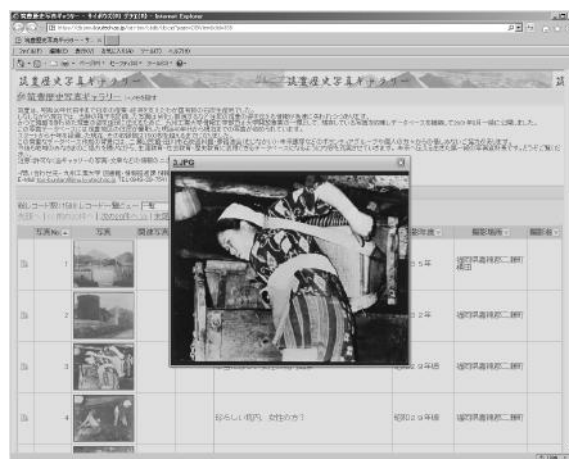
しかしながら現在では、当時の様子を記録した写真は劣化・散逸するなど往年の筑豊の姿を伝える情報が急速に失われつつある。

かつて隆盛をきわめた筑豊地域の姿を後世に伝えるため、大学開放事業の一環として、残存している写真を収集しデータベース「筑豊歴史写真ギャラリー」を構築し平成13年3月にWeb公開、現在1,600点を超える写真・動画を収めている。

平成28年7月には、昭和初期の飯塚ガイドブック「情緒の飯塚」を兵士・庶民の戦争資料館（福岡県小竹町）の武富慈海 副館長より借受け、デジタル化し、「筑豊歴史写真ギャラリー」に掲載した結果、地元新聞にも取り上げられた。

筑豊地域は世界遺産である明治日本の産業革命遺産群との深い繋がりや、山本作兵衛作氏のユネスコ記憶遺産、筑豊炭鉱に関連のあるTVドラマ・番組等々で現在注目を集めている。

「筑豊歴史写真ギャラリー」についても、今後も地域のみなさまにご協力いただきながら、内容を充実させていく。未来へ伝える生きた第一級の写真資料集をご覧いただきたい。



「筑豊歴史写真ギャラリー」掲載アドレス

<https://db.jimu.kyutech.ac.jp/cgi-bin/cbdb/db.cgi?page=DBView&did=388>

【熊本大学附属図書館】

「熊本地震」による被災

4月14日（木）以降に発生した一連の「平成28年熊本地震」による人的被害はなかったが、建物のひび割れ、書架の倒壊、図書の落下・破損の物的被害を受けた。

復旧作業の進展に合わせて利用可能なエリア・サービスを順次拡大し、中央館は、6月1日（水）に通常開館した。（医分館：6/20（月）、薬分館：5/9（月）通常開館）



「熊本地震ライブラリ」を公開

附属図書館では「平成28年熊本地震」に関連した各種資料を収集している。お寄せいただいた情報や資料の一部を公開するため、中央館2階に「熊本地震ライブラリ」コーナーを設置して、図書・雑誌・広報誌・研究報告書等を展示している。

提供いただいた資料は館内で保存、公開するほか、許可をいただいたものについては電子化してインターネットで公開している。



「学生選書祭2016」を開催

今年も学生選書員による図書の選定を行った。学生の視点で中央館に置く本を選んでもらい、学生自らおすすめPOPを作成した。図書と共に中央館ロビーに展示した。展示直後から展示POPを眺めたり図書を借りて行く利用者の姿が見られ、好評を博している。



第9回「東光原文学賞」を実施

平成20年度に創設した「東光原文学賞」は今年度で9回目となる。本賞は、大学生の読書への関心を高め、創作という能動的な知的活動の機会を提供することを目的としている。本学の学生を

対象に、11月上旬までに短編小説の募集を行った。受賞作品は、学内外の審査員による選考、委員会の審議を経て大賞・優秀賞が決定される。受賞作品の発表は29年1月を予定している。

複製・復元古文書の寄贈

昨年度寄贈された細川旧臣家「道家家文書」の中から「道家傳三郎宛細川忠利起請文」の複製を複製古文書作製での文化伝承推進活動の取り組みを推進している富士ゼロックス(株)へ依頼した。

複製古文書は、「原状再製で、平成28年時点のオリジナル原本をそのまま再現した1枚」と「歴史的背景などを根拠とし、400年前の状態を推測し復元した1枚」の2種類が寄贈された。

複製品の作製にあたっては、文学部附属永青文庫研究センター長・稲葉教授も加わり、血判起請文の血の色だけでなく、素材とする和紙の質・色にもこだわった。

複製品2種類は、贈呈式後にオリジナル原本と一緒に披露され、来館者は完成度の高さに驚きの声をあげた。



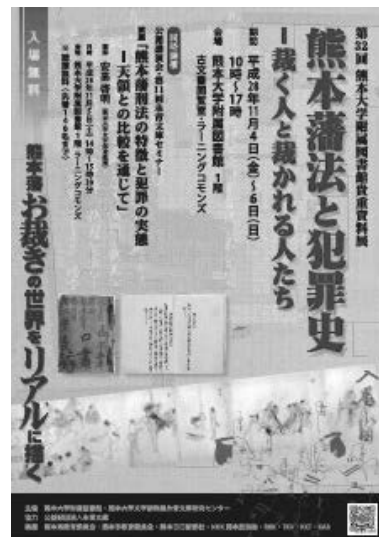
第32回貴重資料展「熊本藩法と犯罪史―裁く人と裁かれる人たち」、公開講演会/第11回永青文庫セミナーを開催

第32回目となる貴重資料展では、時代劇などでたびたび取り上げられるお裁きについて、永青文庫に多数残されている近世熊本藩の法制史料を

中心に展示した。熊本でどのような犯罪が起こっていたのか。また、取り調べを経て、いかなる刑罰が申し渡されていたのか。熊本藩の法律と犯罪、切り離すことができない両者の関係をリアルに紹介した。

5日(土)には、文学部安高啓明准教授による公開講演会/第11回永青文庫セミナー「熊本藩刑法の特徴と犯罪の実態―天領との比較を通じて」を開催した。

貴重資料展は11月4日(金)から6日(日)の3日間を通して盛況であり、一般市民を含む340名近くが訪れた。

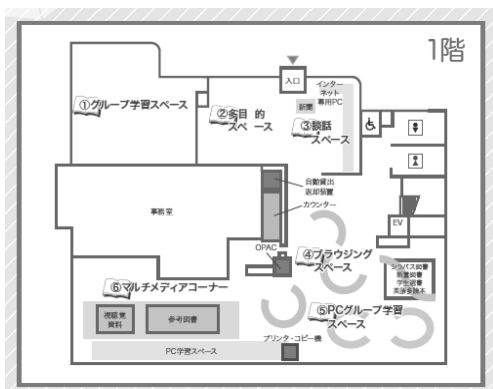


【佐賀大学附属図書館】

ラーニング・コモنزの整備

佐賀大学附属図書館（本館）では、大学教育のアクティブ・ラーニング化を支援するためにラーニング・コモنزを整備し、3月25日（金）にリニューアルオープンしました。

これまで、館内の一角に可動式の机・椅子を配置したラーニング・コモنز的機能を持つエリアを備えていましたが、今回の整備により1階フロアのほぼ全面を学生のアクティブ・ラーニングが可能な空間とすることができました。



リニューアル後の1階フロア

今回の整備に当たっては、図書館が中心となり、滝澤登全学教育機構副機構長（当時）をチーフとして、建築学を専門とする工学系研究科の田口陽子准教授、アクティブ・ラーニング手法による授業経験等の豊かな教員3名、教員からの推薦や公募により参画した学生10名、図書館職員3名で構成されたワーキンググループが8ヶ月に渡って検討を行いました。



書架イメージ

（模型製作：都市工学専攻 田口研究室）

ラーニング・コモنزのコンセプトは、「知に出会い」「ともに学び創造する」「さまざまな居場所」としました。従来の可動式の机・椅子等を配置したエリアを単純に拡大するのではなく、学生の多様な学習スタイルに対応可能な学習環境や様々な形での学生の居場所を提供できる空間造りを目指しました。

具体的には、波型の書架にシラバス関連図書や新着図書を配架、その書架の間にグループワークができるテーブルを点在させました。ホワイトボードやノートPCと接続可能な大型ディスプレイなど、グループディスカッションで役立つツールも利用できます。書架は色をホワイトに替え、カーペットを張り替え、全体的に明るい雰囲気になりました。エントランス近くには、円柱を生かしたソファや個性的な形をした椅子を揃え、気軽に立ち寄れる場を意識した造りとなっています。



ブラウジングスペース



談話スペース

【長崎大学附属図書館】

1 図書館内に ICT サポートカウンターを開設

本学の主体的学習促進による学生のパソコン必修化が3年目を迎え、平成28年2月から、情報企画課の協力により、中央図書館と2つの分館内にICTサポートカウンターを開設して専任職員を配置し、学生や教職員からのパソコンに関する相談に対応している。

特に、新入生が自分のパソコンとネットワークを使って最初にやらなければならない履修登録の時期には、多くの学生がカウンターに並ぶこともしばしばで、開始から11月末までに935人が相談に訪れた。

学生のみなさま 平成28年2月22日 開設

附属図書館

ICTサポート カウンター開設!

パソコンを中心にサポートします!

- ・パソコン利用、無線LAN利用
- ・Microsoft Office365利用
- ・ウイルス対策、パソコントラブルなど

時間：平日のみ 10時～17時
場所：中央図書館・医学分館・経済学部分館
※ なお、経済学部分館は、水曜日のみ

<お問い合わせ> 平日のみ 10時～17時
長崎大学附属図書館

中央図書館 095-819-2198
医学分館 095-819-7014
経済学部分館 095-820-6309

今後は、教員との連携により人的な学習支援体制を整備し、ラーニング・コモンズの利活用を図っていきたいと考えています。

2 英語多読のすすめ

英語多読を取り入れた授業が増えていることもあり、中央図書館及び2つの分館ともに英語多読コーナーを設けている。授業で英語の多読が課されることも多く、英語多読本の貸出が増えている。コーナー構成に使用したシリーズは以下のとおり。

- ・Penguin Young Readers
- ・Penguin Readers
- ・Cambridge English Readers
- ・Oxford Bookworms Library
- ・Macmillan Graded Readers
- ・洋販ラダーシリーズ
- ・講談社英語文庫
- ・Oxford Very Short Introductions

これらのほかに、パソコンやスマホで読めるMacmillan Readers eBookも導入している。

特に、経済学部分館では「英語多読ノート」を作成して英語多読の頑張りを記録できるようにしている。同分館が所蔵するすべての英語多読本を読みやすさのレベルで分けて語数を掲載。余白には本の感想やノートに掲載されていない本の語数も書き込める。また、各レベルの表紙には次のレベルへ進むための目安となる冊数と語数を掲載し、各レベルのゴールをはっきり定めて頑張ることができるようにしている。これまでに100部作成し無料配布した。



3 学生の発表の場としての図書館ギャラリー

耐震改修後の平成25年4月に開設した中央図書館ギャラリーでは、学生による発表の場としての利用が増えている。

(1) ながさき漂着物展～海ゴミと地域で頑張る市民活動団体～（1月4日～19日）

学生団体「ながさき海援隊」によるスーツケースを利用した漂着物と海洋ゴミの展示。



(2) ながさき 100km 徒歩の旅写真展（3月28日～4月29日）

学生団体「ながさき 100km 徒歩の旅を知ってもらい隊」による小学生参加イベントの写真パネル展。



(3) 全学書道部 水無月展（6月6日～20日）

ビニール傘や瓶など、紙以外の媒体も使った全学書道部の作品展。



(4) 多文化社会学部 It' Zanzibar Style! 展 (11月1日～14日)

多文化社会学部の海外フィールドワーク実習でタンザニアのザンジバル島を調査した際の記録。ギャラリートークも実施。



【福岡教育大学学術情報センター図書館】

1. 学生懇談会及び利用者アンケートの実施

平成 27 年 12 月、学術情報センターを利用している大学院生及び学生から参加者を募り、センター長との懇談会を実施した。参加者は7名だったが、図書館に対する意見や要望など活発な意見交換が行われ、今後図書館を運営していく上で、とても有意義な会となった。



また、図書館リニューアルによる学習環境改善の成果を測るために、平成 28 年 1 月に大学院生及び学生を対象に利用者アンケートを実施した。アンケートでは 97%の回答者がリニューアル前と比較して学習しやすい環境になったと回答しており、図書館の学習環境の改善について高い評価が得られた。

なお、学生懇談会及び利用者アンケートであげられた図書館への要望に基づき、傘袋の導入や新

書庫の照明の改修など図書館内の環境等の改善を行った。

2. 新入生歓迎イベントの実施

新入生に図書館施設を知ってもらうため、4月6日から5月1日にかけて図書館初の新歓イベントとして謎解きゲーム「図書館の冒険」を実施した。ゲームは参加者が謎を順番に解いていくことで館内をくまなく巡ることとなり、楽しみながら図書館を知ることできる仕



組みになっている。多くの学生が参加したが、対象としていた新入生だけでなく、2年生以上の学生の参加も多く「4年生になって初めて新書庫に入った」などの感想があった。

3. 大学オープンキャンパス協賛

7月23日(土)開催の大学オープンキャンパス行事において、図書館では図書館ツアーと小学校教科書のミニ展示を実施した。また、4月に新歓

イベントとして実施した謎解きゲームを高校生向けに変更した「図書館の冒険」も併せて実施した。

「図書館の冒険」は大変盛況であり、約250人が謎解きに挑戦し、半数が謎の解明に成功した。参加した高校生からは「とても面白かった」「図書館が広くてきれいだった」「意外と難しかった」といった感想をいただいた。図書館ツアーでは貴重書室や子ども図書室などを見学していただいた。ミニ展示では、オープンキャンパスで来館する高校生が小学校1年時に使用していた国語教科書と昭和30年頃、昭和60年頃、平成18年及び最新平成27年の各教科の教科書の比較展示を行った。高校生や保護者の多くが、使っていた出版社の教科書を探したり、古い教科書の内容を見たりと足を止めていた。



【宮崎大学附属図書館】

1. リザーブブック制度

教員が指定した授業やレポート課題関連図書を専用棚に一定期間展示し、館内限定で利用に供するリザーブブック制度を今年度も実施。前学期は6科目47冊、後学期は6科目47冊をリザーブブックとして展示し、グループワークなどのアクティブラーニングの支援を図った。

4. 「教育大に行ってみよう！」協賛

11月13日（日）開催の大学主催イベント「教育大に行ってみよう！」に参加し、子ども図書室を開室した。当日は約100人の子どもたちと保護者が来室し、各々が好きな絵本や児童書を手に取りゆったりと読書を楽しんでいた。



リザーブブック展示の様子

2. パスファインダー

平成 23 年度からパスファインダーによる学修支援を実施している。

当初は 6 コンテンツでアクセス数は 455 であったが、平成 28 年度は医学・看護学分野のコンテンツを増やし 11 月現在で 96 コンテンツとなり、今年度の全コンテンツのアクセス数は 5,853 となっている。今後ともコンテンツを増やしていき、学修支援の向上及び学術情報の利用促進を図っていききたい。

3. 全国大学ビブリオバトル 2016 予選会

10 月 27 日、11 月 2 日に全国大学ビブリオバトルの予選会を本館で開催した。両日ともにバトルの熱い思いに、会場は盛り上がった。



全国大学ビブリオバトル 2016 予選会

4. 学生選書ツアー（第一回）

7 月 4 日、市内の大型書店において学生選書ツアーを実施した。学生 14 名の参加があり、専門分野や興味のある本を選び、182 冊を購入した。学生からは、図書館に置いてほしい本を選ぶことができ、有意義だったとの感想があった。



選書ツアーに参加した学生と展示状況

5. 学生サポーター

宮崎大学附属図書館学生サポーターが正式に発足した。12 名のメンバーが図書館職員と協力し、図書館の活性化と図書館振興を図るために広報活動やイベントの企画、運営を中心に活動を行っている。



発足した学生サポーター

6. 大学開放事業

「平成 28 年度みやだい WakuWaku 体験 Day」11 月 19 日～20 日に大学開放事業が実施され、図書館の開放とともに、廃棄図書のリサイクル市を実施した。訪れた一般市民・学生・教職員へ図書約 800 冊を無償配布した。



本館 リサイクル市

また、本館では「芥川賞・直木賞 候補作・受賞作」及び「本屋大賞受賞作」等の展示、医学分館では、「医学部教授の座右の書」についての企画展示を実施した。



しおり工房に参加した子どもたち



医学分館企画展示

【琉球大学附属図書館】

シーサー除幕式を開催

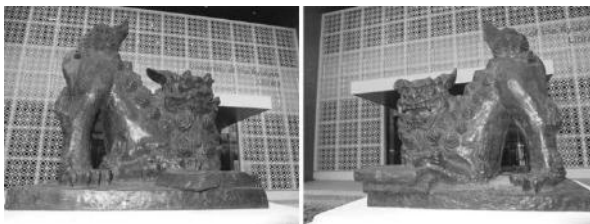
平成 28 年 6 月 24 日、志喜屋記念図書館（附属図書館本館）の耐震補強を主とした改修工事の完了を記念し制作した、オリジナルシーサー[※]の除幕式を執り行いました。

式は、梅雨明けの照りつける日差しの下、本学学生サークル法政エイサーによる歓迎の演舞で賑やかに始まり、大城学長はじめ関係者による除幕が行われました。その後、館内に新設したラーニング・コモンズへ移動し、大城学長、仲座館長、シーサー制作者の西村氏による挨拶が述べられました。



今回設置したシーサーは、図書館正面玄関の表札「学而不厭（がくじふえん）」と一体となる新た

なシンボルとして、彫刻家で本学名誉教授の西村貞雄先生に制作いただきました。この「学而不厭」は、日本人として初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士が、昭和38年に本学を訪れた際に揮毫されたもので、「学び、学び、そして学ぶ。決してあきらむということはない」という意味があります。この言葉と一体となる「学び」を象徴する新たなシンボル像として、先人の努力のもとに今が成り立っていること、それらを学び続けることの大切さと呼び起こし、親しまれるシーサー像となることを祈念しています。



※シーサーとは、獅子像のことで、古くは寺社の門前、城門、貴族の墓陵、村落の出入り口などで魔除けや守護神として用いられていましたが、明治以降は建物の門や屋根などにも備え付けられるようになりました。その起源は、古代オリエントで、中国を経て14、5世紀ごろ沖縄にもたらされたものと考えられています。

第1回サイエンスカフェを開催

平成28年6月29日、附属図書館と本学研究企画室（URA室）とのコラボ企画として、第1回サイエンスカフェを開催しました。

「サイエンスカフェ」とは、科学と社会のあり方を、研究者と市民の双方向のコミュニケーションのなかで語り合う、講演会でもシンポジウムでもない、新しい対話の場です。

記念すべき第1回目のスピーカーは、工学部環境建設工学科の入江徹准教授でした。

「TRANS × FORM — 建築学が社会のカタチを変える —」をテーマに、建築を選んだきっかけから、これまでの研究・設計・教育活動、コム・デ・ギャルソン論など、建築に留まらない幅広い話題に、学部学生・院生・教職員等45名の参加者は約1時

間の濃密な時間を過ごしました。

会終了後には、入江先生がリノベーションの設計に携わった附属図書館1階ホール及び多目的ホールの見学ツアーを行いました。また、研究者のオススメ本を紹介する「私の本棚」も同時開催しました。



第10回琉球大学びぶりお文学賞記念講演会を開催

平成19年度に創設された琉球大学びぶりお文学賞も、今年度で第10回となる節目を迎えました。これを記念して、1996年に「豚の報い」で、第114回芥川賞を受賞した又吉栄喜氏を招いて、「原風景に根付いた小説」という演題で、9月30日（金）の13時から14時30分まで、今年3月に新装なったばかりの附属図書館2階ラーニング・コモンズで講演会を開催しました。

講演では、又吉氏が執筆したいくつかの作品を取り上げ、その背景にあるものについて、ご自身の若き日の体験を基に語っていただきました。

会場には、学内外から55人が訪れ、又吉氏の話に熱心に聞き入っていました。また、活発な質疑応答もありました。



EU 資料展を開催

琉球大学附属図書館は、昭和 60 (1985) 年 11 月に EU (当時) の資料センターの指定を受けて以来、欧州連合 (EU) 関係の資料を収集し、研究者や一般利用者に公開してきました。5 月 9 日は、ヨーロッパの統合を祝う「ヨーロッパデー」にあたることから、附属図書館では、例年この時期に、駐日欧州委員会代表部が主催する日本と欧州連合の友好イベントである「日・EU フレンドシップウィーク」の一環として、欧州連合 (EU) に関する理解を深めることを目的に「EU 資料展」を開催しています。

今年は、5 月 30 日 (月) から 6 月 10 日 (金) までの約 2 週間、本館 2 階国際資料室において、後々 EU 離脱問題で世界中に衝撃を与え、Brexit (ブレグジット) という造語まで流行らせてしまうことになるイギリスにスポットを当てた「EU 資料展 ～ イギリスってどんな国？」を開催しました。

資料展では、イギリスを紹介するパネル、留学生からのメッセージ、イギリスに関する図書などを展示するとともに EU の広報資料や観光資料を配布しました。



平成 28 年度附属図書館・博物館 (風樹館) 企画展「琉球大学資料にみる奄美群島の自然と暮らし」を開催しました

平成 26 年度より附属図書館と博物館 (風樹館) の合同で企画展を開催しました。今年度は鹿児島県大島具の瀬戸内町立図書館・郷土館との主催により「琉球大学資料にみる奄美群島の自然と暮らし」を開催いたしました。本企画展では、通常一般公開をしていない附属図書館所蔵の原資料や写真資料、博物館 (風樹館) 所蔵の動物標本等を展示し、ギャラリートークや講演会等のイベントも開催しました。展示資料には奄美地方にゆかりのある資料や戦後の奄美の人々の写真パネル、博物館が所蔵する動物標本やわら算 (文字の代わりに数を記録したもの) を展示しました。



Library Lovers' キャンペーン 国立大学図書館協会賞受賞報告

Library Lovers' キャンペーン事務局
九州大学附属図書館利用支援課 堀 優子

平成22年度から6年間にわたり九州地区の国公立大学図書館が合同で実施した「Library Lovers' キャンペーン」が、平成28年度国立大学図書館協会賞を受賞しました。

「Library Lovers' キャンペーン」は、大学図書館の利用促進・読書推進を目的としたもので、平成22年度に国立大学図書館協会の助成事業としてスタートし、平成24年度からは九州地区大学図書館協議会の事業として実施しました。毎年40前後の大学図書館が参加し、秋の読書週間にあわせた約1ヶ月間、参加館合同企画のほか、各館が大学の規模や特徴を活かした独自のイベントを展開しました。

今回の受賞は、九州地区という広域にわたり、設置母体と規模の異なる多数の大学図書館が合同で活動することのできるしくみを整え、6年間にわたって活動を継続することで地区全体の図書館の人材育成・活性化に大きな貢献を果たしたことが、「図書館活動における功績」として高く評価されました。

6月17日、仙台市で開催された第63回国立大学図書館協会総会において表彰式が行われ、キャンペーン事務局を務めた九州大学附属図書館利用支援課の堀優子図書館専門員が代表して、国立大学図書館協会会長の久留島典子東京大学附属図書館長より、メダルと表彰状を受け取りました。

同キャンペーンは、27年度をもって九州地区全体での実施を終了し、今後は、これまでの蓄積を活かして各大学で自由に展開していくこととなりました。

これまでの活動の様子や事例は、九州大学附属図書館 Cute.Guides で公開しています。

【URL】

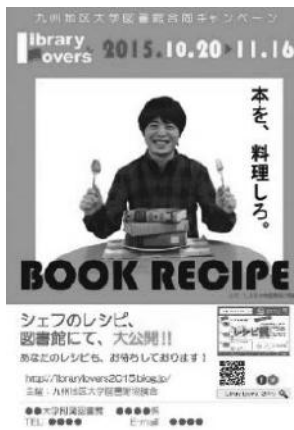
<http://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/librarylovers>



授賞式

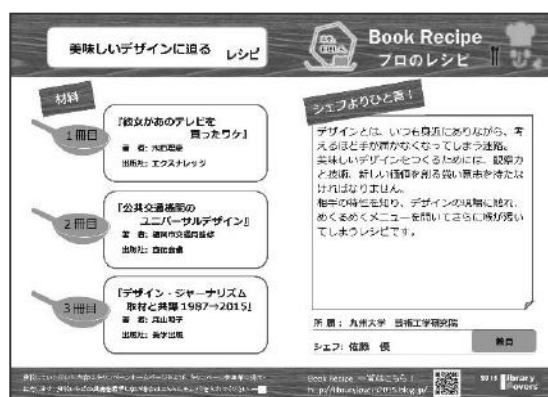


表彰状と記念メダル



毎年のポスターは力作揃い。特に、図書館職員が登場したポスターは人気でした。

キャンペーンの企画運営を行ったのは、九州各地から集まった若手職員数名によるワーキンググループ。ポスターや各種テンプレート、ウェブサイトの作成など、すべての準備をこのWGが行いました。「九州地区という規模で企画を回していく経験をしたことが何より大きかった」とはWGメンバー談。今後の活躍が期待されます。



参加館合同企画は、毎年オススの本を紹介する企画が主。本の中で衝撃を受けた一言を紹介する「衝撃のワンフレーズ」や、ある独自のテーマに沿って3冊の本を紹介する「Book Recipe」など、個性溢れる投稿が学生や先生方から続々と寄せられました。各大学では、自分の大学だけでなく、九州各地の大学の先生方や学生からのコメントが一堂に展示され、みな興味津々に展示に見入っていたそうです。寄せられたコメントは、ウェブサイトでも公開しています。

2010「おすすめの1冊学生コンテスト」<http://booklog.jp/users/librarylovers>

2011「図書館が森になる?! みんなで育てよう読書の木」<http://booklog.jp/users/librarylovers11>

2012「大学図書館貸出ランキング」<http://booklog.jp/users/librarylovers12>

2013「収穫の秋 読書の芋。」<http://booklog.jp/users/librarylovers13>

2014「衝撃のワンフレーズ」<http://librarylovers.blog.jp/>

2015「Book Recipe」<http://librarylovers2015.blog.jp/>

図 書 館 活 動 報 告

福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会

【平成 27 年度 第 2 回研究会・総会】

日 時：平成 28 年 3 月 2 日（水）13：30～16：30

場 所：佐賀大学附属図書館 3 階グループ学習室 5

当番館：佐賀大学附属図書館

出席者：11 館（21 名）

協議事項

(1) 平成 27 年度研究テーマについて

①図書館の利用促進について（第 1 回継続審議）

(2) 平成 28 年度研究テーマについて

①アクティブ・ラーニングと図書館の関わり方について

②図書館職員研修について

承合事項

(1) 学外者の利用について

(2) 雑誌や図書の付属メディア（CD・DVD）の配架及び貸出について

(3) 国立情報学研究所の学術雑誌公開支援事業の終了について

(4) ラーニング・コモンズを図書館で設置されている場合はどのような機材を置かれていますか

(5) 図書館資料収集・選定規定等の整備について

講 演

演題：「著作権について」

講師：佐賀大学財務部長

（前文化庁 長官官房著作権課著作物流

通推進室 室長補佐）

井上 敏昭 氏

【平成 28 年度 第 1 回研究会】

日 時：平成 28 年 9 月 16 日（金）13：30～16：00

場 所：久留米工業高等専門学校 管理棟 2 階

小会議室

当番館：久留米工業高等専門学校

出席者：13 館（15 名）

協議事項

(1) 平成 28 年研究テーマについて

①アクティブ・ラーニングと図書館の関わり方について

承合事項

(1) 図書館職員研修について

（第 2 回研究会の協議事項として持ち越し）

講 演

演題：「記憶」保存の場としての図書館

－『少女小説事典』の編纂に参加して

講師：久留米工業高等専門学校

小林 美恵子 教授

その他

次期当番館の確認

※研究会終了後、図書館見学が行われた（希望者のみ）

九州地区国立大学附属図書館館長懇談会

日 時：平成 28 年 4 月 21 日（木）13:30～15:00

会 場：ホテル福岡ガーデンパレス 4 階 桐

出席者：8 大学 9 名

テーマ：

1. 図書館が直面している課題について

2. 国立大学図書館協会ビジョンの策定について

3. その他

九州地区国立大学附属図書館事務（部・課）長懇談会

日時：平成28年4月21日（木）13:30～15:00

会場：ホテル福岡ガーデンパレス4階 宝満

出席者：10大学 15名

テーマ：

1. 図書館が直面している課題について
2. 国立大学図書館協会ビジョンの策定について
3. その他

平成28年度第46回九州地区国立大学附属図書館協会総会

日時：平成28年4月21日（木）15:20～17:00

会場：ホテル福岡ガーデンパレス3階 宝満

出席者：10大学 25名

協議事項：

1. 国立大学図書館職員の採用試験について
2. 九州地区国立大学図書館協会の代表館・副代表館の選出について
 - ①代表館・副代表館選出について
 - ②その他
3. 九州地区大学図書館協議会等の運営について
 - ①平成28年度九州地区大学図書館協議会の役員館の選出について

②平成29年度九州地区国立大学図書館協会総会の当番館について

③その他

4. 国立大学図書館協会からの依頼事項について

①国立大学図書館協会ビジョンの策定について

②第63回総会の研究集会テーマについて

③平成28年度監事の選出について

5. 九州地区国立大学図書館職員研修企画について

6. その他

平成28年度九州地区国立大学附属図書館協会実務者連絡会議

日時：平成28年11月11日（金）13:30～16:00

会場：九州大学伊都図書館3階 大会議室

出席者：11大学 14名

協議事項：

【1】図書館の取り組み等について

- (1) 学生の貸出利用促進に対する取り組みについて
- (2) 電子ジャーナル等の契約についての今後の方向性について

【2】職員研修WG関連について

- (1) 国立大学図書館協会地区助成事業について
- (2) 今後の職員研修の在り方について

【3】その他

「国立大学図書館協会ビジョン2020」について

承合事項：

【1】危機管理対応について

- (1) 災害や人的トラブル（マナー違反や不審者対応など）、犯罪行為（窃盗、盗撮など）等に対応するための具体的措置または危機管理マニュアルの作成について
- (2) 熊本地震により被災し、帰省・避難した学生への図書館利用サービスについて

【2】図書館サービスについて

ラーニング・コモンズの利用規則について

【3】図書館資料整備について

- (1) 学生用資料（図書・雑誌）の選定基準について
- (2) 電子ジャーナルのパッケージ購読以外（前払いトランザクション・PayPerView・

- ドキュメントデリバリーサービス等)
の利用状況について
- (3) 和書の電子書籍についての購入状況、
利用状況及び利用促進のための取り組み等について

- (4) 図書資料の購入システムについて
引続き、施設見学： 16:10～17:15
伊都図書館改修施設、嚶鳴天空広場、新中央図書館

九州地区私立短期大学図書館協議会

【2016(平成 28)年度総会】

日 時：平成 28 年 4 月 21 日 (木) 13:30～17:00

会 場：福岡ガーデンパレス

出席者：16 館 25 名

協議事項

- (1) 平成 27 年度事業報告
- (2) 平成 27 年度決算報告および監査報告
- (3) 平成 28 年度事業計画 (案) および予算審議
- (4) 平成 28 年度役員館について

承合事項

- (1) 貸出期間等の状況について
- (2) 研究紀要の公開について
- (3) ラーニング・コモンズについて
- (4) 継続貸出について

講 演

演 題：「短期大学図書館における学生支援：
職業能力育成を中心に」

講 師：木原 すみ子氏 (九州龍谷短期大学教授)

【2016(平成 28)年度夏期研修会】

日 時：平成 28 年 8 月 30 日 (火) 13:30～16:30

場 所：プラム・カルコア太宰府 (太宰府中央公
民館) 2F 研修室

出席者：15 館 18 名

演 題：「生涯読書人を育成する取組み
ー小学校図書館、司書教諭を通じてー」

講 師：鈴木 研氏 (福岡県学校図書館参与)
九州女子大学・福岡女子短期大学・
日本経済大学非常勤講師

私立大学図書館協会 西地区部会

2016 (平成 28) 年度 九州地区協議会総会

日 時：2016 (平成 28) 年 4 月 21 日 (木)

14:00～17:00

場 所：福岡ガーデンパレス

当番館：福岡工業大学

出席者：34 館 53 名

I. 報告事項

- (1) 九州地区協議会関係
 - ①2015 年度九州地区協議会及び決算報告
 - ②第 1 回定例幹事会
 - ③2015 年度九州地区研究会及び決算報告
 - ④研究会準備委員会
 - ⑤第 2 回定例幹事会

(2) 九州地区大学図書館協議会関係

①第 67 回九州地区大学図書館協議会総会

(3) 西地区部会関係

①2015 年度西地区部会会務報告

②2016 年度西地区部会事業計画 (案) 及び予
算 (案)

③2016 年度予算の暫定執行

④2016 年度西地区部会総会開催概要 (案)

⑤2016 年度西地区部会研究会開催概要 (案)

⑥西地区部会関連 2016 年度予定表

⑦役員校・当番校等一覧

- (4) 私立大学図書館協会関係
- ①2015 年度協会会務報告
 - ②2015 年度協会賞審査委員会・研究助成委員会報告
 - ③国際図書館協力委員会報告
 - ④協会ホームページ委員会報告
 - ⑤協会関連事項報告
 - ⑥次期役員校、総会当番校の選出について
 - ⑦第 77 回総会・研究大会の開催
 - ⑧行事・会議予定

II. 協議事項

- (1) 九州地区協議会関係
 - ①九州地区協議会研究会について
 - ②会費の徴収について（追加議案）
- (2) 九州地区大学図書館協議会関係
 - ①2016 年度九州地区大学図書館協議会の役員校について

III. 承合事項

- (1) 図書館内での飲食について(福岡工業大学)

- (2) 図書館の外部利用者の利用について（福岡工業大学）
- (3) 図書館の開館時間について（福岡工業大学）

IV. 確認事項

- (1) 九州地区協議会 HP 及び ML の運用について
- (2) 外国新聞分担保存について
- (3) 九州地区協議会役員校等ローテーション表（2016 年度版）及び解説について
- (4) 九州地区協議会年度別幹事校
- (5) 本会関係行事・会議等スケジュール

V. その他

- (1) 2016 年度当番校・幹事校・役員校等の紹介
- (2) 2016 年度九州地区協議会年会費の納入について（連絡）

VI. 講演会

- 「大学における情報資源の多様化への対処」
講師：天理大学人間学部准教授 古賀 崇

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会 2016（平成 28）年度 第 1 回定例幹事会

日 時：2016（平成 28）年 6 月 3 日（金）
14：00～16：00

場 所：沖縄大学 本館 4 階会議室

当番館：沖縄大学

出席者：8 館 14 名

I. 協議事項

- (1) 2016 年度九州地区研究会企画（案）について
- (2) 2016 年度九州地区研究会予算（案）について
- (3) 次年度の協議会（総会）での講演について

- (4) 2021・2022 年度私立大学図書館協会会長校の推薦について
- (5) 2019・2020 年度九州地区理事校の辞退について

II. 確認事項

- (1) 九州地区協議会年度別幹事校について
- (2) 九州地区協議会役員校等ローテーション表について
- (3) 次年度の九州地区大学図書館協議会総会の当番校について

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会 2016（平成 28）年度 九州地区研究会

日 時：2016（平成 28）年 9 月 2 日（金）
10：00～16：00

場 所：沖縄大学 3 号館 101 教室
当番館：沖縄大学

出席者：27 館 49 名

テーマ：これからの大学図書館の役割と展開

I. 講演

「水でつなぐ 沖縄とスリランカ」

沖縄大学人文学部教授

ディリープ・チャンドララール

II. 事例発表

(1) 「学習支援の取り組みー図書館でできること」

九州産業大学図書館事務室長 宮丸由美子

(2) 「本学図書館における学生の読書推進・利用

促進のための取り組みと現状」

活水女子大学図書館主任 田崎直子

(3) 「学生のニーズに対応した図書館サービスー
多様な学びと育ちを支援する取り組みー」

沖縄大学図書館事務長 糸数 晃

沖縄大学ライティングセンター相談員 浜川智久仁

(4) 「図書館と学習支援センターの協働による学
生サービス向上の取組」

九州共立大学附属図書館図書情報課副主幹

上井由美子

九州共立大学学習支援センター主事

大松真弓

意見交換会

那覇市安里 ホテルロイヤルオリオン

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会 2016（平成 28）年度 研究会準備委員会（メール会議）

日 時：2016（平成 28）年 11 月 14 日（月）

～11 月 18 日（金）

出席館：7 館

I. 報告事項

(1) 2016 年度九州地区研究会について

①研究会開催記録

②研究会収支報告

II. 協議事項

(1) 2017 年度九州地区研究会について

①研究会実施要項（案）

(2) その他

①2017 年度私立大学図書館協会西地区部会
研究大会の研究発表者について

福岡県・佐賀県図書館協議会

【平成 28 年度総会】

日 時：平成 28 年 5 月 20 日（水） 12:50～16:40

場 所：九州女子大学 弘明館 4 階会議室 1 およ
び 2 階記念ホール

当番館：九州女子大学・九州女子短期大学附属図
書館

出席者：36 館（45 名）

協議事項

(1) 平成 27 年度決算報告および監査報告

(2) 平成 28 年度事業計画および予算案審議

(3) 次期理事館および監事館の選出について

理事館 福岡女子大学学術情報センター

（図書館）

監事館 中村学園大学図書館

(4) 福岡県図書館協会理事の選出について

九州大学および福岡女子大学より各 1 名

(5) 理事館業務の効率化と新旧理事校の業務引
継について

地区研究会報告

(1) 北部地区

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館
司書 八野梓氏

(2) 福岡地区

福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館

図書館情報課 課長 大橋祐子氏

(3) 南部地区
 佐賀大学附属図書館情報図書館課
 副課長 福島正徳氏

承合事項
 (1) 書庫棟運用の体制・状況について

講演会
 テーマ「研究支援と協働～図書館員に求められる
 技能と態度」

講演 1: 演題「科研費と私一事務職員としての経
 験から」

講師 国立大学法人徳島大学研究支援・産官学
 連携センター
 特任助教 角村法久氏

講演 2: 演題「研究のライフサイクルに沿った支
 援を-大学図書館と URA の協働の可能性」

講師 国立大学法人京都大学学術研究支援室
 (KURA)
 リサーチ・アドミニストレーター
 天野絵里子氏

パネルディスカッション
 パネリスト講師: 角村法久氏
 天野絵里子氏

コーディネーター:
 九州女子大学人間科学部人間発達
 学科人間基礎学専攻
 准教授 矢崎美香氏

鹿児島県大学図書館協議会活動報告

1. 第 37 回鹿児島県大学図書館協議会総会

日時: 平成 28 年 5 月 30 日 (月) 15:00～16:00
 会場: 鹿児島大学附属図書館 5 階ライブラリー
 ホール
 出席者: 11 館 25 名
 議 事:

- (1) 平成 27 年度会務報告
- (2) 平成 27 年度決算報告及び監査報告
- (3) 平成 28 年度事業計画
- (4) 平成 28 年度予算審議
- (5) 協議題審議
 鹿児島県大学図書館学生協働ワークショップの開催について
- (6) その他

2. 平成 28 年度第 1 回鹿児島県大学図書館協議 会研修会

日時: 平成 28 年 10 月 1 日 (土) 13:30～14:00
 会場: 鹿児島大学附属図書館 3 階 31 号室

内 容: 研修報告 (研修名: 看護図書館情報研究
 会主催 第 4 回研究会「教育と図書館」)
 報告者: 釜堀千恵氏 (鹿児島純心女子大学附属図
 書館)
 参加者: 16 名

3. 平成 28 年度鹿児島県大学図書館学生協働ワ ークショップ

日時: 平成 28 年 10 月 1 日 (土) 14:30～18:15
 会場: 鹿児島大学附属図書館 5 階ライブラリー
 ホール

内 容: (1) 基調講演「学生協働とキャリア形成」
 講師 平尾元彦氏 (山口大学学生支援
 センター教授)

- (2) 各大学サポーター活動報告
- (3) ワールドカフェ

参加者: 54 名 (学生 21 名、教職員 33 名)

平成 28 年度 熊本県大学図書館協議会

1. 平成 28 年度熊本県大学図書館協議会総会

日時: 平成 28 年 6 月 22 日 (水) 15 時 00 分～17 時 00 分

場 所：尚綱大学図書館本館（九品寺キャンパス）
グループ学習室1

出席者：計14館(24名)

議 事

- (1) 平成27年度総会議事録の確認
- (2) 平成27年度事業報告について
- (3) 平成27年度収支決算並びに監査報告について
- (4) 平成28年度事業計画（案）及び予算（案）について
- (5) 次年度世話館について
- (6) その他（照会事項等）

意見交換会

2. 新聞所蔵リストの作成（データ更新）

平成28年6～7月頃実施

3. 平成26年度熊本県大学図書館職員研修会・セミナー

①セミナー（講演会）

日 時：平成28年9月13日（水）10：00～12：00

会 場：熊本市国際交流会館5階 大広間A

テーマ：「日本三名城、熊本城は今」

講 師：熊本市文化財専門相談員 富田 紘一 氏

参加者：12館(35名)

②熊本城見学会

日 時：平成28年9月13日（水）13：30～15：00

会 場：熊本城周辺 『行幸橋口 → 城彩苑 → 二の丸駐車場 → 二の丸広場 → 棒庵坂 → kkr ホテル前 → 不開門下 → 須戸口 門前』

テーマ：「熊本城の現状」

講 師：熊本市文化財専門相談員 富田 紘一 氏

参加者：11館(32名)

福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会

【第1回研究会】

日 時：平成28年7月1日（金）

会 場：九州共立大学附属図書館3階会議室

出席者：14館18名

議 事

- (1) 平成27年度決算報告および監査報告
- (2) 平成28年度予算（案）
- (3) 目録小委員会からの報告
- (4) 協議事項
 - 1) 平成29年度以降の講習会について
- (5) 承合事項
 - 1) ①図書館内でのスマホや電源利用について
 - ②図書館内の防犯カメラの設置について
 - ③入退館システム（BDS含む）の導入状況について
 - 2) DVD・ビデオ等映像資料の図書館内への持込について
 - 3) CD-ROM・DVD-ROMの複写（プリンアウト）について
- (6) その他

講演

演題：「学内教職員のための熱中症予防対策」

講師：九州共立大学 スポーツ学部

准教授 篠原 純司氏

第2回当番館 九州工業大学附属図書館

【第2回研究会】

日 時：平成28年11月18日（金）13:30～16:15

会 場：九州工業大学100周年中村記念館 特別会議室

出席者：12館20名

当番館：九州工業大学附属図書館

議 事

1. 協議事項
 - 平成29年度以降の講習会について
2. 承合事項
 - (1) 視聴覚資料（古いビデオテープ）の取り扱いについて

- (2) カウンターにおける文具類の貸し出しについて
- (3) 災害、人的トラブル、犯罪行為等に対応するための具体的措置または危機管理マニュアルの作成について
- (4) 視聴覚資料 (CD、DVD 等) の破損対応について

3. 講演

演題:「教養教育における大学図書館の学習支援:学習過程から得られるラーニングアウトカムズ」

講師:九州工業大学教養教育院教授
水井 万里子 氏

4. 当番館の確認

平成 29 年度
北九州工業高等専門学校
九州国際大学
平成 30 年度
北九州市立大学
近畿大学産業理工学部

長崎県大学図書館協議会

1. 平成 28 年度総会

期 日:平成 28 年 7 月 7 日 (木) 14:30-16:50

会 場:長崎国際大学

出席者:11 館 23 名 (外に長崎県公共図書館等協議会より 1 名)

議 題:

- (1) 平成 27 年度事業報告・決算報告・監査報告について
- (2) 平成 28 年度役員館等の選出(案)について
- (3) 会則の一部改正(案)について
- (4) 平成 28 年度事業計画(案)及び予算(案)について

報告等:

- (1) 承合事項
「雑誌の除却・保存について」
「電子ジャーナル・データベースの利用率向上の取り組みについて」
- (2) その他

2. 研修事業(平成 28 年 1 月~12 月)

- (1) 長崎県公共図書館等協議会との合同研修会

日 時:平成 28 年 9 月 5 日 (月)

会 場:長崎県立大学シーボルト校

演題①:国立国会図書館を使いこなす

講師①:岡本常将氏 (国立国会図書館関西館 文献提供課)

演題②:データベースとしての TOOLi のご紹介

講師②:鈴木千賀氏 (図書館流通センターデータ部)

参加者:75 名 (大学 13 名, 公共等 62 名)

(2) 実務研修会

日 時:平成 28 年 12 月 6 日 (火) 14:30-17:15

会 場:長崎大学附属図書館多目的ルーム

テーマ:リポジトリの構築・運用について~事例報告と情報交換~

参加者:15 名

3. Library Lovers' Nagasaki 2016

長崎県大学図書館協議会事業として、Library Lovers' s Nagasaki 2016 を開催し、加盟館全館が参加した。

期 間:10 月 18 日~11 月 14 日

合同企画「脱出ゲーム:おまがり~ずの名前を取り戻せ」(参加校:10 校、参加者:約 1,000 名脱出成功者:525 名)

佐賀県大学図書館協議会活動報告

平成 28 年度佐賀県大学図書館協議会総会

日 時：平成 28 年 8 月 26 日（金）10：45～14：00

会 場：佐賀大学附属図書館 会議室（本館 4 階）

出席者：5 館 9 名

議 事

1. 協議事項

- (1) 平成 27 年度決算について
- (2) 平成 28 年度予算(案)について
- (3) 平成 29 年度幹事館および監査館の選出について

2. 報告事項

- (1) 各大学図書館の活動状況について
- (2) 佐賀県読書推進運動協議会・総会の報告について

3. 承合事項

- (1) 資料形態がフラッシュメモリの場合の受入れについて
- (2) 書架の落下防止と地震への対策について

大分県大学図書館協議会

【平成 28 年度総会】

日 時：平成 28 年 9 月 8 日（木）13:30～16:05

場 所：日本文理大学

当番館：日本文理大学 メディアセンター会議室

出席者：8 館 17 名

協議事項

- (1) 平成 27 年度事業報告について
- (2) 平成 27 年度決算報告及び監査報告について
- (3) 平成 28 年度事業計画（案）について
- (4) 平成 28 年度予算（案）について
- (5) 平成 29 年度役員館（案）及び当番館（案）について
- (6) 大分県大学図書館間相互利用実施要項改正について

承合事項

- (1) 図書館のセキュリティについて
- (2) 地震への備えについて
- (3) 学外者への図書館の開放及び利用期間の制限について

情報交換

○オープン・アクセス化に向けた各館の取り組み状況

○電子ジャーナル等購入に際しての問題点と対応状況

○研修会のテーマについて など

講 演

演 題：「キャラハン邸の記憶」

講 師：清水孝子氏（日本文理大学経営経済学科准教授）

【平成 27 年度研修会】

日 時：平成 28 年 2 月 23 日（火）14：00～15：45

場 所：別府溝部学園短期大学記念館 1 階会議室

演 題：「温泉コンシェルジュについて」

講 師：牧 昌生 氏（別府溝部学園短期大学教授）

参加者：6 館 9 名

図書館活動報告（沖縄県大学図書館協議会）2016

1. 平成 28 年度（第 44 回）総会

日 時：平成 28 年 9 月 14 日（水） 14：30～15：10

会 場：名桜大学 学生会館 SAKURAUM6 階

スカイホール A

出席者：29 名

議 題：平成 27 年度事業報告

平成 27 年度決算報告

平成 27 年度監査報告

平成 28 年度事業計画（案）

平成 28 年度予算（案）

沖縄県立芸術大学の加盟について

平成 29 年度の当番館及び平成 28 年度の

監査館の選出

2. 講演会・研修会

(1) 平成 28 年度第 1 回沖縄県大学図書館協議会講演会

日 時：平成 28 年 9 月 14 日（水） 15：25～16：25

会 場：名桜大学 学生会館 SAKURAUM6 階

スカイホール A

テーマ：名桜大学における「人の移動」研究について

講 師：小川 寿美子氏（名桜大学人間健康学部教授、附属図書館長）

出席者：27 名

(2) 平成 28 年度沖縄県大学図書館協議会研修会

日 時：平成 28 年 12 月 15 日（木） 14：00～17：00

会 場：琉球大学附属図書館 本館 1 階 ライブ

ラリーホール

テーマ：情報サービス業務に必要な書誌知識：利用者と情報の架け橋になるには

講 師：高野 真理子氏（NPO 法人大学図書館支援機構）

出席者：36 名

宮崎県大学図書館協議会

1. 平成 28 年度宮崎県大学図書館協議会総会

日 時：平成 28 年 9 月 14 日（水） 14：27～16：02

場 所：南九州大学・南九州短期大学図書館

（本館 2 階 会議室）

出席者：8 大学 19 名

議 事

(1) 平成 27 年度 決算報告及び監査報告について

(2) 平成 28 年度 事業計画及び予算について

(3) 協議事項：

宮崎県大学図書館協議会ホームページの刷新について

(4) 承合事項：

① 図書館の開館時間、運営体制について

② ラーニング・コモンズに関する取組について

③ アクティブラーニングの取組について

④ 資料収集の状況について

(5) 次年度役員館について

2. 平成 28 年度宮崎県大学図書館協議会職員等研修会

日 時：平成 28 年 12 月 15 日（木） 14：30～17：00

場 所：宮崎大学附属図書館 3 階 視聴覚室

出席者：46 名

講演：「地方学習拠点としての図書館の役割：
「ラーニング・コモンズ」をどう活かす
か？」

講師：日向良和氏
(都留文科大学情報センター准教授)

平成 28 年度九州地区国立大学附属図書館館長懇談会

日時：平成 28 年 11 月 25 日 (金) 13:30～15:00
会場：九州大学附属図書館会議室 (新館 4 階)
出席者：8 大学 9 名

テーマ：
1. 図書館が直面している課題について
2. その他

平成 28 年度九州地区国立大学附属図書館事務 (部・課) 長会議

日時：平成 28 年 11 月 25 日 (金) 13:30～15:00
会場：九州大学附属図書館視聴覚ホール
(新館 4 階)
出席者：11 大学 16 名

議事：

・報告

1. 平成 28 年度九州地区国立大学図書館協会
実務者連絡会議報告
2. 九州地区国立大学図書館協会会員館職員研
修ワーキンググループ報告
3. 平成 28 年度九州地区目録講習会実施報告
4. 大規模災害への対応について
5. その他

・協議題

1. 平成 29 年度九州地区国立大学法人等職員
採用事務系 (図書) 二次専門試験について
2. 平成 29 年度以降の九州地区国立大学図書
館職員研修企画について
3. 大学図書館における自己収入確保の方策に
ついて
4. その他

平成 28 年度九州地区国立大学附属図書館館長・事務 (部・課) 長会議

日時：平成 28 年 11 月 25 日 (金) 15:30～17:00
会場：九州大学附属図書館視聴覚ホール
(新館 4 階)

出席者：11 大学 26 名

議事：

・報告

1. 館長懇談会報告
2. 事務 (部・課) 長会議報告
3. 国立大学図書館協会秋季理事会報告

4. 平成 28 年度熊本地震の対応等について
5. その他

・協議題

1. 九州地区国立大学図書館協会総会当番校及
び九州地区大学図書館協議会役員館の選
出について
2. 平成 29 年度以降の九州地区国立大学図書
館職員研修企画について
3. その他

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会
2016（平成 28）年度 第 2 回定例幹事会

1. 日 時：2016（平成 28）年 12 月 9 日（金）
13：50～15：15
2. 会 場：九州看護福祉大学
本館 1 階 大会議室
3. 当番館：九州看護福祉大学
4. 参加者：8 館 13 名
5. 内 容：
 - I. 報告事項
 - (1) 2016 年度九州地区協議会総会の報告について
 - (2) 2016 年度九州地区協議会・研究会の会計報告について
 - (3) 2021・2022 年度私立大学図書館協会会長校の推薦について
 - II. 協議事項
 - (1) 2017 年度九州地区協議会総会の実施計画（案）について
 - (2) 2017 年度九州地区協議会（総会）講演について
 - (3) 2017 年度九州地区大学図書館協議会の私立大学部会の表彰委員館・編集委員館の選出について
 - (4) 2019・2020 年度九州地区協議会理事校の推薦について（継続審議）
 - III. 確認事項
 - (1) 本会関係の次年度以降の役員校・当番校について
 - IV. その他
 - (1) 西地区部会 2017 年度研究会研究発表者の推薦について

事務局報告

平成28年度九州地区大学図書館協議会 幹事館・副幹事館会議

平成28年12月12日(月)に書面回議により開催の結果、「第67回九州地区大学図書館協議会総会議事要録(案)」について承認された。

その他について、意見等はなかった。

議 題

1. 第67回九州地区大学図書館協議会総会議事要録(案)について

今年度当番館 九州大学附属図書館から第67回九州地区大学図書館協議会総会議事要録(案)の提出がありました。(資料1)

内容をご確認ください。

2. その他

①九州地区大学図書館協議会総会における講演、協議事項等について

ご意見等がございましたらお知らせください。

なお、協議事項等は、別途第68回総会当番館(長崎大学)から照会します。

②副議長について

総会における副議長は、平成11年度からの副幹事館制度の発足により、副幹事館の図書館長により次の順番で執り行われておりますので、平成29年度につきましても、副幹事館のうちのいずれかの図書館長にお願いいたします。

<参 考>

平成11年度(公立大学部会副幹事館長)

福岡女子大学

平成12年度(私立大学部会副幹事館長)

鹿児島国際大学

平成13年度(私立短大部会副幹事館長)

沖縄キリスト教短期大学

平成14年度(国立大学部会副幹事館長)

福岡教育大学

平成15年度(公立大学部会副幹事館長)

宮崎公立大学

平成16年度(私立大学部会副幹事館長)

筑紫女学園大学・短期大学

平成17年度(私立大学部会副幹事館長)

九州東海大学

平成18年度(国立大学部会副幹事館長)

長崎大学

平成19年度(国立大学部会副幹事館長)

熊本大学

平成20年度(公立大学部会副幹事館長)

宮崎県立看護大学

平成21年度(私立大学部会副幹事館長)

九州産業大学

平成22年度(国立大学部会副幹事館長)

大分大学

平成23年度(私立大学部会副幹事館長)

熊本学園大学

平成24年度(公立大学部会副幹事館長)

長崎県立大学

平成25年度(私立大学部会副幹事館長)

久留米大学

平成26年度(公立大学部会副幹事館長)

鹿児島県立短期大学

平成27年度(私立大学部会副幹事館長)

沖縄国際大学

平成28年度(私立短大部会副幹事館長)

鹿児島純心女子短期大学

③副幹事館、表彰委員館、編集委員館の交代について

平成29年度は副幹事館を選出いただく年
です。各部会で当番館の検討をお願いします。
また、表彰委員館、編集委員館の任期は1年

間（再任は妨げない。）ですので、各部会で当
番館の検討を併せてお願いします。

第 67 回九州地区大学図書館協議会総会記録

日 程 表

1. 期 日 平成 2 8 年 4 月 2 2 日 (金)
2. 会 場 ホテル福岡ガーデンパレス 1 階 「ガーデンホール」
〒810-0001 福岡市中央区天神 4-8-15
TEL 092-713-1112
FAX 092-714-0510
<http://www.hotelgp-fukuoka.com/>
3. 日 程
9 : 3 0 受付開始
1 0 : 0 0 1. 開会
2. 当番館長挨拶
3. 幹事館長挨拶
4. 会議日程・配布資料等の説明
5. 議長、副議長の選出
6. 議長、副議長の挨拶
7. 新任館長等紹介
8. 表彰式
9. 幹事館報告
10. 平成 2 7 年度決算及び監査報告
11. 平成 2 8 年度予算 (案)
12. 国立、公立、私立、私立短大各部会報告
13. Library Lovers' キャンペーン実施報告
1 2 : 0 0 昼食
1 3 : 0 0 14. 講演
講師：今西 祐一郎
演題：「国書総目録・画像データベース・
オープンデータ」
1 4 : 4 5 15. 協議事項
(1)Library Lovers' キャンペーンについて
16. 承合事項
1 5 : 3 0 17. 次期役員館の選出
18. 次期当番館の挨拶
19. 議長、副議長の解任
1 6 : 0 0 20. 閉会

出席者名簿（○は新任者）

【国立大学】

九州工業大学附属図書館

附属図書館長 ○恵 良 秀 則
図書館・情報推進課長 岩 村 哲 也

福岡教育大学附属図書館

学術情報センター長 ○池 田 修
学術情報課長 栗 林 陸 生

九州大学附属図書館

附属図書館長 宮 本 一 夫
附属図書館副館長 ○富 浦 洋一
事務部長 ○木 村 優
図書館企画課長 郷 原 正好
利用支援課長 渡 邊 由紀子
伊都地区図書課長 田 中 由紀子
図書館企画課長補佐 藤 川 眞 一
利用支援課図書館専門員 堀 優 子

佐賀大学附属図書館

附属図書館長 ○米 山 博 志
学術研究協力部長 ○市 山 郁 生
情報図書館課長 河 野 泰 久

大分大学学術情報拠点（図書館）

学術情報拠点長 ○岸 田 哲 子
研究・社会連携部長 安 倍 武 司
学術情報課長 瓜 生 照 久

宮崎大学附属図書館

附属図書館長 ○兒 玉 修
事務長 ○小 川 稔

鹿児島大学附属図書館

学術情報部長 渡 邊 俊 彦

鹿屋体育大学図書館

図書サービス係長 山 下 智 久

琉球大学附属図書館

附属図書館長 ○仲 座 栄 三
事務部長 ○山 本 和 雄
情報サービス課長 岡 田 高 志

出席館 9館 25名
欠席館 2館

【公立大学】

北九州市立大学図書館

図書館係長 鈴 木 吉 美

福岡女子大学学術情報センター（図書館）

図書館事務 大 瀧 麻 耶

九州歯科大学附属図書館

図書館長 ○牧 憲 司
学務部長 赤 嶺 勇 司

福岡県立大学附属図書館

図書館長 ○福 田 恭 介
学務部長 ○田 中 和 樹

北九州学術研究都市学術情報センター

総務企画部長 ○甲 山 乙 也
学術情報担当課長 竹 下 誠 次
学術情報担当主任 森 田 亜希子
学術情報担当 本 村 麻 衣

長崎県立大学附属図書館

佐世保校附属図書館長 ○石 田 和 彦
佐世保校図書グループリーダー
○豊 村 正 博
シーボルト校図書館長 ○武 藤 慶 子
シーボルト校図書課長 川 原 光 次

シーボルト校図書グループリーダー

本村保彦

鹿児島県立短期大学附属図書館

図書館長

岡村俊彦

大分県立芸術文化短期大学附属図書館

図書館長

○河上央

沖縄県立看護大学附属図書館

図書館長

神里みどり

企画情報課長

三好民郎

主査

○平安美和子

大分県立看護科学大学附属図書館

司書

白川裕子

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館

館長

波多野泉

宮崎公立大学附属図書館

主事

○合澤美希

名桜大学附属図書館

課長

赤嶺達也

宮崎県立看護大学附属図書館

図書館長

浅野昌充

出席館 14館 26名

副主幹

赤江貢一

欠席館 1館

【私立大学】

西日本工業大学図書館

図書館長

大木正彦

九州産業大学図書館

事務室長

宮丸由美子

西南女学院大学図書館

図書課長

西川忍

福岡大学図書館

図書館長

有岡律子

図書部事務部長

井口紀子

九州国際大学図書館

事務室長

増田恵次郎

中村学園大学図書館

図書館長

○相良康弘

九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館

図書情報課長

松尾伸二

推進役

高田和則

福岡工業大学附属図書館

図書館長

阿山光利

西南学院大学図書館

事務部長

○佐藤誠

図書館事務長

中島良二

課長

吉田進

事務長補佐

重松亮

純真学園大学図書館

主任

○山本哲也

主任

久我薫

福岡女学院大学図書館

図書館長

二階堂整

第一薬科大学図書館

司書

野中麻有

図書館課長

吉村球夫

九州情報大学附属図書館

図書館長 大浦 洋子

筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館

図書館課係長 中原 明日香

福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館

図書館情報課長 大橋 祐子

聖マリア学院大学図書館

司書 山口 真由美

久留米大学附属図書館

課長補佐 岸川 弘子

国際医療福祉大学九州地区キャンパス図書館

図書館長 藤城 直二

活水女子大学図書館

図書館課長代理 奥村 治輝

長崎総合科学大学附属図書館

図書館課長 山川 邦子

長崎外国語大学教育研究メディアセンター

マルチメディアライブラリー事務室長補佐
別所 佐和子

長崎純心大学早坂記念図書館

所長 田中 芳彦
図書館事務室長 岩崎 由希子

長崎ウエスレヤン大学附属図書館

司書 天野 みゆき

長崎国際大学図書館

図書館長 山本 経之
図書館課長 飯島 芳典
司書 岩崎 節子

九州看護福祉大学附属図書館

図書課長 山崎 貴士
図書係長 福本 直子

日本文理大学図書館

課長補佐 小平 正典

別府大学附属図書館

図書館長 ○仲 嶺 真信
事務次長 吉岡 義信

九州保健福祉大学附属図書館

事務室主任 内田 ゆかり

宮崎産業経営大学附属図書館

図書課員 山口 清美

南九州大学・南九州短期大学図書館

図書館長 隈元 正行

鹿児島純心女子大学附属図書館

図書館長 三間 晶生
図書課長 岩永 眞佐子

沖縄国際大学図書館

図書館長 ○比屋定 泰治
図書課長 金城 智子
図書課長補佐 ○照屋 幸伸

沖縄大学図書館

図書館長 ディリープ・チャンドララール
事務長 糸数 晃
主査 ○上原 将司

沖縄科学技術大学院大学図書館

アシスタントマネージャー 上原 藤子

出席館 34館 51名

欠席館 14館

【私立短期大学】

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館

図書館長

小林 由 憲

出席館 2館 3名

欠席館 2館

鹿児島純心女子短期大学図書館

図書館長

三 島 盛 武

図書館長

西 眞 知 子

第67回 九州地区大学図書館協議会総会議事要録

日時：平成28年4月22日（金）10：00～11：15

会場：ホテル福岡ガーデンパレス 1階
「ガーデンホール」

1. 開会

当番館の九州大学附属図書館 郷原図書館企画課長から開会の宣言があった。

2. 当番館長・幹事館長挨拶

九州地区大学図書館協議会総会当番館並びに幹事館の九州大学附属図書館 宮本館長から挨拶があった。

3. 会議日程・配付資料等の説明

郷原課長から、配付資料等について説明があった。

次いで、本日の日程について、16時閉会を予定していたが、熊本地震の影響による交通機関の乱れ等を考慮し、審議時間を短縮し、午後の講演会終了後14時30分頃に閉会することとし、総会の速やかな進行に協力願いたい旨の説明があった。

4. 議長の選出

「九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則」第2項に基づき、当番館の館長である九州大学附属図書館の宮本館長が選出された。

5. 副議長選出

議長から、副議長として副幹事館である鹿児島純心女子短期大学の三島館長が指名された。

6. 新任館長等紹介

議長から、資料1の出席者名簿に基づき、新任館長等の紹介があった。

7. 表彰式

資料2のとおり、「九州地区大学図書館協議会表彰規程」に基づき13名が表彰された。被表彰者を代表して、福岡工業大学附属図書館の久我 薫氏へ表彰状が授与された。

(1) 勤務期間20年以上の者で退職または転職した者（表彰規程第2条第2号）

鹿児島大学附属図書館 大石 眞弓
他6名

(2) 勤務期間20年に達した者（表彰規程第2条第1号）

鹿児島大学附属図書館 北山 信一
他5名
被表彰者詳細は、別紙1のとおり。

8. 幹事館報告

幹事館の九州大学附属図書館 郷原図書館企画課長から、次の報告があった。

1) 加盟館数について

平成27年度の新規加盟館は無かった。平成28年4月1日現在の加盟館は、国立11館、公立15館、私立48館、私立短大4館の、合計78館である。

2) 九州地区大学図書館協議会誌について

平成28年2月に「九州地区大学図書館協議会誌第58号」を刊行し、既加盟館に発送済みである。熊本大学の山尾館長の巻頭言のほか、大分大学、長崎大学の図書館リニューアル等の紹介、加盟館ニュース、Library Lovers' キャンペーンの報告記事が寄せられ、充実した協議会誌となった。

3) Library Lovers' キャンペーンについて

大学図書館の利用促進と学生の読書促進を目的とし、九州地区の大学図書館が合同で実施しているものである。平成27年度の活動については、この後の「Library Lovers'

キャンペーン実施報告」で報告いただく。

- 4) 目録に関する研修及び講習会の開催について
国立大学部会では、目録に関する研修として RDA に関する講演会・ワークショップを本年 10 月以降に開催することを計画している。また、九州地区の目録講習会については、本年 8 月から 9 月頃に開催する予定であり、会場はいずれも九州大学附属図書館である。

9. 平成 27 年度決算及び監査報告

幹事館から、資料 3 に基づき報告があった。続いて、監査館である中村学園大学から、監査の結果、通帳・出納簿ともに適正な会計処理が行われているとの報告があり、審議の結果、承認された。

10. 平成 28 年度予算（案）

幹事館から、資料 4 の予算案に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

11. 国立、公立、私立、私立短期大学部会報告

(1) 国立大学部会報告

九州大学から、資料 5-1 に基づき、九州地区国立大学図書館協会総会の報告があった。

1) 国立大学図書館協会ビジョンの策定について

本年 6 月開催の国立大学図書館協会総会に向けて検討が進められている国立大学図書館協会ビジョン（案）に対する意見及び文言修正等について協議を行った。

2) 熊本地震の被災学生に対する大学図書館の支援について

熊本地震の被災学生を支援するため、九州地区の各国立大学図書館が図書館利用サービスを通じ支援策に取り組むことについて協議を行った。

(2) 公立大学部会報告

北九州学術研究都市学術情報センターから、資料 5-2 に基づき、九州地区大学図書館協議

会公立大学部会の報告があった。

1) 図書館の利用促進につながる取り組み、空間づくりについて

ラーニングコモンズ等の施設整備や学生参加型取組等による更なる図書館利用の活性化について協議を行った。

2) 承合事項 3 件について、各大学からの報告及び熱心な意見交換が行われ、今後の各館運営に大変有意義な協議会となった。

- ・ ILL システムを利用した文献複写料の支払いについて
- ・ 図書館の広報について
- ・ 選書ツアーの開催状況について

(3) 私立大学部会報告

福岡工業大学から、資料 5-3 に基づき、私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会の報告があった。

1) 議事内容（報告事項、協議事項、承合事項、確認事項等）及び講演会の実施について報告があった。

また、協議事項のうち追加議題 1 件について次の報告があった。

・九州地区協議会関係

沖縄国際大学から、今回の熊本地震で被災した熊本県加盟館 8 大学に協議会参加校の年会費 5000 円を免除することについて提案があり、承認された。

(4) 私立短期大学部会報告

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学から、資料 5-4 に基づき、九州地区私立短期大学図書館協議会総会等の報告があった。

1) 総会では、平成 27 年度事業報告、平成 28 年度決算報告及び監査報告、平成 28 年度事業計画（案）及び予算（案）について審議され、承認された。

2) 研修会においては、九州龍谷短期大学 人間コミュニティ学科教授・図書館長 木原すみ子氏に講演して頂いた。

3) 承合事項では、①図書の貸出期間延長実施に伴う各館の貸出状況の確認、②研究紀要公開についての各館の取組、③ラーニング commonsの各館の現状、④図書の継続貸出の各館の状況について、各提案館から趣旨説明が述べられ質疑応答が行われた。

12. Library Lovers' キャンペーン実施報告

九州大学附属図書館の堀優子氏より、資料6に基づき、2015年度の活動報告が行われ、参加館合同企画「ブックレシピー本を料理しろ。」を実施したこと、また、別紙2のとおり参加館独自企画を実施したこと等について報告があった。

次いで、2013年度から最終年度の2015年度まで3年間の「Library Lovers' キャンペーン」事業を通じて、図書館活動を多様化・活性化するとともに、図書館職員の人材育成に寄与するものとなったことが、本事業の大きな成果である旨の総括があった。なお、本事業については、平成28年度国立大学図書館協会賞に応募し受賞が内定したとの報告があった。また、本事業の活動実績、事例及びテンプレート等をまとめて九州大学附属図書館Webサイトに公開しているため、各大学で活用いただきたいとの情報提供があった。

13. 協議事項

協議題「Library Lovers' キャンペーンについて」

九州大学から提案理由について説明があった。Library Lovers' キャンペーンは、平成22年度から最終年度の平成27年度まで6年間（九州地区大学図書館協議会事業としては平成24年度から平成27年度まで3年間）の事業を通じて、図書館活動の活性化とともに、図書館職員の人材育成に大きな成果があり、キャンペーンの当初の目的は達成されたものと考えられる。平成28年度以降は、これまでの活動実績を参考にしながら、キャンペーンの名称

とロゴを自由に使用して、各大学で活動を展開することについて提案があり、審議の結果、承認された。

14. 承合事項

承合事項1～3について、持ち帰り各館の今後の参考としていただくこととなった。

- ・承合事項1「図書館資料の移動について」（提案大学：大分県立芸術文化短期大学）
- ・承合事項2「ブック・ディテクション・システム（BDS）について」（提案大学：大分県立芸術文化短期大学）
- ・承合事項3「データベースの新規契約又は契約中止タイトルの選定方法」「雑誌・逐次刊行物の新規契約又は契約中止タイトルの選定方法」（提案大学：立命館アジア太平洋大学）

15. 次期役員館の選出

議長から、「九州地区大学図書館協議会会則」第6条に基づき、幹事館及び副幹事館の選出について説明があり、現在の幹事館及び副幹事館の任期は平成27年度～28年度の2年間となっているため、引続き幹事館を九州大学、副幹事館を鹿屋体育大学、九州歯科大学、沖縄国際大学、鹿児島純心女子短期大学とすることが承認された。次に、幹事館の九州大学から、監査館は幹事館に近い福岡市内の大学が望ましく、福岡教育大学にお願いし内諾を得ている旨の説明があり、承認された。

次いで、幹事館の九州大学から、昨日の各部会での検討の結果、表彰委員館には佐賀大学、北九州学術研究都市学術情報センター、長崎総合科学大学、鹿児島女子短期大学が推薦され、編集委員館には福岡教育大学、福岡女子大学、沖縄キリスト教学院大学、鹿児島女子短期大学が推薦され、承認された。

続いて、幹事館の九州大学から、次期当番館は中部地区から選出することになっており、熊本大学が当番となる予定であったが、昨日の国

立大学部会で検討の結果、平成28年4月14日以降相次いで発生した熊本地震の影響を考慮し、被災された熊本大学以外の中部地区の国立大学法人において調整を進め、後日書面回議により決定することとしたい旨の提案があり、承認された。

16. 議長・副議長の解任

予定していた議事が全て終了したため、議長・副議長が解任された。

17. 閉会

当番館の郷原課長より、閉会宣言があった。

(昼食)

18. 講演

九州大学附属図書館 郷原図書館企画課長より講師の紹介があり、今西氏による講演が行われた。

演題「国書総目録・画像データベース・オープンデータ」

講師 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館 館長 今西 祐一郎 氏

以上

別紙1

平成27年度 表彰者一覧表

(1)勤務期間20年以上の者で退職または転職した者(表彰規定第2条第2号)

(所属機関、氏名の50音順)

	表彰の区分	所属大学名	氏名
1	第2条第2号	鹿児島大学附属図書館	大石眞弓
2	"	鹿児島大学附属図書館	木場隆司
3	"	鹿児島大学附属図書館	壽福千代子
4	"	九州大学附属図書館	益森治巳
5	"	九州大学附属図書館	本園由美子
6	"	宮崎大学附属図書館	古賀文子
7	"	琉球大学附属図書館	飯田昇平

(2)勤務期間20年に達した者(表彰規定第2条第1号)

(所属機関、氏名の50音順)

	表彰の区分	所属大学名	氏名
1	第2条第1号	鹿児島大学附属図書館	北山信一
2	"	鹿児島大学附属図書館	中野里香
3	"	九州産業大学図書館	寛多美子
4	"	佐賀大学附属図書館	小野和泉
5	"	崇城大学図書館	新垣まり
6	"	福岡工業大学附属図書館	久我薫

平成27年度決算

一般会計

収入の部		支出の部					(単位：円)	
		科目	予算	決算	備考	科目		予算
会費	468,000	468,000	6,000×78館		総会運営費	300,000	300,000	当番館：宮崎大学
協議会誌代	122,400	120,800	57号：151部		協議会誌発行費	216,000	216,000	58号 (2015) 200部
広告掲載料	220,000	60,000	5社		事務費	20,000	16,925	会誌送料、送金手数料、消耗品費
広告掲載料	70,000	70,000	4社 H26年度分		積立金会計へ繰入	344,400	185,875	総会関係研修事業補助
小計	880,400	718,800			小計	880,400	718,800	

積立金会計

収入の部		支出の部					(単位：円)	
		科目	予算	決算	備考	科目		予算
前年度繰越金	255,500	255,500			表彰経費	85,000	84,672	16名 (1号該当6名、2号該当10名)
預金利息	100	67	8月15日30円、2月13日37円		研修会経費	50,000	50,000	総会講演謝金等
一般会計から繰入	344,400	185,875			研修会補助費	180,000	180,000	各県協議会 (9地区) 研修経費補助
小計	600,000	441,442			次年度繰越金	285,000	126,770	
					小計	600,000	441,442	

平成28年3月25日会計監査実施済
 監査館 中村学園大学図書館図書情報課

課長 坂井 洋 隆



平成28年度予算(案)

一般会計

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	備考	科目	予算	備考
会費	468,000	@6,000×78館	総会運営費	300,000	当番館：九州大学
協議会誌代	118,400	58号(2015)@800円×148部	協議会誌発行費	216,000	59号(2016)200部
広告掲載料	240,000	15社	事務費	20,000	会誌送料、送金手数料、消耗品費
広告掲載料	180,000	10社 27年度分	積立金会計～繰入	470,400	総会関係研修事業補助
小計	1,006,400		小計	1,006,400	

積立金会計

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	備考	科目	予算	備考
前年度繰越金	126,770		表彰経費	85,000	平成27年度実績
預金利息	100		研修会経費	50,000	総会講演謝金等
一般会計から繰入	470,400		研修会補助費	180,000	各県協議会研修経費補助(9地区×20,000円)
			次年度繰越金	282,270	
小計	597,270		小計	597,270	

九州地区大学図書館協議会会則

昭和 25 年 11 月 27 日施行
昭和 32 年 9 月 12 日改正
昭和 41 年 6 月 2 日改正
昭和 51 年 4 月 23 日改正
昭和 55 年 5 月 9 日改正
平成 9 年 4 月 25 日改正
平成 10 年 4 月 24 日改正
平成 20 年 4 月 18 日改正

(名 称)

第 1 条 本会は九州地区大学図書館協議会と称する。

(会 員)

第 2 条 本会は別に定める資格を有する九州地区の大学図書館等（以下「大学図書館」という。）をもって組織する。

会員は大学等の機関をもって一会員とする。

本会に入会するには、所定の入会申込書を提出し、総会の議決を経るものとする。

(目 的)

第 3 条 本会は会員の緊密な連絡と協力によって、大学図書館の施設、管理及び運営等の健全な進歩発達をはかり、会員相互の親睦をはかることを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は前条の目的を達するためにつぎの事業を行う。

1. 図書館の研究・調査に関する事項
2. 研究会・講習会等の開催に関する事項
3. 日本図書館協会等の連絡提携に関する事項
4. 学術図書文献の調査及び総合目録の調整に関する事項
5. 学術図書文献の収集、保存及び活用に関する事項
6. その他必要とする事項

(役 員)

第 5 条 本会に幹事館、副幹事館及び監査館を置く。

幹事館は会務を総括し、本会を代表する。

副幹事館は、幹事館とともに会務を処理する。

監査館は、会計を監査する。

第 6 条 幹事館は、総会で互選し、その任期は 2 年とする。但し、再選を妨げない。

副幹事館は、国立大学、公立大学、私立大学及び私立短期大学の各分会からそれぞれ 1 館を総会で互選し、その任期は 2 年とする。但し、再選を妨げない。

監査館は、総会で互選し、その任期は 1 年とする。但し、再選できない。

(事務所)

第 7 条 本会の事務所は幹事館内におく。

(会議)

第 8 条 本会は毎年 1 回総会を開催する。但し必要に応じ会員の 3 分の 1 以上から請求があった場合は、臨時総会を開くことができる。

第 9 条 総会の運営は、輪番に定められた当番館が幹事館と協議してこれに当たる。

第 10 条 総会は次の事項を行う。

1. 事業計画
2. 決算の承認
3. 予算の決定
4. 幹事館、副幹事館及び監査館の選任及び当番館の決定
5. その他必要なる事項の決定

第 11 条 総会の票決権は 1 大学等の機関につき 1 票とし、議決は多数決による。可否同数の時は幹事館の決するところによる。

(会計)

第 12 条 本会の経費は会費その他をもってあてる。

第 13 条 会費は年額 6,000 円とし、毎会計年度始めに幹事館に納入するものとする。

第 14 条 本会の予算は毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受け次の総会において承認を得なければならない。

第 15 条 本会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

(会則変更)

第 16 条 本会則の変更は総会にはからなければならない。その決定には出席会員の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則

昭和 32 年 9 月 12 日決定

昭和 37 年 10 月 2 日改正

昭和 48 年 5 月 11 日改正

昭和 53 年 5 月 12 日改正

平成 11 年 4 月 23 日改正

平成 26 年 4 月 18 日改正

1. 本協議会総会の運営は簡素を尊重し、輪番に当番を引受け易くするためにこの細則を定める。
2. 総会の議長は当番館の館長とする。
3. 議長は副議長を指名することができる。
4. 当番館は幹事館及び副幹事館と協議の上、2ヶ月前に会員宛日程・場所等を通知し、出席者の職氏名及び協議事項・承合事項の提出を求める招請状を送ること。
但し、緊急を要する臨時総会等の場合はこの限りでない。

5. 当番館は協議事項をまとめ、議題として提案理由、又は簡単な説明を付して、出席者に配付し、調査研究の余地を充分与えるように努めること。
6. 当番館は総会の議事録を作成し、会員に配付するものとする。
7. 幹事館及び副幹事館は当番館と協力して、総会で決議された要求事項を貫徹するよう努力する。
8. 総会と同時に会員のための研修会を行うものとする。
9. 会員以外の出席を許すことがある。但し票決権はない。
10. 当番館は加盟館の所属県を次の三地区に分け、地区ごとに等しく持ち廻る。

福岡地区	福岡県
中部地区	長崎県、佐賀県、熊本県、大分県
南部地区	鹿児島県、宮崎県、沖縄県
11. 総会の経費は主として会費及び出席者から徴収する金員より支出し、総会の議決を経た予算案によって実行するものとする。
12. 研修会の講師招聘に要する旅費、謝礼等の費用は、毎年会費の内から積立てて支弁する。

九州地区大学図書館協議会入会に関する細則

昭和 32 年 9 月 1 日施行
平成 9 年 4 月 25 日改正
平成 20 年 4 月 18 日改正

1. 本協議会へ入会を希望する大学図書館（以下「入会申込館」という。）は、最寄りの本協議会 会員の紹介書（別記様式 1）により、入会申込書（別記様式 2）を、総会の 3ヶ月前までに幹事館に提出する。
2. 紹介を依頼された会員は、総会において入会申込館の概略を説明する。
3. 入会資格の基準は下記のとおりとする。
 - (1) 大学、短期大学又はこれに準じる教育研究機関の図書館施設であること。
 - (2) 本協議会の目的及び事業に賛同し、熱意が十分認められること。
4. 入会申込館は、総会当日は、入会承認まではオブザーバーとして出席することができる。

別記様式 1

九州地区大学図書館協議会入会紹介書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大学名

図書館名

図書館長名

公印

下記の図書館は、本協議会の目的及び事業に賛同され、また熱意が十分認められますので、本協議会への入会を紹介します。

記

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 図 書 館 名：
4. 図 書 館 長 名：
5. 所 在 地：

別記様式2

九州地区大学図書館協議会入会申込書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大学名

図書館名

図書館長名

公印

貴協議会の趣旨に賛同し、平成 年度からの入会を申し込みます。

記

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 大 学 設 置 年：
4. 学 生 数：
5. 図 書 館 名：
6. 所 在 地：
(電話、FAX 番号)
7. 図 書 館 長 名：
8. 図 書 館 の 概 要：(別紙)
9. 紹 介 館 名：

別紙

図 書 館 の 概 要

図 書 館 名			
事務責任者職・氏名	(電話番号)		
図 書 館 職 員 数	人 (内、司書数 人)		
図 書 館 延 床 面 積	m ²	閲覧座席数	席
蔵 書 冊 数	冊 (内 和書 冊、洋書 冊)		
年間受入図書冊数	冊	年間受入雑誌種数	種
年 間 開 館 日 数	日	通常開館時間	時 分～ 時 分
土 曜 開 館	1 実施 2 未実施		
日 曜 祝 日 開 館	1 実施 2 一部実施 3 未実施		
奉 仕 対 象 学 生 数	人	奉仕対象教職員数	人
年 間 貸 出 冊 数	冊		
図 書 館 相 互 協 力	図書貸借	1 実施 2 未実施	
	文献複写	1 実施 2 未実施	
学外者へのサービス	1 実施 2 未実施		
コンピュータの導入	1 導入済 2 未導入		
コンピュータの適用業務	1 貸出 2 図書受入 3 図書整理 4 雑誌管理 5 OPAC		
ネットワーク環境	1 学内 LAN 接続済 2 インターネット接続済		
国立情報学研究所との接続	1 接続 (1 NACSIS-CAT/ILL 2 NACSIS-IR 3 その他) 2 未接続		

九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規

平成 2 年 4 月 20 日施行

平成 5 年 4 月 23 日改正

平成 11 年 4 月 23 日改正

1. (1) 本協議会誌は、総会記事のほか各部会報告、ニュース等を掲載し、九州地区大学図書館間の情報誌としての機能を果たすこととする。
(2) 本協議会誌編集のために編集委員会を設ける。
2. (1) 編集委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された編集委員館で構成する。
(2) 幹事館及び総会当番館は、業務上の必要から編集委員館として参加することとし、上記 2-(1)の編集委員館を兼ねることができる。
(3) 各部会の編集委員館は、幹事館の近隣地区から選出されることが望ましい。
(4) 編集委員館の任期は 1 年とし再任を妨げない。
3. (1) 編集委員館は、それぞれの所属する各部会の記事の提出を担当する。
(2) 総会当番館は、総会記事を担当する。
(3) 幹事館は、編集に関する事務を担当する。
4. 本協議会誌発行のため、印刷代、送料、編集会議費、原稿執筆等謝礼は、毎年会費の内から支弁する。
5. 本協議会誌に掲載された論文・記事は、九州地区大学図書館協議会ホームページに掲載することとする。

九州地区大学図書館協議会表彰規程

(目 的)

第 1 条 この規程は、九州地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に加盟の大学図書館職員を表彰するため、必要な事項を定めることを目的とする。

(表彰を受ける者)

第 2 条 表彰は、次の各号の 1 に該当し、かつ勤務成績が良好である者について行う。

- (1) 勤務期間 20 年に達した者
- (2) 勤務期間 20 年以上の者で退職または転職した者
- (3) 図書館学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者

(表彰状の授与)

第 3 条 表彰は、協議会が別紙様式による表彰状を授与することによって行う。

2 第 2 条に該当する者については、前項の表彰状にあわせて記念品を贈呈することができる。

(被表彰者の選考)

第 4 条 表彰をうける者は、所属図書館長の推薦（別紙様式による）に基づき、表彰委員会が選考し、協議会の総会の承認を経て決定する。

(表彰委員会)

第5条 表彰委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された表彰委員館各1館で構成し、任期は1年として再任を妨げない。

(表彰の日)

第6条 表彰は、協議会の総会において行う。

(勤務期間の計算)

第7条 第2条第1号および第2号の勤務期間は、国公立大学図書館およびその他の図書館等に在職した期間とし、10年以上を加盟の大学図書館等に勤務したものでなければならない。

2 次の各号に掲げる期間は、勤務期間から除算する。

(1) 休職の期間（公傷病の期間は除く）

(2) 懲戒処分により停職された期間

(雑 則)

第8条 この規程に定めるもののほか、表彰の実施に関する必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年5月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月25日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月18日から施行する。

文書番号

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会幹事館

〇〇大学附属図書館長 殿

〇〇大学（附属）図書館長

〇 〇 〇 〇

平成 年度表彰者の推薦について

下記の者を本年度の総会における被表彰者として推薦しますのでよろしくお取り計らい願います。
なお、別紙のとおり表彰者調書を提出します。

表彰者調書

〇〇大学（附属）図書館

職名		ふりがな 氏名		生年月日	年 月 日
表彰の区分	第2条第1号 第2条第2号 第2条第3号				
勤務成績					
第7条第2項第2号該当の有無 有 ・ 無					
履 歴 事 項					
年 月 日	勤 務 内 容 等	勤 務 期 間			
		加盟館での勤務期間	その他の図書館等 での勤務期間		
～		年 月 日	年 月 日		
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
計					
		合 計 年 月 日			

- 注 (1) 勤務期間の計算は暦日数によるものとし日を月に換算するときは30日をもって1月とすること。
- (2) 第7条第2項各号の除算期間は朱書すること。
- (3) 第2条第3号に該当する場合は、「勤務成績」欄は「業績」と書きかえて記入し、参考となる資料等を添付すること。

表彰状様式（1）第2条第1号および第2号該当者

表 彰 状

殿

あなたは 年のがい間大学図書館関係の業務に精励されその功労はまことに大きいものがあります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

表彰状様式（2）第2条第3号該当者

表 彰 状

殿

あなたは図書館学の研究調査に精励されその向上発展に貢献されたことはまことに顕著なものがあります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

研修会の補助に関する申合せ

平成6年9月20日決定
平成7年9月1日改正
平成8年4月24日改正
平成9年4月25日改正
平成10年4月25日改正
平成15年4月25日改正
平成24年4月20日改正
九州地区大学図書館協議会

地区の大学図書館活動を発展させるため、研修会、講演会等（以下「研修会」という。）の経費を補助する申合せ事項を次のとおり定める。

1. 研修会経費を補助する対象は、九州地区大学図書館協議会に加盟している大学図書館が主体となって構成する県又は地区単位の組織とし、別紙のとおりとする。
2. 補助する経費の金額は、年間1組織に対して2万円を限度とする。
3. 研修会に要する経費の補助を受けようとするときは、別記様式による申請書を幹事館に提出するものとする。
4. 経費の補助を受けた組織は、本協議会誌に活動報告を掲載するものとする。
5. 経費の支出は、積立金会計を適用する。
6. 新たな組織から経費の補助の申し出があったときは、総会において承認を得るものとする。
7. これに関する事務は、幹事館で行う。

別紙

経費を補助する県又は地区単位の組織

1. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（北部地区）
2. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（福岡地区）
3. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（南部地区）
4. 長崎県大学図書館協議会
5. 熊本県大学図書館協議会
6. 大分県大学図書館協議会
7. 宮崎県大学図書館協議会
8. 鹿児島県大学図書館協議会
9. 沖縄県大学図書館協議会

別記様式

平成 年度九州地区大学図書館協議会・研修会経費補助申請書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

幹事館 殿

組織名
代表者
(所属大学)

九州地区大学図書館協議会の研修会経費の補助を受けたく、下記のとおり申請します。

記

研 修 会 名 及 び 内 容	
開 催 期 間	自 平成 年 月 日 () 時 分 至 平成 年 月 日 () 時 分
開 催 場 所	
参 加 機 関 数	
参 加 人 数	
必 要 経 費 (具体的に)	ア. 講 師 謝 金 _____ イ. 資 料 代 金 _____ ウ. 会 場 借 上 費 _____ エ. そ の 他 _____ 合 計 _____
連 絡 担 当 者	氏名 職 電話

* 研修内容は、大学図書館活動を促進させるテーマであること。

副幹事館の役割

平成 10 年 8 月 31 日
幹事館・副幹事館会議

- 1 通常時
 1. 年度の事業・活動についての立案・協議
 2. 所属部会との連絡調整と情報の提供
 3. 入会の勧誘等、協議会の広報（特に所属部会の各大学に対して）
 4. ホームページ充実のための提言案、意見具申
- 2 会誌発行時
各部会から編集委員館は選出されているため、特に役割はないと思うが
・所属部会の情報（研究発表等、原稿情報）の提供等
- 3 総会時
 1. 副議長職に館長を選出等、当番館及び幹事館と協力しての総会運営
 2. 前日決定された各部会における役員館の事務局への連絡
 3. 総会終了後、当番館作成の議事録の確認
- 4 その他
別段ある場合は、適宜副幹事館から提案

九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について

平成 10 年 8 月 31 日
平成 20 年 1 月 30 日改正
幹事館・副幹事館会議

1. 九州地区大学図書館協議会ホームページ（以下、「ホームページ」という。）は、九州大学附属図書館のサーバに置く。
(URL <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>)
2. ホームページの管理、維持（デザイン・構成を含む）は、九州地区大学図書館協議会事務局（以下、「事務局」という。）が行う。
3. ホームページに掲載する事項は当面以下のものを中心に構成するものとし、それぞれ以下の館が作成する。
 - ・トピックス&NEWS
加盟館、各設置部会毎協議会、各県毎協議会等からの原稿に基づき事務局が作成
総会議事録は総会当番館が原稿を作成

- ・加盟館一覧 事務局が作成
 - ・役員館一覧 事務局が作成
 - ・当番館一覧 事務局が作成
 - ・九州地区大学図書館協議会誌
事務局が作成（論文等執筆者に対しては原稿依頼時にホームページ掲載方の承諾を得るものとする。）
 - ・地区内の図書館活動
各設置部会毎の図書館協議会等及び各県毎協議会が作成
 - ・各種関連資料集 事務局が作成
 - ・関連サイトへのリンク集 事務局が作成
 - ・地区内各館の相互利用案内 各加盟館からの原稿に基づき事務局が作成
 - ・フォーラムページ
協議会が設定するテーマに対する加盟館からの自由な意見・回答のページで、投稿は直接電子メールによる
4. 「3.」のほか、ホームページに文書・記事等の掲載を希望する副幹事館及び加盟館は、HTML形式等で原稿を作成し、事務局に送付するものとする。
事務局は内容を確認のうえ、ホームページに掲載する。

九州地区大学図書館協議会加盟館一覧

H29. 1. 31 現在

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
国 立	九州工業大学 附属図書館 (館長 恵良秀則, 図書館・情報推進課長 岩村哲也)	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1の1	093-884-3071 (093-884-3075)
	福岡教育大学 学術情報センター図書館 (センター長 池田 修, 学術情報課長 栗林陸生)	811-4192	宗像市赤間文教町1番5号	0940-35-1268 (0940-35-1705)
	九州大学 附属図書館 (館長 宮本一夫, 事務部長 木村 優)	812-8581	福岡市東区箱崎6丁目10の1	092-642-2325 (092-642-2330)
	佐賀大学 附属図書館 (館長 米山博志, 学術研究協力部長 市山郁生)	840-8502	佐賀市本庄町1	0952-28-8902 (0952-28-8909)
	長崎大学 附属図書館 (館長 中田英昭, 学術情報部長 上野恒信)	852-8521	長崎市文教町1の14	095-819-2193 (095-819-2196)
	熊本大学 附属図書館 (館長 山尾敏孝, 教育研究支援部長 中村 武)	860-8555	熊本市中央区黒髪2丁目40の1	096-342-2213 (096-342-2210)
	大分大学 学術情報拠点 (拠点長 岸田哲子, 研究・社会連携部長 安部武司)	870-1192	大分市大字旦野原700	097-554-7482 (097-554-7488)
	宮崎大学 附属図書館 (館長 児玉 修, 事務長 小川 稔)	889-2192	宮崎市学園木花台西1丁目1	0985-58-2879 (0985-58-2896)
	鹿児島大学 附属図書館 (館長 平井一臣, 学術情報部長 渡邊俊彦)	890-0065	鹿児島市郡元1丁目21の35	099-285-7415 (099-285-7413)
	鹿屋体育大学 附属図書館 (館長 山田理恵, 学術図書情報課長 宮園礼子)	891-2393	鹿屋市白水町1	0994-46-4874 (0994-46-4157)
	琉球大学 附属図書館 (館長 仲座栄三, 事務部長 山本和雄)	903-0214	中頭郡西原町字千原1番地	098-895-8153 (098-895-8154)
	公 立	北九州市立大学 図書館 (館長 松尾太加志, 学術情報課長 江上照明)	802-8577	北九州市小倉南区北方4丁目2の1
九州歯科大学 附属図書館 (館長 牧 憲司, 学務部長 赤嶺勇司)		803-8580	北九州市小倉北区真鶴2丁目6の1	093-582-1131 (093-583-7388)
北九州学術研究都市 学術情報センター (総務企画部長 甲山乙也, 学術情報担当課長 竹下誠次)		808-0135	北九州市若松区ひびきの1番3号	093-695-3150 (093-695-3152)
福岡女子大学 学術情報センター(図書館) (館長 向井 剛, 経営管理部長 初山 宏)		813-8529	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1の1	092-661-2416 (092-661-2416)
福岡県立大学 附属図書館 (館長 福田恭介, 学務部長 田中和樹)		825-8585	田川市伊田4395	0947-42-1760 (0947-42-9457)
長崎県立大学 附属図書館 (館長 武藤慶子, 佐世保校館長 石田和彦, 佐世保校図書館課長 松尾信哉, シーボルト校図書館課長 川原光次)		858-8580	佐世保市川下町123	0956-47-5958 (0956-26-2100)
熊本県立大学 学術情報メディアセンター図書館 (センター長 村尾治彦, 事務長 安達直昭)		862-8502	熊本市東区月出3丁目1番100号	096-321-6614 (096-383-2999)
大分県立芸術文化短期大学 附属図書館 (館長 河上 央, 企画情報課長 三好民郎)		870-0833	大分市上野丘東1の11	097-545-4235 (097-545-4235)
大分県立看護科学大学 附属図書館 (館長 藤内美保, 総務グループリーダー 石倉 順)		870-1201	大分市大字廻栖野2944-9	097-586-4330 (097-586-4373)
宮崎公立大学 附属図書館 (館長 山口裕司, 事務長 鈴木和彦)		880-8520	宮崎市船塚1丁目1番地2	0985-20-4814 (0985-20-4806)
宮崎県立看護大学 附属図書館 (館長 浅野昌充, 総務課長 鬼東良一)		880-0929	宮崎市まなび野3-5-1	0985-59-7756 (0985-59-7773)
鹿児島県立短期大学 附属図書館 (館長 岡村俊彦, 副館長 山之内俊文)		890-0005	鹿児島市下伊敷1丁目52番1号	099-803-4475 (099-803-4473)

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
公立	沖縄県立看護大学 附属図書館 (館長 神里みどり, 主査 平安美和子)	902-8513	那覇市与儀1-24-1	098-833-8806 (098-833-5134)
	沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館 (館長 波多野 泉, 主任 高江洲 守)	903-8602	那覇市首里当蔵町1-4	098-882-5038 (098-882-5068)
	名桜大学 附属図書館 (館長 小川寿美子, 図書課長 赤嶺達也)	905-8585	沖縄県名護市字為又1220-1	0980-51-1062 (0980-51-1065)
私立	西日本工業大学 図書館 (館長 大木正彦, 事務部長 山崎倫明)	800-0394	福岡県京都郡苅田町新津1-11	0930-23-7729 (0930-24-7900)
	西南女学院大学 図書館 (館長 南里宏樹, 課長 西川 忍)	803-0835	北九州市小倉北区井堀1丁目3の5	093-583-5959 (093-592-1885)
	九州国際大学 図書館 (館長 伊東美津, 事務室長 増田恵次郎)	805-8512	北九州市八幡東区平野1丁目6の1	093-671-8919 (093-671-8920)
	九州共立大学 附属図書館 (館長 末永勝昭, 図書情報課長 松尾伸二)	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3036 (093-603-2260)
	九州女子大学・短期大学 附属図書館 (館長 末永勝昭, 図書情報課長 松尾伸二)	807-8586	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	093-693-3124 (093-603-0494)
	福岡工業大学 附属図書館 (館長 阿山光利, 事務長 中島良二)	811-0295	福岡市東区和白東3-30-1	092-606-0691 (092-606-7389)
	福岡女学院大学 図書館 (館長 二階堂 整, 課長 吉村球夫)	811-1313	福岡市南区日佐3丁目42の1	092-575-6402 (092-575-4605)
	九州産業大学 図書館 (館長 渡邊雄二, 事務部長 徳永譲二)	813-8503	福岡市東区松香台2丁目3の1	092-673-5382 (092-673-5999)
	福岡大学 図書館 (館長 有岡律子, 事務部長 井口紀子)	814-0180	福岡市城南区七隈8丁目19の1	092-871-6631 (092-865-3794)
	中村学園大学 図書館 (館長 相良康弘, 推進役 高田和則)	814-0198	福岡市城南区別府5丁目7の1	092-851-2573 (092-841-7762)
	西南学院大学 図書館 (館長 古田雅憲, 事務部長 佐藤 誠)	814-8511	福岡市早良区西新6丁目2の92	092-823-3426 (092-823-3480)
	純真学園大学 図書館 (館長 加藤亮二, 主任 山本哲也)	815-8510	福岡市南区筑紫丘1丁目1番1号	092-541-1527 (092-541-1542)
	第一薬科大学 図書館 (館長 福田直通, 職員 原 直好)	815-8511	福岡市南区玉川町22の1	092-541-0161 (092-542-9776)
	九州情報大学 附属図書館 (館長 大浦洋子, 図書館司書 井上理恵子)	818-0117	太宰府市宰府6丁目3番1号	092-928-4000 (092-928-3200)
	筑紫女学園大学 附属図書館 (館長 大津忠彦, 課長 徳田 孝)	818-0192	太宰府市石坂2丁目12の1	092-925-9910 (092-925-3318)
	福岡国際大学・福岡女子短期大学 図書館 (館長 中島和宣, 課長 大橋祐子)	818-0193	太宰府市五条4丁目16-1	092-922-3604 (092-922-3596)
	久留米工業大学学術情報センター (館長 高橋雅仁, センター室長 小林敬二)	830-0052	久留米市上津町2228-66	0942-65-3480 (0942-22-2385)
	聖マリア学院大学 図書館 (館長 松尾ミヨ子, 司書 山口真由美)	830-8558	久留米市津福本町422	0942-37-1138 (0942-37-1138)
	久留米大学 附属図書館 (館長 江藤彰彦, 課長 二又紅美子)	839-8502	久留米市御井町1635	0942-44-4015 (0942-43-0348)
	保健医療経営大学 情報メディアセンター図書館 (センター長 伊達卓二, 図書係 古澤亜紀)	835-0018	みやま市瀬高町高柳960-5	0944-67-7007 (0944-63-3003)
国際医療福祉大学 九州地区キャンパス図書館 (館長 藤城直二, 司書 松永稔史)	831-8501	大川市榎津137-1	0944-89-2143 (0944-86-6000)	
西九州大学 附属図書館 (館長代行 坂田周一, 課長 中島哲男)	842-8585	神埼市神埼町尾崎4490-9	0952-37-9299 (0952-53-7869)	
活水女子大学 図書館 (館長 黒木 香, 課長代理 奥村治輝)	850-8515	長崎市東山手町1の50	095-820-6028 (095-823-3701)	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
私	長崎総合科学大学 附属図書館 (館長 ブライアン・F・パークガフニ, 図書課長 山川邦子)	851-0193	長崎市網場町536	095-838-5142 (095-838-2072)
	長崎外国語大学 教育研究メディアセンター (センター長 マラ クラウディア, マルチメディアライブラリー事務室長補佐 別所佐和子)	851-2196	長崎市横尾3-15-1	095-840-2005 (095-840-2205)
	長崎純心大学 早坂記念図書館 (館長 田中芳彦, 事務室長 岩崎由希子)	852-8558	長崎市三ツ山町235	095-846-0084 (095-845-4279)
	長崎ウエスレヤン大学 附属図書館 (館長 菅原良子, 司書 植松久子)	854-0082	諫早市西栄田町1212-1	0957-26-8203 (0957-26-0244)
	長崎国際大学 図書館 (館長 山本経之, 図書課長 飯島芳典)	859-3298	佐世保市ハウステンボス町2825-7	0956-20-5560 (0956-39-4894)
	崇城大学 図書館 (館長 井芹浩文, 課長 高吉夕香)	860-0082	熊本市西区池田4丁目22の1	096-326-3419 (096-359-3002)
	九州ルーテル学院大学 図書館 (館長 高野美雪, 課長 坂本美樹)	860-8520	熊本市中央区黒髪3丁目12-16	096-343-2494 (096-343-0354)
	熊本学園大学 附属図書館 (館長 林 裕, 図書情報課長 石川知子)	862-8680	熊本市中央区大江2丁目5番1号	096-371-8047 (096-364-5173)
	東海大学 附属図書館 熊本・阿蘇図書館 (館長 岩橋正國(熊本), 森友靖生(阿蘇))	862-8652	熊本市東区渡鹿9-1-1	096-386-2634(熊本) 096-386-2639(阿蘇)
	熊本保健科学大学 附属図書館 (館長 飯山準一, 教学支援センター長 三牧 泉)	861-5598	熊本市北区和泉町325	096-275-2264 (096-275-2265)
	九州看護福祉大学 附属図書館 (館長 山本恵子, 図書課長 山崎貴士)	865-0062	玉名市富尾888	0968-75-1840 (0968-75-1873)
	日本文理大学 図書館 (館長 岡部勝成, 課長補佐 小平正典)	870-0397	大分市大字一木1727	097-524-2711 (097-593-5166)
	立命館アジア太平洋大学 ライブラリー (総合情報センター長 李 燕, アカデミック・オフィス課長 大澤芳樹)	874-8577	別府市十文字原1-1	0977-78-1140 (0977-78-1141)
	別府大学 附属図書館 (館長 仲嶺真信, 事務次長 吉岡義信)	874-8501	別府市大字北石垣82	0977-66-9633 (0977-66-9632)
	九州保健福祉大学 附属図書館 (館長 倉内 紀子, 主任 内田ゆかり)	882-8508	延岡市吉野町1714-1	0982-23-5562 (0982-23-5560)
	宮崎産業経営大学 附属図書館 (館長 田代裕子, 課長 政野光弘)	880-0931	宮崎市古城町丸尾100	0985-52-3205 (0985-50-4699)
	南九州大学・南九州短期大学 図書館 (館長 隈元正行, 図書課長 赤木裕美)	880-0032	宮崎市霧島5-1-2	0985-83-3430 (0985-83-3431)
	立 宮崎学園 図書館 (宮崎国際大学・宮崎学園短期大学) (館長 菅 邦男, 図書課長 小橋智子)	889-1605	宮崎市清武町加納丙1415	0985-85-1410 (0985-85-8189)
	鹿児島国際大学 附属図書館 (館長 小川英司, 図書館事務室長 濱田照美)	891-0197	鹿児島市坂之上8-34-1	099-263-0732 (099-261-1198)
	鹿児島純心女子大学 附属図書館 (館長 三間晶生, 図書課長 岩永眞佐子)	895-0011	薩摩川内市天辰町2365	0996-23-5311 (0996-23-5030)
志学館大学 図書館 (館長 新内康子, 主任司書 荻迫 香)	890-8504	鹿児島市紫原一丁目59-1	099-812-8509 (099-257-0308)	
沖縄国際大学 図書館 (館長 比屋定泰治, 課長 金城智子)	901-2701	宜野湾市宜野湾2丁目6番1号	098-892-1111 (098-893-3274)	
沖縄大学 図書館 (館長 デイル・ファントラーニ, 事務長 糸数 晃)	902-8521	那覇市字国場555	098-832-5577 (098-834-1127)	
沖縄キリスト教学院 図書館 (館長 内間清晴, 課長 仲間末美)	903-0207	沖縄県中頭郡西原町字翁長777	098-946-1236 (098-946-1237)	
沖縄科学技術大学院大学 図書館 (館長 ゴードン・アバースノット, アシスタント・マネージャー 上原藤子)	904-0495	沖縄県国頭郡恩納村字茶谷1919-1	098-982-3755 (098-966-8817)	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
私立 短大	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 図書館 (館長 山田千秋, 図書課長 小林由憲)	803-8511	北九州市小倉北区下到尾津5の1の1	093-561-3541 (093-592-6184)
	東九州短期大学 図書館 (館長 武田まち子, 司書 釘丸知子)	871-0014	中津市大字一ツ松2 1 1	0979-22-2425 (0979-25-3935)
	鹿児島女子短期大学 附属図書館 (館長 瀬戸博幸, 課長 南谷 久)	890-8565	鹿児島市高麗町6-9	099-254-9195 (099-254-5914)
	鹿児島純心女子短期大学 図書館 (館長 三島盛武, 課長 西 真知子)	890-8525	鹿児島市唐湊4丁目2 2 の1	099-253-2677 (099-254-5247)

九州地区大学図書館協議会役員館一覽

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和48年度 (24)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	福岡教育大学 長崎国際経済大学 福岡大学	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南学院大学	
昭和49年度 (25)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	九州工業大学 長崎国際経済大学 西南学院大学	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 福岡大学	
昭和50年度 (26)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	佐賀大学 北九州大学 久留米大学	長崎大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和51年度 (27)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 九州歯科大学 久留米大学	大分大学 長崎国際経済大学 西南学院大学	
昭和52年度 (28)	九州大学	福岡大学	国 公 私	福岡教育大学 福岡女子大学 西南学院大学	鹿児島大学 熊本女子大学 九州産業大学	
昭和53年度 (29)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南学院大学	九州芸術工科大学 長崎国際経済大学 久留米大学	
昭和54年度 (30)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 北九州大学 九州産業大学	佐賀大学 九州歯科大学 久留米大学	
昭和55年度 (31)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎大学 福岡社会保育短大 西南学院大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和56年度 (32)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	福岡教育大学 熊本女子大学 九州産業大学	熊本大学 鹿児島県立短大 福岡大学	
昭和57年度 (33)	九州大学	福岡大学	国 公 私	長崎大学 北九州大学 八幡大学	鹿児島大学 福岡女子大学 熊本商科大学	
昭和58年度 (34)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	琉球大学 福岡社会保育短大 鹿児島経済大学	宮崎医科大学 鹿児島県立短大 八幡大学	
昭和59年度 (35)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 中村学園大学	大分医科大学 長崎県立女子短大 西日本工業大学	
昭和60年度 (36)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	宮崎大学 熊本女子大学 鹿児島経済大	九州工業大学 大分県立芸術短大 西日本工業大学	
昭和61年度 (37)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	熊本大学 北九州大学 長崎総合科学大学	大分大学 福岡社会保育短大 第一薬科大学	
昭和62年度 (38)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	宮崎医科大学 福岡女子大学 九州東海大学	大分医科大学 九州歯科大学 沖縄国際大学	

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和63年度 (39)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 福岡大学	琉球大学 鹿児島県立短期大学 八幡大学	
平成元年度 (40)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 長崎県立女子短期大学 西南学院大学	佐賀大学 熊本女子大学 中村学園大学	
平成2年度 (41)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	福岡教育大学 北九州大学 九州産業大学	長崎大学 大分県立芸術文化短期大学 熊本商科大学	九州大学 大分医科大学 福岡女子大学 福岡大学 福岡女子短期大学
平成3年度 (42)	九州大学	福岡大学	国 公 私	九州工業大学 福岡県社会保育短期大学 久留米大学	鹿児島大学 長崎県立大学 西日本工業大学	九州大学 鹿屋体育大学 九州歯科大学 中村学園大学 筑紫女学園短期大学
平成4年度 (43)	九州大学	福岡女子短期大学	国 公 私	宮崎大学 福岡女子大学 鹿児島経済大学	大分大学 九州歯科大学 活水女子大学	九州大学 福岡教育大学 北九州大学 九州国際大学 東筑紫短期大学
平成5年度 (44)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎医科大学 熊本女子大学 活水女子大学	大分医科大学 鹿児島県立短期大学 鹿児島経済大学	九州大学 熊本大学 福岡女子大学 西南学院大学 筑紫女学園短期大学
平成6年度 (45)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	熊本大学 大分県立芸術文化短期大学 活水女子大学	佐賀医科大学 宮崎公立大学 鹿児島経済大学	九州大学 宮崎大学 福岡県立大学 九州産業大学 筑紫女学園短期大学
平成7年度 (46)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	鹿屋体育大学 北九州大学 第一薬科大学	琉球大学 長崎県立大学 南九州大学	九州大学 九州工業大学 九州歯科大学 久留米大学 筑紫女学園短期大学
平成8年度 (47)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州東海大学	佐賀大学 九州歯科大学 熊本学園大学	九州大学 大分大学 北九州大学 九州共立大学 西南女学院短期大学
平成9年度 (48)	九州大学	福岡教育大学	国 公 私	九州工業大学 熊本県立大学 九州女子大学	宮崎大学 鹿児島県立短期大学 久留米工業大学	九州大学 佐賀大学 九州歯科大学 福岡大学 西南女学院短期大学

年次 (回次)	幹事館	副 幹 事 館		監 査 館	表彰委員館	編集委員館
平成10年度 (49)	九州大学	国 公 私 短	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州国際大学 中九州短期大学	中村学園大学	福岡教育大学 長崎大学 福岡県立大学 長崎県立女子短期大学 西日本工業大学 筑紫女学園大学	九州大学 佐賀医科大学 福岡女子大学 第一薬科大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成11年度 (50)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島経済大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡大学	鹿児島大学 大分県立芸術文化短期大学 別府大学 中九州短期大学	九州大学 佐賀大学 長崎大学 福岡県立大学 熊本工業大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成12年度 (51)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島国際大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡女子大学	大分大学 宮崎県立大学 宮崎国際大学 中九州短期大学	九州大学 沖縄国際大学 宮崎医科大学 北九州大学 西南女学院大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成13年度 (52)	九州大学	国 公 私 短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡教育大学	宮崎医科大学 北九州市立大学 筑紫女学園大学 沖縄キリスト教短期大学	鹿児島大学 九州歯科大学 西九州大学 活水女子短期大学 九州大学 九州女子大学
平成14年度 (53)	九州大学	国 公 私 短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡工業大学	大分医科大学 熊本県立大学 九州情報大学 九州大谷短期大学	琉球大学 福岡県立大学 鹿児島純心女子大学 活水女子短期大学 九州大学 大分大学
平成15年度 (54)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	筑紫女学園大学・短期大学	鹿屋体育大学 宮崎県立看護大学 九州ルーテル学院大学 筑紫女学園大学・短期大学	九州工業大学 福岡女子大学 九州看護福祉大学 西南女学院大学・短期大学 九州大学 宮崎大学
平成16年度 (55)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	西南学院大学	熊本大学 福岡女子大学 志學館大学 東九州女子短期大学	福岡教育大学 九州歯科大学 南九州大学・南九州短期大学 西南女学院大学・短期大学
平成17年度 (56)	九州大学	国 公 私 短	長崎大学 熊本県立大学 九州東海大学 鹿児島純心女子短期大学	九州産業大学	琉球大学 沖縄県立看護大学 西南女学院大学 鹿児島純心女子短期大学	熊本大学 北九州市立大学 西日本工業大学 鹿児島純心女子短期大学
平成18年度 (57)	九州大学	国 公 私 短	長崎大学 熊本県立大学 九州東海大学 鹿児島純心女子短期大学	福岡国際大学・ 福岡女子短期大学	佐賀大学 鹿児島県立短期大学 福岡女学院大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	鹿屋体育大学 福岡県立大学 筑紫女学園大学・短期大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

年次 (回次)	幹事館	副幹事館	監査館	表彰委員館	編集委員館
平成19年度 (58)	九州大学	国 公 私 短 熊本大学 宮崎県立看護大学 福岡大学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>	中村学園大学	九州工業大学 九州歯科大学 久留米工業大学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>	福岡教育大学 福岡女子大学 九州女子大学・短期大学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>
平成20年度 (59)	九州大学	国 公 私 短 熊本大学 宮崎県立看護大学 福岡大学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>	福岡教育大学	宮崎大学 大分県立看護科学大学 別府大学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>	長崎大学 九州歯科大学 鹿児島国際大学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>
平成21年度 (60)	九州大学	国 公 私 短 大分大学 福岡県立大学 九州産業大学 九州大谷短期大学	福岡女子大学	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡国際大学・福岡女子短期大学 鹿児島女子短期大学	鹿児島大学 北九州市立大学 西南女学院大学 中九州短期大学
平成22年度 (61)	九州大学	国 公 私 短 大分大学 福岡県立大学 九州産業大学 九州大谷短期大学	福岡大学	長崎大学 福岡女子大学 鹿児島純心女子大学 鹿児島女子短期大学	九州工業大学 <small>北九州学術研究都市学術情報センター</small> 活水女子大学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>
平成23年度 (62)	九州大学	国 公 私 短 宮崎大学 長崎県立大学 熊本学園大学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>	福岡工業大学	鹿児島大学 大分県立芸術文化短期大学 福岡女学院大学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>	佐賀大学 福岡県立大学 九州国際大学 九州大谷短期大学
平成24年度 (63)	九州大学	国 公 私 短 宮崎大学 長崎県立大学 熊本学園大学 <small>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学</small>	筑紫女学園大学・短期大学	大分大学 沖縄県立看護大学 九州東海大学 九州大谷短期大学	琉球大学 福岡女子大学 沖縄国際大学 鹿児島女子短期大学
平成25年度 (64)	九州大学	国 公 私 短 鹿児島大学 鹿児島県立短期大学 久留米大学 鹿児島女子短期大学	西南学院大学	鹿屋体育大学 北九州市立大学 九州共立大学 鹿児島純心女子短期大学	宮崎大学 九州歯科大学 聖マリア学院大学 鹿児島純心女子短期大学
平成26年度 (65)	九州大学	国 公 私 短 鹿児島大学 鹿児島県立短期大学 久留米大学 鹿児島女子短期大学	九州産業大学	熊本大学 熊本県立大学 九州保健福祉大学 東九州短期大学	大分大学 北九州市立大学 西九州大学 東九州短期大学
平成27年度 (66)	九州大学	国 公 私 短 鹿屋体育大学 九州歯科大学 沖縄国際大学 鹿児島純心女子短期大学	中村学園大学	琉球大学 鹿児島県立短期大学 九州情報大学 福岡国際大学・福岡女子短期大学	熊本大学 北九州学術研究都市学術情報センター 西日本工業大学 福岡国際大学・福岡女子短期大学
平成28年度 (67)	九州大学	国 公 私 短 鹿屋体育大学 九州歯科大学 沖縄国際大学 鹿児島純心女子短期大学	福岡教育大学	佐賀大学 北九州学術研究都市学術情報センター 長崎総合科学大学 鹿児島女子短期大学	福岡教育大学 福岡女子大学 沖縄キリスト教学院大学 鹿児島女子短期大学
平成29年度 (68)		国 公 私 短			

九州地区大学図書館協議会総会当番館一覧

回次	年度	県別	大 学
1	25	福岡	九州大学
2	26	熊本	熊本大学
3	27	長崎	長崎大学
4	28	佐賀	佐賀大学
5	29	鹿児島	鹿児島大学
6	30	宮崎	宮崎大学
7	31	大分	大分大学
8	32	福岡	西南学院大学
9	33	福岡	九州大学
10	34	熊本	熊本大学
11	35	福岡	九州工業大学
12	36	長崎	長崎大学
13	37	福岡	福岡大学
14	38	佐賀	佐賀大学
15	39	福岡	福岡教育大学
16	40	宮崎	宮崎大学
17	41	福岡	八幡大学
18	42	鹿児島	鹿児島大学
19	43	福岡	九州大学
20	44	熊本	熊本商科大学
21	45	福岡	久留米大学
22	46	大分	大分大学
23	47	福岡	北九州大学
24	48	長崎	長崎大学
25	49	福岡	九州産業大学
26	50	佐賀	佐賀大学
		〃	佐賀龍谷短期大学
27	51	沖縄	琉球大学
28	52	福岡	九州大学
29	53	大分	大分大学
30	54	宮崎	宮崎大学
31	55	福岡	九州歯科大学
		〃	福岡女子大学
		〃	福岡県社会保険短期大学
32	56	熊本	熊本女子大学
33	57	鹿児島	鹿児島大学
		〃	鹿児島県立短期大学
		〃	鹿児島経済大学

回次	年度	県別	大 学
34	58	福岡	西日本工業大学
35	59	長崎	長崎大学
36	60	宮崎	宮崎医科大学
		大分	大分県立芸術短期大学
		宮崎	南九州大学
		長崎	純心女子短期大学
37	61	福岡	九州芸術工科大学
38	62	佐賀	佐賀医科大学
39	63	沖縄	琉球大学
40	平成元	福岡	北九州大学
41	2	大分	大分医科大学
42	3	鹿児島	鹿屋体育大学
43	4	福岡	西南学院大学
44	5	熊本	九州東海大学
45	6	宮崎	宮崎産業経営大学
46	7	福岡	九州工業大学
47	8	長崎	長崎大学
48	9	鹿児島	鹿児島経済大学
49	10	福岡	福岡女子大学
50	11	佐賀	佐賀大学
51	12	沖縄	沖縄国際大学
52	13	福岡	九州女子大学
53	14	大分	大分大学
54	15	宮崎	宮崎大学
55	16	福岡	福岡教育大学
56	17	熊本	熊本大学
57	18	鹿児島	鹿屋体育大学
58	19	福岡	九州大学
59	20	長崎	長崎大学
60	21	沖縄	琉球大学
61	22	福岡	福岡県立大学
		〃	九州歯科大学
		〃	北九州学術研究都市(学術情報センター)
62	23	佐賀	佐賀大学
63	24	鹿児島	鹿児島大学
64	25	福岡	福岡教育大学
65	26	大分	大分大学学術情報拠点
66	27	宮崎	宮崎大学

回次	年度	県別	大 学
67	28	福 岡	九 州 大 学
68	29	長 崎	長 崎 大 学

伊藤伊の **ここが違う!**

スチール製ブックトラック

完全溶接止め

ノックダウン（組立方式）と違い、ビスを使わないので大変丈夫です。また、ビスの所の隙間がないので本体がグラグラしたり、ビスが緩んだりする心配がありません。

安全で握りやすい 完全丸パイプ

角を丸くし、お子様にも安全な設計になっています。

安全な丸加工の棚板

棚板も安全な丸加工。

余裕の耐荷重と十分な 静音性

積載量に対して余裕を持った耐荷重のキャスターを採用。強度抜群のスチールホイールと走行音の静かなゴム車を使用しています。

ガード付



小型ブックトラック 水平 2段
7425 | ￥42,000 (税抜き) W465×D320×H840



ブックトラックB型 水平 3段
7417 | ￥56,000 (税抜き) W800×D350×H970



ブックトラックC型 水平 3段
7405 | ￥80,000 (税抜き) W800×D430×H1070

他にも、スチール製カラーや、木製ブックトラック等、豊富なラインナップ!



小型ブックトラック 傾斜片面 2段
7426 | ￥47,400 (税抜き) W550×D340×H965



小型ブックトラックS型 傾斜片面 2段
7498 | ￥34,000 (税抜き) W550×D340×H940



ブックトラックA型 傾斜片面 3段
7416 | ￥61,000 (税抜き) W700×D340×H1166



ブックトラックY型 傾斜片面 4段
7410 | ￥68,000 (税抜き) W700×D340×H1166



ブックトラックH型 傾斜両面 3段
7406 | ￥80,000 (税抜き) W700×D470×H1070



ブックトラックM型 傾斜両面 3段
7408 | ￥92,000 (税抜き) W700×D520×H1070



ブックトラックD型 水平 1段 + 傾斜両面 2段
3409 | ￥68,000 (税抜き) W700×D470×H1070



株式会社 伊藤伊

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-10
TEL (03)5689-6230(代) FAX (03)5689-6232

九州・山口地区 代理店 TEL (092) 863-0128
(L・キスト) FAX (092) 863-0127

アイデアを生み出す多彩なしつらえで
アクティブラーニングを加速する。



見渡しやすい低めのテーブル高さ

天板上の情報が俯瞰しやすい620mmのテーブル高さ。低めのテーブルを囲んでの作業は、チームの一体感につながります。



ホワイトボード天板

座ったまま書けるため、アイデアの共有がしやすく、グループ全員で活発なアイデア出しが行えます。



しっかりした個人作業天板

個人作業はチェア为天板で行います。A3サイズで天板強度があり、荷物が落ちにくいエッジ形状で安心して作業に取り組みます。

SCRUM[®] スクラムシリーズ

「アクティブラーニング」を実現する教育施設用家具シリーズ。
グループワークには一体感を演出し、レクチャー・演習・プレゼンなどの
講義スタイルにもフレキシブルに、スピーディーに対応します。



チェア 天板付タイプ



チェア 天板なしタイプ

NALIS

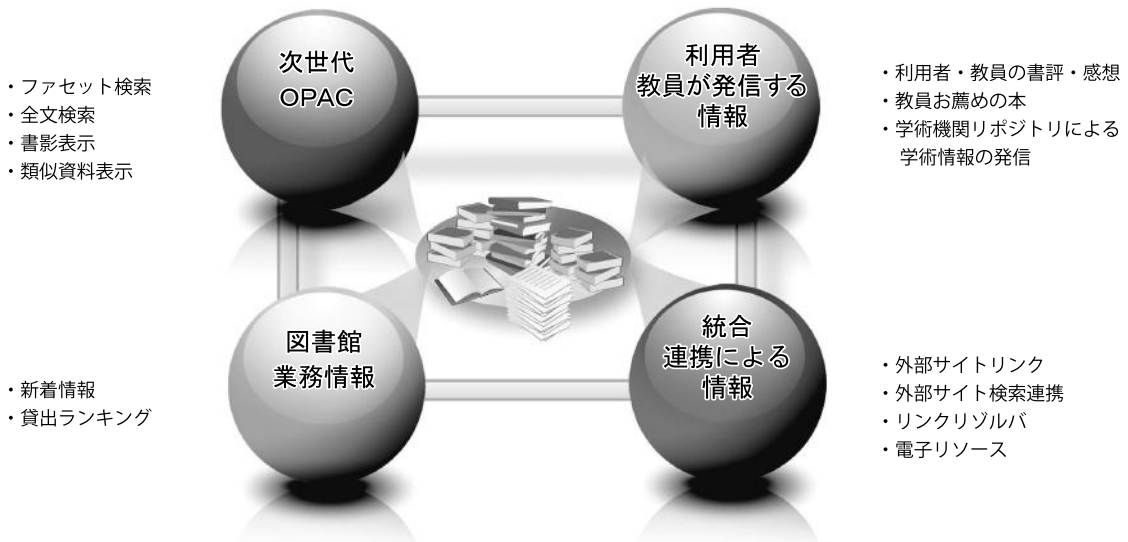
NTT DATA
Global IT Innovator

図書館の全業務をカバーする
「図書館情報システム」
規模や運用に応じて、
柔軟かつ拡張性に優れた構成が可能です。

利用者の資料入手を強力にサポート



NALISは『次世代OPAC』、『利用者・教員が発信する情報』、『図書館業務情報』、『統合・連携による情報』の4つを柱として利用者を強力にサポートします。

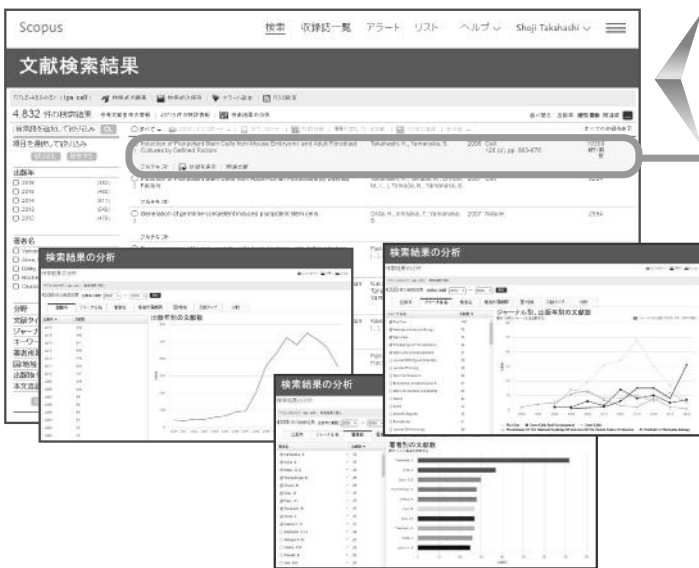


お問い合わせ・ご相談は下記までどうぞ
株式会社 NTT データ九州
公共基盤事業部 文教ビジネス部 営業担当
Tel : 092-475-5145 Fax:092-475-5152
HP: www.nttdata-kyushu.co.jp

Scopus®

世界最大級の抄録・引用文献データベース

Scopus (スコパス) は、全分野 (科学・技術・医学・社会科学・人文科学) を網羅する、世界最大級の抄録・引用文献データベースです。世界 5,000 以上の出版社の逐次刊行物 22,000 タイトル、会議録 90,000 イベント、書籍 130,000 タイトルを収録しています。

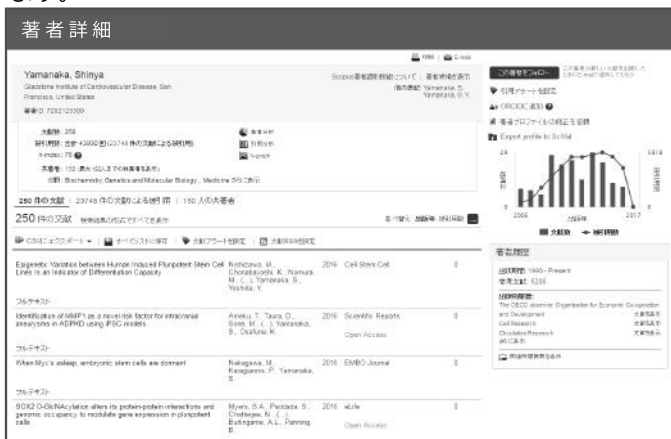


● 検索結果の内訳表示・絞り込み

出版年、発表論文数の多い著者名、ジャーナル、著者所属機関などのさまざまな観点で絞り込んだり、トレンドをグラフ表示したりできます。被引用数で並べ替えることも簡単です。

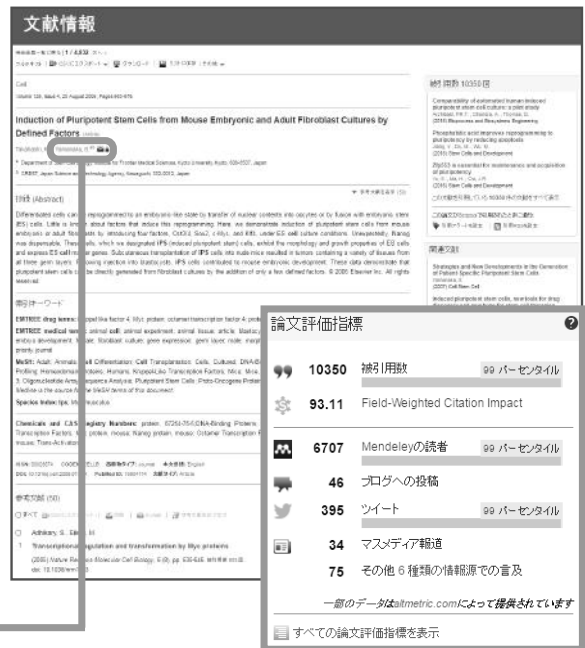
● 詳細な論文評価指標

抄録+参考文献ページでは、単純な被引用数に加えて、分野を補正した被引用のインパクトやベンチマーキング、Mendeleyへの保存回数、論文以外の媒体からの言及回数などを確認できます。



● 高精度の著者プロフィール

高度なアルゴリズムを使用し、同姓同名を区別する名寄せ機能を備えています。著者プロフィールで、特定の著者の論文リスト、共著者、h-indexなどを確認できます。



エルゼビア・ジャパン株式会社

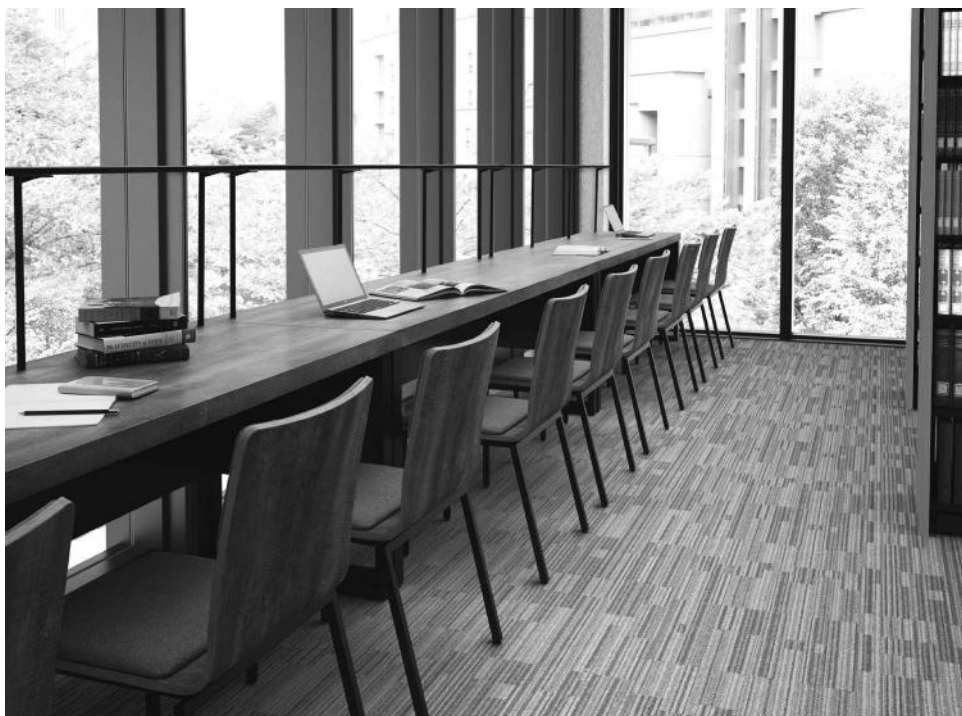
リサーチソリューションズ
106-0044 東京都港区東麻布 1-9-15 東麻布 1 丁目ビル 4 階
TEL:03-5561-5034 jp.pr@elsevier.com
http://www.elsevier.com/jp

© 2016 Elsevier B.V. all rights reserved

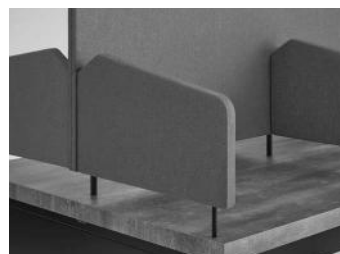
ICO | 図書館を憩いの場に。

閲覧テーブル[イコイ]

シンプルなデザインと多様な形態で図書館内の様々な空間に対応し、落ち着いた風合いのある空間を演出します。



落ち着いた風合いのクロスパネルが、対面とのプライバシースペースを確保します。



サイドパネルは個人の空間を作り、集中できる環境を作り出します。



幕板・側板を標準装備。脚元のプライバシーを守ります。



幕板には配線を収納でき、テーブル下をすっきりさせることができます。



KONGO LIBRARY PLANNING

金剛はライブラリー設備・用品のプランニング企業として、
ライブラリー空間づくりをお手伝いします。

自動書庫 **BOOK ROBO**

自動書庫・ブックロボは、従来の閉架書庫に係わる業務を自動化することで
図書館スタッフの業務負荷を軽減し、より充実した図書館サービスの提供に注力できる環境を整えます。



■ご採用館 ※順不同

- 九州大学新中央図書館(154万冊)
- 福岡大学図書館(138万冊)
- 國學院大學図書館(100万冊)
- 大阪経済大学図書館(44万冊)
- 奈良女子大学附属図書館(25万冊)
- 聖マリアンナ医科大学医学情報センター (明石嘉聞記念図書館) (20万冊)
- 西南学院大学図書館(80万冊)
- 九州大学伊都図書館(80万冊)
- 高崎市立中央図書館(40万冊)
- 東京農業大学図書館(61万冊)
- 東海学園大学図書館(23万冊)



金剛株式会社

www.kongo-corp.co.jp

熊本本社 / 熊本市西区上熊本 3 丁目 8-1

福岡支店 / 福岡市東区名島 3 丁目 2-10

支店・営業所 / 仙台・東京・静岡・名古屋・金沢・大阪・岡山・広島・高松・北九州・
福岡・大分・佐賀・長崎・熊本・八代・天草・宮崎・鹿児島・沖縄・台湾

TEL (096)355-1111 (代)

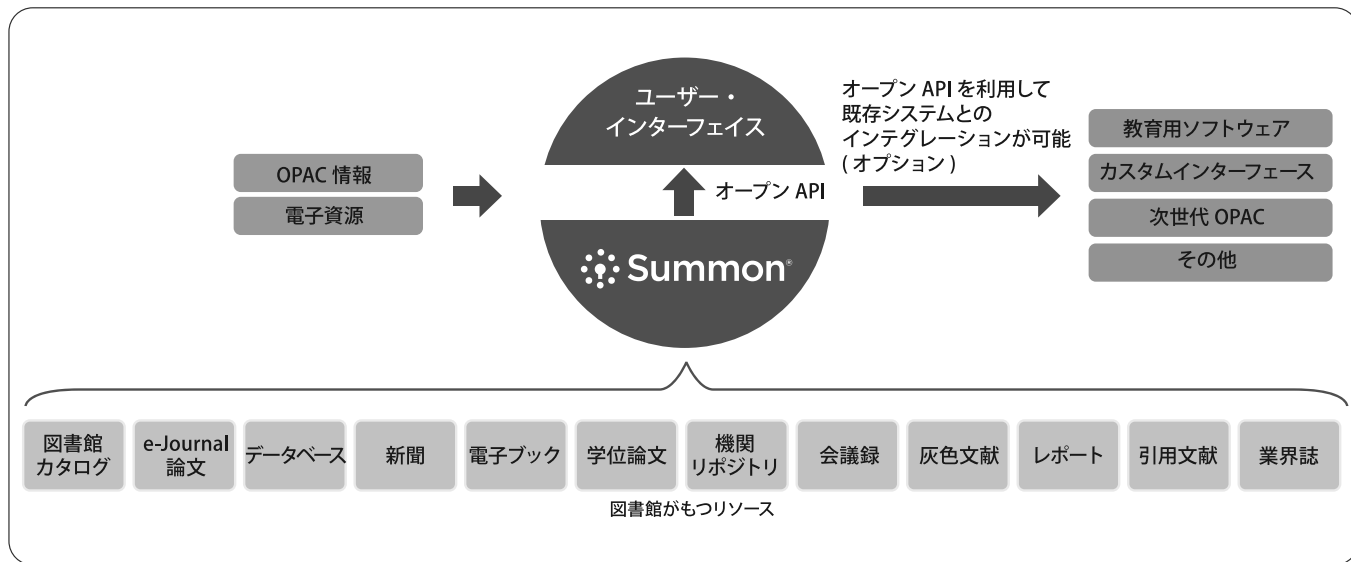
TEL (092)681-6286



これまで見つけることが困難だった資料でも たった1つの検索窓から瞬時に見つけられます！

Summon は統合検索や次世代 OPAC を越える全く新しい検索サービスです。シンプルなインターフェイスから図書館独自の広範囲で信頼性の高い情報へすばやくアクセスすることができます。

図書館の所蔵資料や契約データベース・電子ジャーナル、機関リポジトリ、オープンアクセス誌といった図書館で利用できるすべてのリソースのメタデータをあらかじめハーベスティングさせる手法でこれまでにない検索スピードを実現しました。



POINT 1

すべてのリソースを一度に検索

すべてのリソースをたったひとつの検索窓から見つけることができます。現在のインターネットユーザーのニーズを満たす新しい学術情報の検索スタイルを提供します。

POINT 2

信頼のおけるコンテンツだけを検索

検索対象はすべて図書館のコンテンツです。信頼性が高く、しかも入手可能なコンテンツにのみアクセスすることができます。

POINT 3

瞬時に検索結果を表示

図書館で利用できるすべてのリソースのメタデータをあらかじめハーベスティングさせるので、Google などの検索スピードを実現します。



図書館システムと連携して 所蔵・貸出情報を リアルタイムで表示

冊子の検索結果には現在の貸出し状況や保管場所が表示されます。検索結果をクリックすると図書館 OPAC のライブリンクになっています。

availability: 貸出中, 中央図書館所蔵

SaaS 型サービスなので 導入・メンテナンスの 手間がかかりません

Software as a Service(SaaS) で提供されるため、サーバーの設置やアップデート、メンテナンスといった作業に人員を割く必要はありません。常に最新で最適な状態でサービスを利用することが出来ます。

目的の資料への確にナビゲートします

ファセット機能によりフォーマット、主題、出版年などによる絞り込み検索を効率的に実行できます。また、360Link などのリンクリゾルバと連携して該当の資料に確実にたどり着くことができます。

360 360 LINK

新しい Web サービスが スタートしました

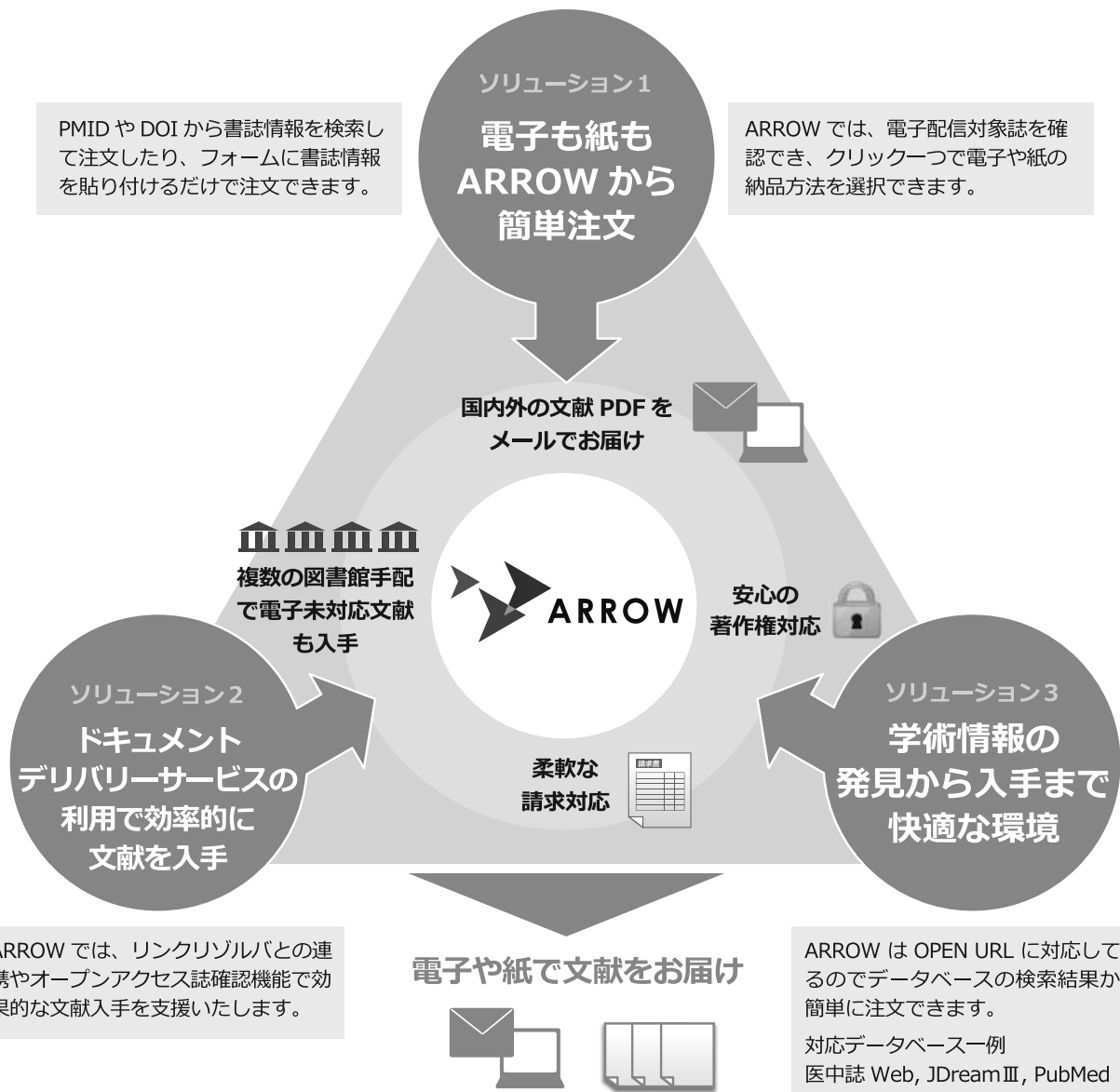
～文献の入手をスマートに～



ARROW

ARticle delivery for Researchers Of the World

**ARROW は文献の発見・入手・利用まで
すべての段階をサポートする Web サービスです**





図書館ソリューション営業部プロフィール

図書館を取り巻く環境が大きく様変わりするなか、ナカバヤシはソフト・ハードの両面から、図書館の持つ可能性を最大限に生かすためのご提案を続けます。

製 本

創業以来の豊富なノウハウと高い技術力で、さまざまな製本に小ロットから大量発注まで柔軟に対応します。

- 雑誌合冊製本 論文製本 新聞製本 カルテ製本 簡易製本 図書修理製本
 貴重書・古書修理製本 行政文書製本 和綴じ製本 帙・四方帙作製

資料保存

資料の劣化・保存状況、目的・ご要望に合わせて適切な保存処置・環境の整備をご提案しています。

- 中性紙保存箱の作製 脱酸性化処理 裏打ち・すきはめ 軸装・額装の再仕立て
 エンキャプスレーション 環境調査・書籍クリーニング・燻蒸

図書館サービス

図書館のパートナーとして、業務の効率化、図書館サービス・利用者満足度の向上に取り組みます。

- 雑誌受入整理・遡及入力 製本準備・受入 図書受入整理・遡及入力 装備
 閲覧・カウンター業務 蔵書点検 書籍移動・配架シミュレーション 指定管理

デジタル・ソリューション

コンテンツづくりから公開・運用まで、情報資産の保存・有効活用をサポートしています。

- 画像データ作成 テキストデータ入力 閲覧・公開システム・ホームページの構築
 機関リポジトリサービス 電子書籍の制作

図書館システム・サプライ

運用に欠かせないシステム・アイテムを数多く取り揃えています。

- 図書館システム 自動貸出装置 無断持出し防止装置 磁気テープ
 RFIDシステム 什器・図書館用品 ラベル・カード作成 オンデマンド印刷

カラー・コード・ソリューション

カラー・コード（カメレオンコード）を活用した、効果的・効率的な新しい蔵書管理ソリューションをご提案しています。

- N-CLASS** Nakabayashi Chameleoncode Library Assist Solution Service

ナカバヤシ株式会社 図書館ソリューション営業部

東京本社 〒174-8602 東京都板橋区東坂下2丁目5-1 TEL:03-3558-1251 FAX:03-3558-1260
 大阪支社 〒536-0005 大阪市城東区中央2丁目1-23 TEL:06-6930-6668 FAX:06-6935-2667
 名古屋支店 〒456-0053 名古屋市熱田区一番2丁目2-6 TEL:052-661-3771 FAX:052-661-3775
 福岡支店 〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭5丁目7-11 TEL:092-641-3661 FAX:092-641-3699
 札幌営業所 TEL:011-531-1006 仙台営業所 TEL:022-284-3045 横浜営業所 TEL:045-279-7884
 広島営業所 TEL:082-536-0250 高松出張所 TEL:087-831-5825

HP:<http://www.nakabayashi.co.jp/> E-MAIL:toshokan@nakabayashi.co.jp





《キノッピー》 Kinoppo



紀伊國屋書店ウェブストアで
電子書籍を1度だけ買う ▶

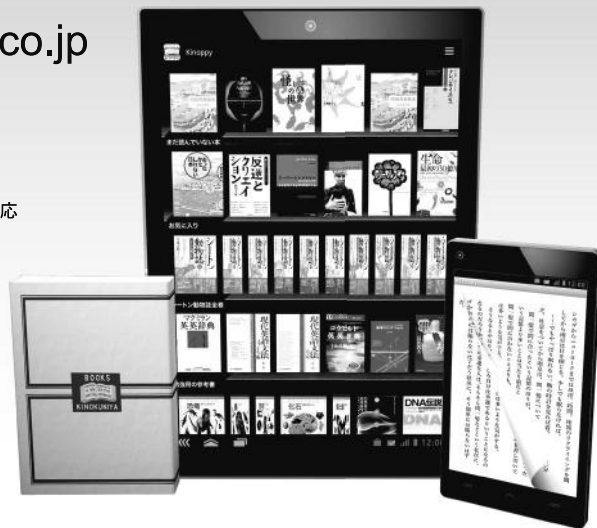
再購入なしで
多様な端末
で読める！

ウェブストア <http://www.kinokuniya.co.jp>
プロダクトサイト <http://k-kinoppo.jp/>

- ・マルチデバイス対応：iPhone、iPod touch、iPad、Android Tablet、Android Phone、Windows8.1、Windows PC、Mac PC、ソニー Reader に対応
- ・iPhone、iPod touch、iPad、Android Tablet、Android Phone はアプリを無料にてダウンロードして頂けます

九州営業部福岡営業所

福岡市博多区博多駅南1丁目3番11号
KDX博多南ビル6階
TEL (092) 437-5353



ジュンク堂書店

淳久堂書店

お店で選書ツアーができます

☆学生・先生・司書の皆さんで学校企画としていかがですか？
各階専門書・地下一階に1万5000冊の洋書売場も充実！
B1～4階フロア・140万冊の店舗で選書が可能です(要予約)

お問い合わせ先

E-mail fk-gai@junkudo.co.jp

福岡市中央区天神1-10-13 天神MMTビル

電話・092-738-3405 FAX・092-717-7321

広がります あなたの未来

政府刊行物

探したい本はここで見つかる。
政府刊行物のホームページ
<http://www.gov-book.or.jp/>

政府刊行物サービス・ステーション

天神：福岡市中央区天神 4-5-10(チサン天神 1F) 市役所：福岡市中央区天神 1-8-1(福岡市役所 B1F)

TEL(092)721-4846

TEL(092)722-4861

県庁：福岡市博多区東公園 7-7(福岡県庁 B1F)

TEL(092)641-7838

政府刊行物普及株式会社・福岡県官報販売所

福岡市中央区天神 4-5-17

TEL(092)761-1151 FAX(092)751-0385



空間を美しく演出する
ビブリオ書架

スチールの持つ堅牢性・経済性・機能性に加え、開架スペースに求められるデザイン性やオリジナリティも同時に満たします。

よりよい保管システムを提供する



日本ファイリング

日本ファイリング株式会社

本社 / 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2
支店 / 大阪・名古屋 営業所 / 札幌・仙台・広島・福岡

ISO14001
ISO9001
認証取得企業

お申込み・お問い合わせ

<https://www.nipponfiling.co.jp>

FUKUOKA KAIGAI LIMITED

洋書・洋雑誌・バックナンバー輸入販売



福岡海外株式会社

福岡市中央区天神4-1-18 〒810-0001

Tel: 092-741-2685 Fax: 092-741-8418

e-mail: fkaigai@lime.ocn.ne.jp



時代にそくした知の提供。 それが丸善雄松堂の最大の使命です。

明治2年、丸善雄松堂は、我が国の新しい時代の幕開けと同時に誕生しました。以来、洋書をはじめとする書籍、情報を通じて知にかかわり続け、知をその時代の社会や人々へお届けしてきました。

「知」とは世界、人間、物事の本質を知ること、人間がより人間らしく生きるための共通の営みだと考えます。

これからも、丸善雄松堂が考える「知」のご提供という使命を果たすべく、学習情報と課題解決に向けたソリューションのご提供により、皆さまのお役に立ちたいと思います。

Ⓜ MARUZEN-YUSHODO

丸善雄松堂株式会社【福岡支店】

〒815-0031 福岡県福岡市南区清水2-15-11

<http://yushodo.maruzen.co.jp/>

☆☆
いつでも、2つ星の印刷サービスを。

※2017年1月現在は2スターが最高位です。

すべてのお客様に、ご満足いただける印刷サービスと商品を。
ミドリ印刷はみなさまに、2つ星の印刷サービスをお届けしています。



CSR認定国内最高評価 2STAR認定。

ミドリ印刷は全国5090社の中で選ばれた17社のうちの1社です。

(全日本印刷工業組合連合会加盟)

九州地区大学図書館協議会誌 第59号

平成29年2月発行

発行 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学附属図書館内
九州地区大学図書館協議会

TEL (092) 642-2324

FAX (092) 642-2330

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>